弘前大学農学生命科学部・農学生命科学研究科

平成 25 年度　教育改善に向けたアンケート調査

報　告　書

平成 26 年 11 月 18 日

弘前大学農学生命科学部

自己評価委員会

巻頭言

農学生命科学部長　佐々木　長市

平成14年度に開始された「卒業・修了生を対象としたアンケート調査」が今年で１１回目となり、この結果の解析は、学部の教育研究に対する改善点や継続すべき点を我々に示してくれている。この取り組みは、学部では，自己評価員会が解析の労を執り、教育改善委員会とともに検討し構成員に有意義な情報や共通の悩みの解決の一端を示唆してくれていると考えている。

今日、「講義・授業方法，学生への教育指導方法の改善・工夫方法」についての検討は日常化してきている。本学部においても，年に数回の開催が恒例となっており，その中で大学院の教育のあり方を調査した事例は少ないと思われる。また、教員の教育に対する考え方を聞くという他に例を見ない「教員対象教育評価アンケート」がなされていることも大きな特色である。さらに、毎年欠かさず「卒業・修了生を対象としたアンケート調査」の結果報告会が開催され，委員会による分析結果に対して学部教員相互の意見交換も行っていることも特筆すべき取り組みである。

大学及び学部も学生に対する教育の質の向上を図るため，アドミッションポリシー、カリキュラムポリシーそしてディプロマポリシーの公開とこの方針に従った教育実施を目指している。これら方針の認識のもとに教育が実施されてこそ、初めて大学あるいは農学生命科学部らしい個性的な教育の深遠化が進むものと推察される。こうした認識を学部共通のものとし、教育の改革を進める一助にこの取り組みは大いに貢献している。

今回は、研究科が4専攻から１専攻5コースに改組後初のアンケート結果が掲載されている。修士研究については満足度が高いことやカリキュラムが進路進路選択には役に立ったとの評価も高く、初期の目的を達成していると推察される。また、学期もクオータ制となりその効果が懸念されていたが、教員からは学生の理解が深まるというメリットが指摘されている。本結果については、今後も継続的に調査する必要があるが、現時点では一応成功といえそうである。

平成25年度には７年毎に実施される大学の認証評価がなされました。「教育内容及び方法」の基準で、農学生命科学部のガイダンスの内容が適切であること、シラバスが学生にとって有効であることなどがこのアンケート結果により確認され、有用性を発揮しております。

平成25年度に文部科学省から求められた学部の「ミッションの再定義」では，育成する人物像や教育の改革の方向などのビジョンを明確にすることが求められた。こうした方向に鑑みた場合でも、「卒業・修了生を対象としたアンケート調査」は重要であり，これらの結果が本学部／研究科の教育の充実のために積極的に活用されることを期待したい。

最後に，本調査に対し、労をいとわずとりまとめて頂いた自己評価委員の各位に深甚なる謝意を表したい。

目次

巻頭言 1

はしがき 3

Ⅰ.学部卒業時学生対象　教育評価アンケート 4

１．アンケート調査内容 4

２．調査結果 6

Ⅱ．研究科修了時学生対象教育評価アンケート 60

１．アンケート調査内容 60

２．調査結果 62

Ⅲ．教員対象授業アンケート（学部授業および研究科授業） 88

１．アンケート調査内容 88

２．学部授業に関する調査結果 91

３．研究科授業に関する調査結果 100

Ⅳ　教員対象教育評価アンケート 111

1.　アンケート調査内容 111

２．調査結果 112

Ⅴ．アンケート調査結果に対する各学科の見解 133

生物学科 133

分子生命科学科 133

生物資源学科 134

園芸農学科 135

地域環境工学科 136

Ⅵ．教育改善委員会（平成２５年度教育改善にむけたアンケート調査についての意見） 138

学部卒業時・研究科修了時学生対象教育評価アンケートについて 138

教員対象授業アンケートについて 140

教員対象教育評価アンケートについて 140

はしがき

農学生命科学部の自己評価委員会は，学部ならびに研究科の教育の適正化，カリキュラムの改善などを目的に，学部４年の卒業予定学生及び研究科２年修了予定学生を対象にした授業評価と，各教員を対象とした専門科目の授業評価についてアンケート調査を実施してきた。平成 14 年度(15 年 2 月実施)以降，これまで 10 回行われ，今回は第 11 回目である。平成 17 年度からの調査では，それ以前の内容に加えて学生と教員を対象として教育評価アンケートが実施された。そのアンケートにおいては，学生および教員対象の各アンケートに同種の質問項目を設けており，学生と教員との間における意識の相違についても読み取れる。本年度もこれまでのアンケートとの継続性に配慮し，それらの内容を踏襲して次の４種類とした。

Ⅰ．学部卒業時学生対象教育評価アンケート

Ⅱ．研究科修了時学生対象教育評価アンケート（4 専攻から 1 専攻 5 コースへと改組後、初の修了生が対象）

Ⅲ．教員対象授業評価アンケート　・学部授業に関する調査　・研究科授業に関する調査

Ⅳ．教員対象教育評価アンケート

各アンケートの設問内容は，それぞれのアンケート調査結果の冒頭に示した。設問は主に選択肢の中から１つを選ぶものと，その回答理由を記述させるもので構成した。選択肢として，「強くそう思う」，「そう思う」，「どちらとも言えない」，「そう思わない」，「全くそう思わない」等の５段階を設定した場合は，順に 1～5 の番号を付して選択するものとした。設問の回答に関する分析では，「強くそう思う」と「そう思う」を併せて「肯定的な評価」とし，「そう思わない」と「全くそう思わない」を併せて「否定的な評価」とした。また，学生の回答理由の記述は，明らかな誤字や個人名以外は，できるだけ原文のまま箇条書きで記し，各学生が選んだ選択肢番号を行頭に付し，学科別に掲載した。

本アンケートの設問の設定については，昨年度と同様大きな変更はせず，設問の趣旨が的確に受け取られるような範囲の変更にとどめている。これは，本報告書の内容は，教育改善や組織評価等に活用されると想定され，さまざまな取り組みの成果や問題点の把握を可能にする経時的データの役割もあると考えたためである。

本アンケートの結果は教育改善に活用されるべきことから，昨年度と同様に教育改善委員会と各学科の学科長にも本報告(案)の一読を願い，それに対する見解，意見を提出してもらい，本報告の最後に掲載した。

今回の卒業・修了時学生によるアンケート結果にも，本学部・研究科の授業や教員の教育方法に対して厳しい意見や，教育体制に関する建設的な意見が数多く含まれている。関係各位および教育改善委員会におかれては，カリキュラムの教育内容や方法の改善のためにはもちろん，教育体制の充実を図るためにも，それらを大いに参考にされることを望む。

Ⅰ.学部卒業時学生対象　教育評価アンケート

１．アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学部の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため，４年間この学部で教育を受け，今まさに卒業しようとしている学生を対象に，学部教育について総合的な評価を得ることを目的とした。

調査方法：指導教員をとおして研究室所属の学生にアンケート用紙を配布し，無記名方式で行った。回収は正面玄関に設置した回収箱で行った。

調査対象：平成 26 年 3 月学部卒業予定者 179 名

調査期間：平成 26 年 2 月 18 日～3 月 20 日

有効回答者数：121 名　（回答率 68%）

調査項目：設問は以下のとおりである。（ただし，下記の[　]の項目名は，回答結果の分析にあたってグループ化のために設けたものである。）

設問 1．あなたの所属学科をお答えください。

[学部・学科の教育目標等の認識]

設問 2．本学部の教育理念，教育目的および教育目標を知っていますか。

設問 3．あなたが所属する学科の教育目標および入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

(1) 教育目標について　　(2) アドミッションポリシーについて

設問 4．

(1)あなたが所属する学科の教育目標は添付資料の通りですが，学科のカリキュラム（21 世紀教育科目および専門教育科目）はその目標に合致していると思いますか。

(2)上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

[学科の専門教育について]

設問 5．本学部では年度初めに学年毎にガイダンスを行っていますが，ガイダンスの内容は適切だったと思いますか。

設問 6．シラバスは受講科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。

設問 7.

(1) あなたが所属する学科で受けた専門教育に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

[教員の指導について]

設問 8.

(1) 所属する学科の教員の，講義・実習・演習などにおける学生への指導や対応に満足していますか（卒業研究については設問 15 で別に聞きます)。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 9．履修した科目の成績評価について質問します。

(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。

(2) 疑問や異議があったときは，学部教務に「成績評価の問い合わせ」を提出し問い合わせできることになっていますが，あなたはそれをしましたか。した場合，その回答に満足しましたか。具体的に記入して下さい。

[学生の主体的学習について]

設問 10. 講義や演習の受講に当たり，あなたは 1 日平均どの程度の時間を予習や復習に当てましたか。教員が課した課題に対するレポート作成に要した時間も含みます。

設問 11. 大学教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。

(1) あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。

(2) 実験・実習についてはどうですか。

(3) 大学在学中のカリキュラム（21 世紀教育も含む）の中で，もっとも印象に残った科目があれば，その科目名と理由を記入して下さい。

それぞれについて簡潔に記入して下さい。

[学生への教育支援，施設・設備について]

設問 12. 本学部や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，下記のような 10 のルートを用意しています。在学中あなたは次の(1)～(3)の項目について主にどれを利用しましたか。（ ）内に番号を記入して下さい。 (1) 学業（ ） (2) 学生生活（ ） (3) 進路（ ）

設問 13. 本学部図書室の利用について質問します。

(1) あなたは在学期間を通して，平均どのくらい利用しましたか。

(2) 以下の項目について，どのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。

設問 14. 本学部の以下の施設について，どのように感じていますか。

(1) 下表の該当する欄に○を書き込んで下さい。

(2) 各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

[卒業研究について]

設問 15.

(1) 卒業研究を行ったことに満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 16.

(1) あなたの卒業後の進路は次のどれですか。

(2) 本学部のカリキュラムで学んだことは，進路の決定にどのように影響しましたか。

(3) 本学および本学部の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

[本学部の教育のあり方について]

設問 17.

(1) あなたが本学部を卒業するに当たり，大学卒業者としての知識や学力を身に付けたと感じていますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 18.

(1) 本学部の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を，次の項目の中から一つを選んで下さい。

(2) 上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。

設問 19.

(1) 総合的に判断して，本学部・学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を記入して下さい。

２．調査結果

設問１．あなたの所属学科をお答えください。

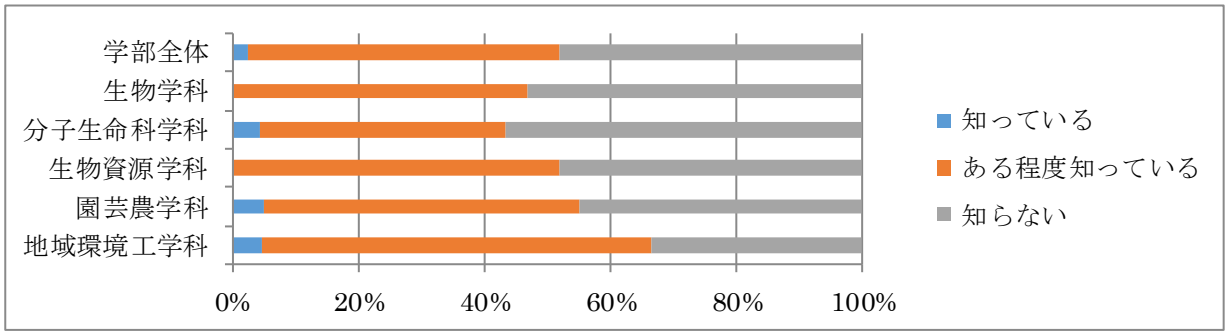
表Ⅰ－１．各学科の卒業生と回答者数の推移

	H25 年度			H24 年度			H23 年度		
	卒業生数	回答者数	回答率（%）	卒業生数	回答者数	回答率（%）	卒業生数	回答者数	回答率（%）
生物学科	42	32	76	43	28	65	36	27	75
分子生命科学科	36	23	64	45	26	58	39	28	72
生物資源学科	35	25	71	41	24	59	29	24	83
園芸農学科	39	20	51	44	31	70	38	19	50
地域環境工学科	27	21	78	30	19	63	31	23	74
合　　計	179	121	68	210	132	63	187	130	70

平成 25 年度の卒業予定学生 179 名のうち、回答者は 121 名、回答率は 68%であり、昨年度に比べやや上昇したが、回答率が依然低かった。アンケートを配布前に学生への依頼・通知方法に工夫する必要がある。

[学部・学科の教育目標等の認識について]

設問 2. 本学部の教育理念，教育目的および教育目標を知っていますか。

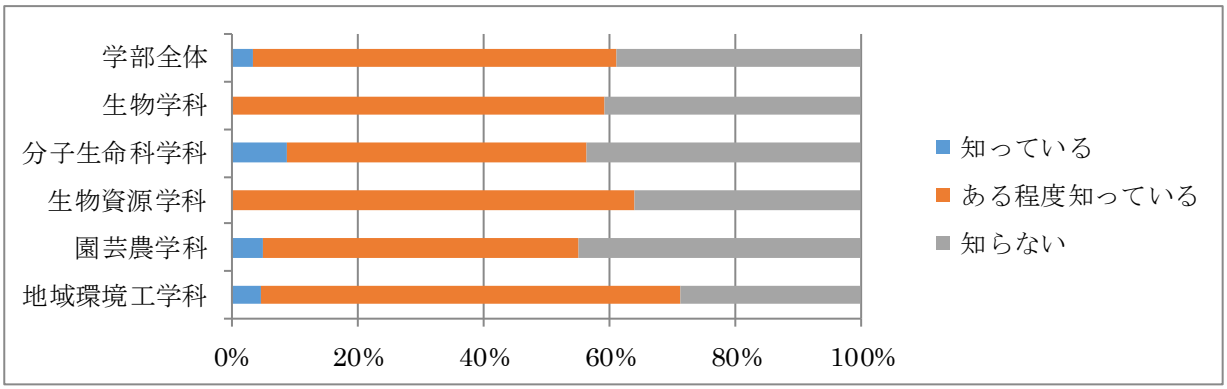


図Ⅰ－１．理念、教育目的および教育目標の認識

学部全体で見ると、「知っている」と「ある程度知っている」の合計は 50%強で、過去２年と比べて変化はない。しかしながら、生物資源学科、園芸農学科と地域環境工学科が大幅上昇したのに反して、生物学科と分子生命科学科が大幅減少するなど、学科間の差が依然大きい。各学科が教育理念の説明方法について経験交流する必要があると考えられる。

設問3. あなたが所属する学科の教育目標および入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

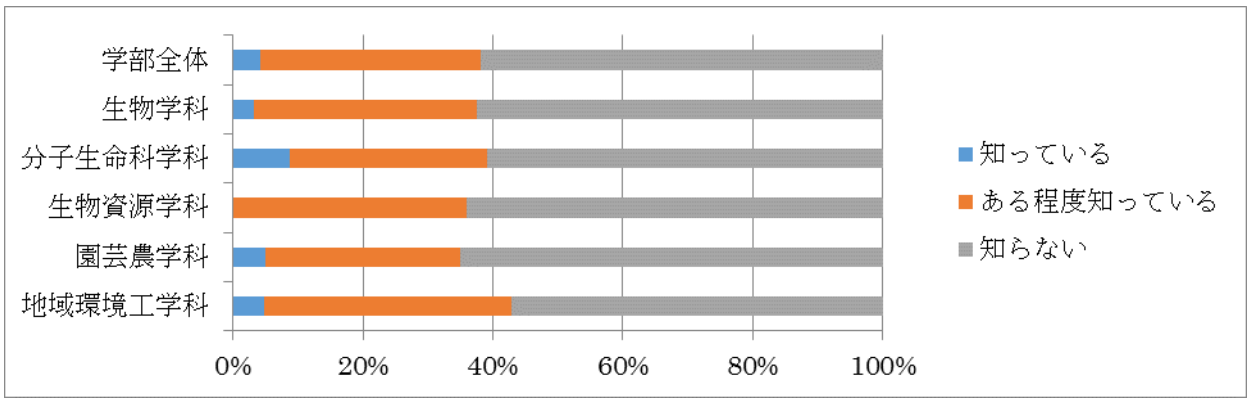
(1) 教育目標について



図Ⅰ-2．学科の教育目標の認識

学部全体では、「知っている」と「ある程度知っている」の合計は 60%強で、昨年度と比べて約 10%増加した。各学科とも知っている」と「ある程度知っている」の合計は増加しており、概ね学生にはガイダンスを通じて理解されてきていると考えられる。

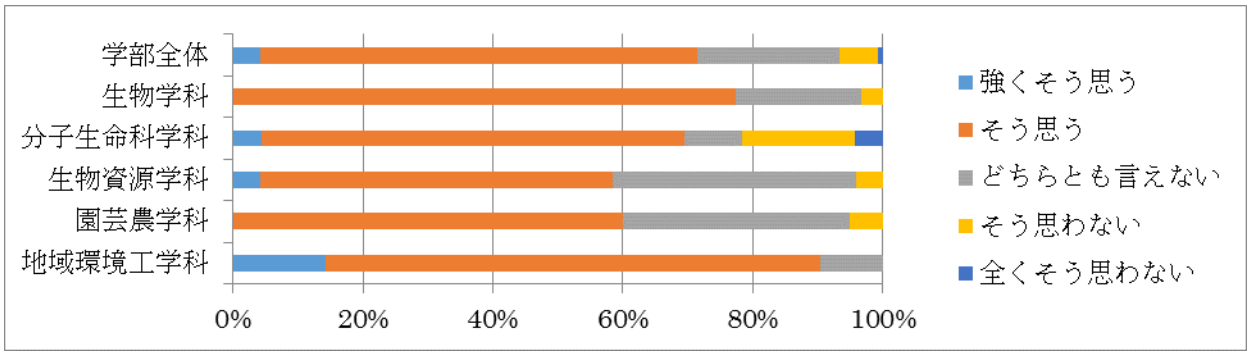
(2) アドミッションポリシーについて



図Ⅰ-3．学科の入学者受け入れ方針の認識

学部全体では，「知っている」と「ある程度知っている」の合計は 40%弱であり，昨年度とほぼ同程度である。学科別では，地域環境工学科が 45%で最も高く、他の 4 学科は 40%弱でほぼ同程度であった。学科間の差が例年と比べて小さかった。

設問４．(1)あなたが所属する学科の教育目標は添付資料の通りですが，学科のカリキュラム（21世紀教育科目および専門教育科目）はその目標に合致していると思いますか。



図Ⅰ－４．学科の教育目標とカリキュラムの合致

学部全体で見ると、肯定的な評価が 70%強で、昨年度より約 10%増加した。否定的な意見は分子生命科学科が最も多いことに対し、地域環境工学科の皆無が注目される。

(2)上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない 4. そう思わない
5. 全くそう思わない

[生物学科]

2　用意されている講義は合致していると思う。ただ受けられる講義受けられない講義があるので（学年によって）そこを何とかして欲しいです。
2　様々なレベルでの授業をとることができたため。
2　実行できていると感じるから。
2　生物学の広い基礎的な知識を学ぶ事ができたと思うから。
2　専門科目については同じ学科やそれに興味のある人のみで授業を行っているので，目標を達成しやすいと感じるが，21 世紀では全学部共通なので，必ずしも興味のあることや関係することだけとは限らない気がした。
2　自然環境の保全に対するイメージを実感し，研究を取り組むモチベーションが上がったため。
2　実際にうけておおよその授業について合致していると思いました。
2　専門分野で様々な知識が身についたから。
2　授業の内容は教育目標にあっていると思う。
2　生物学科は農学（生態系）と生命科学（基礎生物学）の 2 コースがあるが，双方のコースの教員による講義実験を受講することができるため。
2　実際に経験してそのように感じたから。

2　資料の目標に書かれていることは一通り行ったはず。
2　生物に関する各分野の基礎を学びその後自分がより深く学びたいと思う分野へ進むことができるという形があり，学科全体で教育目標を達成出来る状態にあるため。
2　虚位浮く目標通りのことを自分は身につけ学んでいると感じているから。

2　21 世紀教育科目で学べる分野が多いため。
2　基礎生物学だけでなく農学系の科目も履修することによって，余裕をもって卒業所要単位を満たせるようにカリキュラムが組まれているため。
2　基礎生態のどちらにも合った授業を選択できるから。
2　専門的な分野も学べる環境にあると感じたから。
2　自分が望んだ教育を概ね学べた気がするから。
2　「弘前大学」だから。
2　ほぼ合致していると思う。
3　基礎生物学的な部分は合致していると思う。生態学の部分は，合致していないと思う。生態コースに進んだ人は，合致するのかも。
3　カリキュラムの名前だけ見ればバランスがとれていると思うが，内容が各教員間での連携がないためか，近すぎたり遠すぎたりして理解しづらい。
3　大学卒業後の進路として教育目標に記載しているような職業に就いた人をあまり聞いたことがないから（生物学とは関係のない職に就く人が多いきがしたから）。
3　実習をもっと増やしてほしかったから。
4　1，2 年生で受けていた 21 世紀教科では，既に知っていることの復習であったし，英語は英会話教室に通っているレベルの授業でした．これといってこの 2 年で力がついたとは思えません。

［分子生命科学科］
1　その通りの研究を行っている研究室があるから。
2　広い範囲で学ぶ事が出来たと思うから。
2　幅広く生命現象について学べるから。
2　教育目標を広く網羅している。
2　特に専門科目の必修を通して，目標に出てくるような内容を広く学べたと思う。
2　学科の教育目標に登場するキーワードすべてについて講義や実習で学べたと思うから。
2　講義として存在するから。
2　目標としている教育以外の教科（講義）がほぼ存在しないため。
2　教育目標にあるように広い範囲のカリキュラムがあるため。
2　分子生命科学科は多分野の専門知識をある程度理解し，関連させて考えなければならないため。
2　21 世紀教育科目では生物や化学の分野を中心に幅広いことを学び専門教育科目ではそれらをもとに深い知識を学ぶ事ができたため。
2　授業実験を通して，専門的技術を身につけることができるから。
3　授業をまんべんなく履修すれば，ほとんどの分野の基礎知識を学ぶことはできるが，実際の研究の馬で知識を使うには学ぶ内容が浅いため。
4　最先端技術と書いているが，そうとは思えないから。
4　広く浅い知識は得られたが応用までは出来なかったから。
5　最先端のベースとなることは教えていても，最先端のことについてはあまり教えられていない

[生物資源学科]

1　目標にあるような講義が必修となっているから。
2　講義や実験の内容が目標に合っていると思う。
2　教育目標にある各分野も担当できる知識と技術を身につけた人材となれるように，各分野の講義も幅広く実習の内容も各分野で幅広く行っていると感じました。
2　「食」に関わる食品化学・食品栄養学・食品衛生・食品機能などの食品分野・新品種改良など作物に関わる分野・病害管理などの環境保全型農業の分野・教員目標にあった幅広い分野を自由に学ぶ事ができたと思う。
2　バイオテクや植物の生理機能について学べたから。
2　自分の学びたいことを中心に，幅広い知識を身につけることができた。
2　目標にある内容について講義や実験で触れていると思う。
2　専門教育科目は幅広い領域を学ぶことができたため。
2　学科教育目標に挙げられている分野を一通り学習した後，食品に関わる内容または生物資源の改良や研究に関わることを学ぶ事ができるから。
2　興味のある分野の勉強ができました。
2　カリキュラムにそった授業があるため。
3　特になし。
3　専門科目は目標について学べるが，21 世紀科目は正直不要と思うものが多く教育目標とも関係ないと感じたため。
3　専門教育科目に関しては合致していると思うが，21 世紀教育科目においては必ずしも合致しているとは思えない科目もあった。
3　科目の幅が広すぎるから。
3　専門科目は自分に合った科目を選択していけばほぼ単位数がとれるが，21 世紀科目は自分に合った科目を選択しても単位数が足りず，特に関係ない科目でも取る必要があったため。
3　考えたことがないから。
3　興味のわくものもあればないものもあり，落差が大きいと感じています。
3　農業の環境的課題に対応することが理想となっているが，現実の学部 2 年生から統計学が必修ではなくなりそのおとに疑問を覚えるため。
4　食品管理者になるための授業が 4 年前期までであり，単位を取りにくいシラバスになっていると感じた。そのため，人材の育成を応援していないと思ったから。

[園芸農学科]

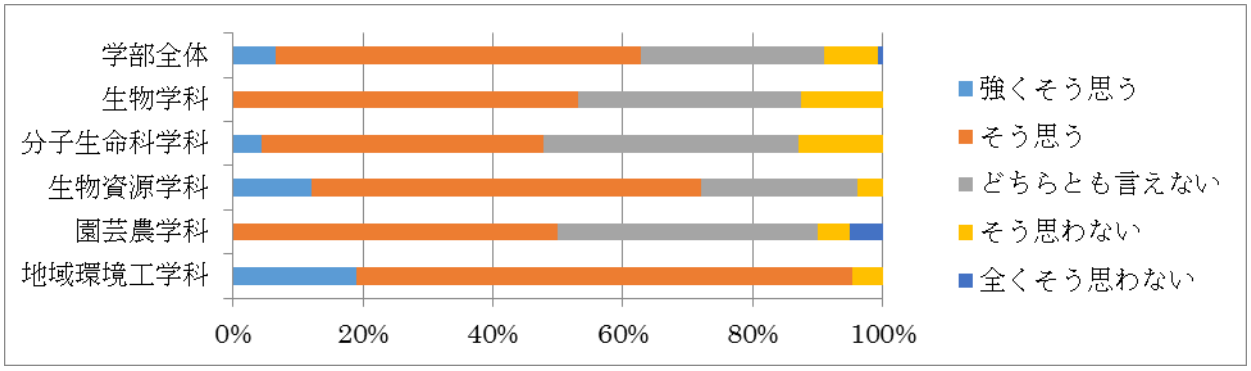
2　果樹学から生産機械学まで幅広く学べるから。人間性を豊にできるような幅広いジャンルの 21 世紀科目があるから。
2　講義の内容もしっかりと教育目標と一致していたため。
2　農業に必要なことを学べる，そしてそれを応用することができることが重要だと思うから。
2　農業生産から経済のことまで，広く学ぶことのできるカリキュラムであると思うから。
2　自分の知らない知見をたくさん得ることができたから。
2　様々な分野を学べるので良いと思った。
2　食と農業に関わる問題について幅広く学べたため。

2　果樹，作物，花卉，畜産など様々な分野について一通り学ぶことができ，食，農業についての問題を考える機会が多かったため。
2　1，2 年時を通して農場実習及び施設見学と言った課外活動が実施されていること。選択科目の自由度が高いこと。
2　農業についての幅広い知識とそれにまつわる知識を身につけられたため。
2　様々なことを学べたと思うから。
3　専門教育はあてはまると思うが，21 世紀教育のあり方は疑問である。
3　1，2 年時に受講できる専門科目が少なかったと感じられるから。
3　その目標が分からないため。
3　各分野の概況的な部分を学ぶことはあったが，各分野の繋がりがいまひとつ薄かったように感じる。
3　幅広く基礎的な知識を得たれたとは思うが，実際にゼミに所属した後に使用する知識にまでは至らなかったと思う。（専門的知識ではなく，統計学などのデータまとめについて）。
4　専門的な内容の講義はたくさん受けたが，そこで学んだ事が知識としてあまり身についていない気がするから。

［地域環境工学科］
1　実習や実技などで目標を強く感じることができたから。
1　講義を通して専門的知識を習得できた。下記の職場実習を通し，現場の方達の社会的責任を間近で感じることができた。以上のことから，この学科のカリキュラムは，その目標に合致していると思う。
2　専門的かつ実務的な内容を学べたと思うから。
2　基礎教育科目の定着から専門知識の修得，プレゼンの仕方など，様々な分野で役立つ知識を得ることができたと思うから。
2　土木系の科目が充実しているため。
2　良かったから。
2　専門分野に必要な科目が押さえられていることからそう思える。
2　就職活動に必要な科目と合致しているから。
2　基礎的な学習と専門的な学習のステップアップが出来ていると思ったから。
2　たいだい相違ない。
2　農業土木・計画か生態系・社会制度といった多方面にわたる分野は，21 世紀教育科目と専門科目で整えていると感じたため。
2　専門科目につながるものが多く，実際に基礎の知識をフルに活用するため。
2　農業土木がどのようなものなのか，大学で得た知識がどのように活かされるかを講義の中の随所で説明されていたから。
2　農業土木に関する専門的な知識を得ることが出来たから。
2　幅広い分野を学ぶことで土木技術者として地域を支えたいと思ったから。
3　21 世紀教育科目はわからないが，専門教育科目に関しては，どちらとも言えないと思う。やはり個人の意識だと思うが，しっかり知識が入っていて社会的責任を意識している人というのはいないと思う，すくなくとも同世代では。

3　　しらないから。

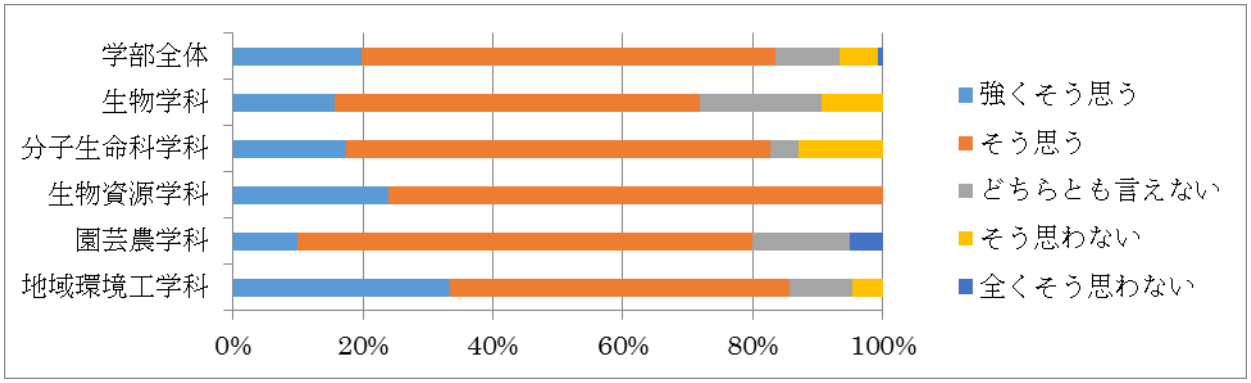
設問 5. 本学部では年度初めに学年毎にガイダンスを行っていますが，ガイダンスの内容は適切だったと思いますか。



図Ⅰ-5．ガイダンス内容が適切だったか

学部全体では、肯定的な意見の割合は昨年度よりやや減少した。地域環境工学科は昨年と同様に肯定的な評価が最も多く、園芸農学科が昨年度より大幅減少した。卒業単位に必要な科目はコースによっても異なるため、ガイダンスの説明には、さらに工夫が必要と考えられる。

設問 6. シラバスは受講科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。



図Ⅰ-6．シラバスは役立ったか

学部全体では肯定的な意見は昨年度よりやや減少しているが、80%以上で多かった。生物学科が昨年度に比べ大幅減少し、最も低かったが、生物資源学科は肯定的な回答が 100%であることが注目される。

設問 7. (1) あなたが所属する学科で受けた専門教育に満足していますか。

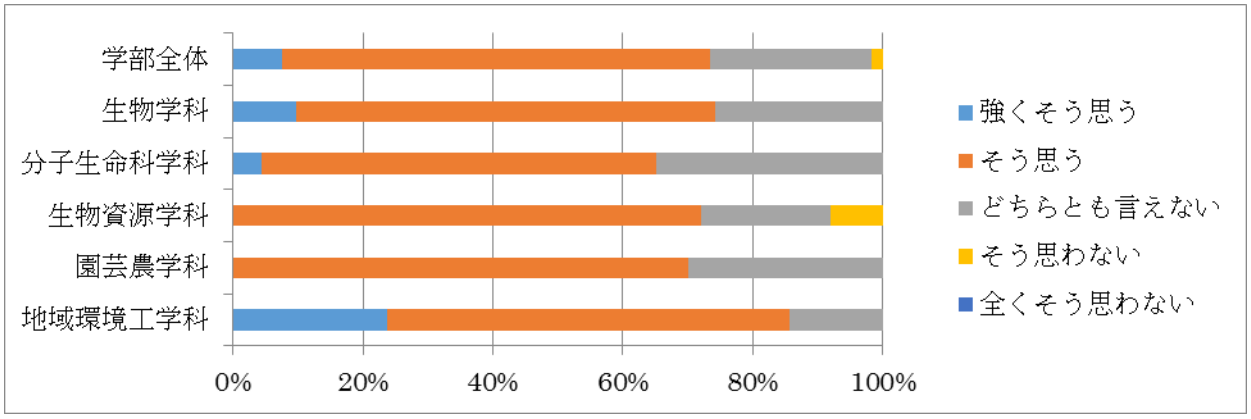


図 Ⅰ-7. あなたが所属する学科で受けた専門教育に満足していますか

学部全体では, 肯定的な意見が 73%であり昨年度の 77%よりやや減少した。また否定的意見が生物資源学科のみにあり、「どちらともいえない」が分子生命科学科に最も多かった。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない 4. そう思わない
5. 全くそう思わない

概ね好意的な回答が多かったが,「どちらとも言えない」の選択者で時間割の問題や, 専門科目の選択方法などに対する不満など, カリキュラム上の意見があった。今後改善してゆく余地があると考えられる。

[生物学科]

1 興味深い授業がたくさんあってよかった。もうすこし農学系の授業も受けたかった。
1 研究室における指導は非常に充実した指導を受けることができた。本当に感謝申し上げたい。
1 21 世紀科目で軽く触れた内容をさらに深く学ぶ事が出来た。強いて言うならば,, ゼミへの所属を決める 2 年後期までに, 学科教員全員の講義を受けてみたかった。
2 内容はとてもためになるものばかりでよかった。
2 1 つの専門教科で学習したことが, 他の専門教科でもいかすことができる形になっているため。
2 実際にフィールドワークなどを行えたため。
2 専門的な知識を多く得る事が出来たため。
2 好きな勉強をすることができた。
2 大半の講義が, 対象とする学問分野の概論的な内容であり, 講義によってはさらに自分自身で勉強してみようと思えるものだったため。
2 3, 4 年生で習ったことは, 卒業研究で活用し, 考察にも習った知識を活かすことができたとおもいます。
2 そう思うからとしか言いようがない。
2 様々な分野の専門がうけれてよかった。

2　「生物」やりたかったから。
2　専門知識が増えて，それがある程度役立っているから。
2　生物学の基礎研究を行うにあたって必要な知識を教わることができた。基礎生物学だけでなく，生態学も学ぶことができたので，幅広い分野の生物学を学ぶことができた。
2　自分の専門と関連するものも，しないものも自分の人生を豊にする内容だったと思うから。
2　高校では習えなかったことやより専門的なことを学んだり，実験したり出来たと思うから。
2　それぞれの分野の知識をより広く深く学ぶ事ができたため。
2　通常では学べないことが沢山まなべたから。野外実習ではより多くのことが学べました。
3　1 年生の時にもっと専門教育を増やした方が良いと思ったので。
3　自身の理解の及ばない点が多々あったため。
3　基礎的な専門知識をつけられる授業には満足しているが，中には知識面を中心とせず教授の思考を伝えるだけの宗教的な授業があった。
3　とても興味深いものもあればまったく何をいっているのかわからないものまであり，少し欲張りすぎな感がある。また，教員によって温度差がありすぎる。
3　進化についての専門教育を深くやってほしかったから。
3　結局，時間割や単位制限によって好きな授業（興味のある授業）を選択できなかったから。
3　先生によって授業の熱の入り方に差を感じたため。
3　学科として扱っている分野が広いが，授業もその広さを網羅する形で組まれている点は良いと思う。しかし，分野ごとの関わりをあまり感じられず，それぞれが独立している印象も受けていたので，関わりを持つ部分がある場合はそこのポイントを提示しえもらえるとより良くなると思う。

［分子生命科学科］
1　自身の研究でも助けられた知識が多々あったことや新しいことをどんどん学べることも楽しかったため。
2　必要な知識を広く深く学ぶ事ができた。
2　様々な分野を学ぶことが出来て良かった。
2　卒業研究を行うのに，ならった知識は非常に役に立ったため。
2　分子生物学や生化学を中心として，一通りの分野の基礎的な部分は学べたと思うため。
2　生命科学分野に関わる広い範囲の勉強ができた。
2　学びたいと思う分野を学ぶことができたから。
2　専門教育のことについて全く知識がない人に対しても説明できる程度の知識を得られたため。
2　難易度の高いものもあったが，全般的に見るとどれも理解出来，興味をもてるものもあったから。
2　結果として自分の内定先の仕事に生かせる内容が多かったから。
2　講義によって難易度が異なりましたが，幅広く学ぶ事ができたと思う。
3　わかりづらい授業が多かったため
3　自身の興味のないことも多く学ばなければいけないこと，また，他学科の授業を受けれる機会も少ない。学年による制約が厳しいきがする
3　とてもわかりやすいものもあれば，そうでないものも。

3　基礎教育が多かったため専門教育に入るのが遅かった。内容には概ね満足している。
3　研究室で利用できる知識があまり得られなかったから。
3　広く学ぶことはできたが,より深く学べる,大学院のような授業ももう少しあって欲しかった。
3　科目によって満足できるものとできないものがあったから。

［生物資源学科］
2　様々な分野を勉強できたため。
2　講義と実験の内容がリンクしていて,理解が深まったし,自分が興味のあることもわかって,その後の研究室の選択等の参考にもなった。
2　食品機能などの分野はかなり注目が高まっているし，ＴＰＰ参加でよりフローバルになっていると考えられる。食について，衛生面やバイオテクノロジー技術など知識を知っておいてよかったと思う。
2　特に作物生理学が基礎面と応用面をまなべたから満足。
2　受けることで自分のやりたいことがはっきりしたと思うから。
2　専門なので意欲がわく。
2　興味のある分野を学べたと思いました。
2　苦手なものもあったが，興味深いものが多く，今後にいかしたりニュースなどで出てきてもついていけそうだと思ったから。
2　十分に学ぶことができたと思うため。
2　もっと食品の授業を受けたかった。
2　自分が学びたい内容について勉強できた。
2　興味を引く内容の授業が多かった。
2　自分の分野と直接関係のない分野の知識も得る事が出来たため満足しています。
2　専門科目は自分が受講したい講義を中心にとれたため。
2　自分の関心のあることを学ぶことが出来，結果就職した業種にも役立ちそうだったため。
3　分野が広すぎるので，なんとも言えない。
3　科目のジャンルが広いから。
3　授業内容はとても満足しているが，卒業後のことと結びつけられなかった。ゼミ所属をもっと早くして欲しい。
3　好きな分野のものについては，授業，実験ともにに満足ではあるが，興味のない分野のものについては何とも言えないため。
3　1，2年生で受けられる専門科目が少ない。
4　所属した研究室で必要な知識が，今まで受講してきた内容とは大きく異なっていたため。
4　専門教育を受ける場である研究室所属期間が短いと感じたため。

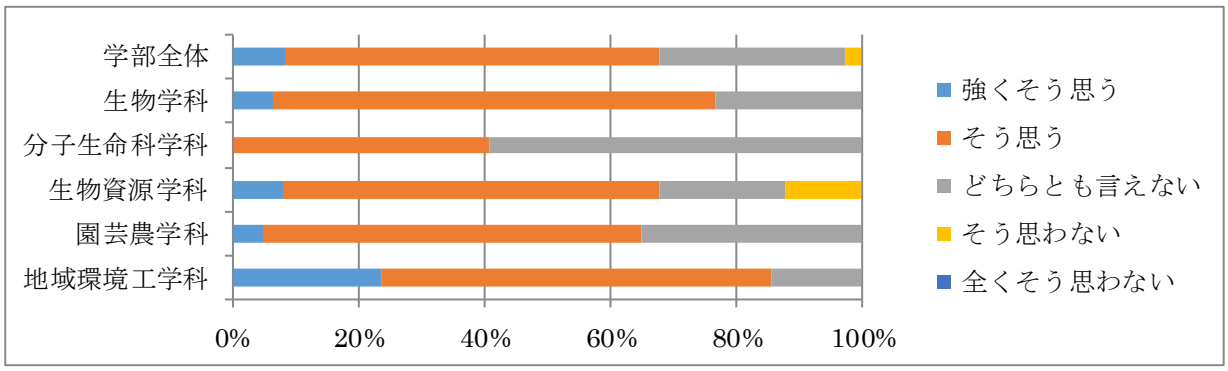
［園芸農学科］
2　真剣に聞いているととてもためになるから。
2　理解しやくすく実践的なものが多かった。
2　知りたい事を学べ事ができたから。
2　学びたかったことができた。もう少し掘り下げて勉強したかったがそれは自分の努力が足り

なかった。
2　学べたことは自分にとって十分なものだと思うから。
2　果樹・蔬菜・花卉・作物のみならず，機械や畜産・食料経済といった分野まで学ぶことができたから。
2　自分から進んで勉強することがなさそうな国際的な農業の問題について学べたから。
2　基礎的な内容から学べたのでわかりやすかった。
2　様々な分野の講義を受講することができたから。
2　興味のある分野について幅広く学ぶことができたため。
2　多分野に渡る専門教育であったため，様々な知識を得ることができたから。
2　まんべんなくゼミの専攻以外のものも学ぶ事ができたから。
3　農業を学ぶ際に，土壌や肥料を学ばなければならないはずなので，土壌学や肥料学が必修になっていないことが疑問に思います。
3　専門的基礎知識を得ることができたが，応用的克つ実用的な経験につながるものが少なく感じたため。
3　興味のない科目が必修科目になっていたため。
3　実験について，1，2 年の頃から頻繁に実験方法について学びたかった。また外での実習もあったが，回数が少なく感じたのであまり満足していないから。
3　興味のある分野は，満足しているが，自分のためにならない授業も多々あったから。

[地域環境工学科]
1　必要な知識を身につけられたと感じているから。
1　学んだことをある程度は理解できているため。
1　講義のすぐ後に演習授業があったので，専門内容が理解しやすかった。
1　農業土木に関する専門知識だけでなく，地域というコミュニティについてや，人と生物との関係性，生態系，土壌，山間地の環境などといった，様々な視点から地域の環境を見る方法を学べたと思うため。
2　農業土木を様々な視点から学べたと感じているし，就職や卒業研究の選択肢も広いことがよかった。
2　これから役に立つことを学べたから。
2　JABEE コースで広く学ぶことで，専門分野を多く収得することができたから。
2　良かったから。
2　もう少し突っ込んだ内容の講義がいくらかあっても良かった。
2　就職に役立ったから。
2　特に不満がなかったため。
2　先生方が丁寧な指導をしてくれたから。
2　土木分やにおける幅広い基礎をおさえつつ，より専門分野的内容もできるから。
2　これも個人差があるが，「学ぼう」と意識している人には，それ相応の知識が得られるような授業内容だと思うので。
3　科目の中にはやさしいものや難しいものが多くあり，中には農業土木とどう関連するか説明されないものもあった。

3　　まだよくわからないから。

設問 8.（1）所属する学科の教員の，講義・実習・演習などにおける学生への指導や対応に満足していますか（卒業研究については設問15で別に聞きます）



図Ⅰ－8. 教員の指導や対応に満足か

学部全体では，肯定的な評価と「どちらもいえない」評価がそれぞれ 69%と 29%でありほぼ昨年と同様であった。地域環境工学科と分子生命科学科は昨年と同様に肯定評価の割合がそれぞれ最高と最低であった。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない
5. 全くそう思わない

概ね教員の対応を評価する意見が多かった。一方否定的な評価をした学生の回答としては，一部の講義などでの対応や講義に対する不満が原因となったようである。

［生物学科］

1　　講義や実習が楽しく，興味をもちながらできた。
2　　試験等で分からなかったところも丁寧に教えてくださいました。
2　　丁寧に指導していただきました。
2　　実習が多くあったため。
2　　質問や分からない所を丁寧に指導していただいたため。
2　　実習での指導や質問への対応はとてもわかりやすく，教えていただいてとても楽しかった。ただ本当に忙しいんだなぁと感じることが多かった。
2　　とても熱心な先生もいれば何をいっているのかわからない何を書いているのかわからないというような先生もいて温度差がある。
2　　わかりやすい授業が多かった。
2　　不満に思う点が特になかったから。各先生がそれぞれの授業学問で勉強すべき点を私たちに伝えてくれたと思う。
2　　皆しっかりしてるから。

2　特に問題はなかったため。
2　一部に意味不明な講義があったので，そこがマイナス。まあ，その教員も退官したので問題ないか。
2　講義毎の指導の仕方が教員毎で異なっていておもしろかったので。
2　私が基礎ゼミを担当してくださった先生には非常に良くご指導いただいた。必修の実験では物足りなさを感じる先生もいた。
3　良い人もいれば悪い人もいたので。
3　先生によりますが，講義は話すだけであったり説明がゴチャゴチャで今はどの話をしているのか分からない事が多かったりしました。
3　教員による差が大きく，一概に言うのは困難であるため。
3　一部教員に限った話であるが”学生側へのあきらめをいだいているような授業”（どうせ授業なんか聞いてないだろう。自分で学べ）をされると学生側も学ぶ意欲をなくしてしまうので，大変だろうけど，教員側からも積極的な指導（授業が常に改善されている）がもっと増えると良いと思います。
3　先生によって授業の熱の入り方に差を感じたため。

［分子生命科学科］
2　個別での対応はとてもよかった。
2　役に立ちました。
2　とても良い先生が多かったと思います。
2　自身の研究や時事ネタを混ぜてわかりやすく説明してくださったことには満足しています。しかし，たまに露骨に対応が人によって変わったりする教員もいらっしゃったので「2」です。
2　熱意の有無はわからないが，毎週講義を行っていた。
3　良い教員もいたが，全く教えない教員もいたため。
3　教員によって差があるため。
3　教員によって差が大きいと感じたため。
3　先生によって異なったから。
3　科目によって異なるので。
3　個人差有。
3　教員によってまちまちのため判断できない。
3　教員によって違いがある。
3　教員によってわかりやすさや丁寧さがまちまちのため評価することが難しい。
3　先生によって講義の進め方や評価方法が大きく異なっていたから。
3　教員により満足度が違うため。

［生物資源学科］
1　バイテクの最先端技術や，研究室でのチームワーク，学会や研究発表など多くを体験させていただき，その都度的な指導をしてもらいました。
1　学生のことを考え，就活などで休んだときや試験のときも寛大な対応をしてくれたため。
2　先生方の多くが熱心に指導してくださいました。

2　熱心に指導していただいたと思う。
2　厳しすぎず，優しすぎず，丁度よかったから。
2　丁寧に教えていただけたと思うから。
2　先生方が親身になってくれていたと思います。
2　特徴ある先生方，教員が多いと思う。
2　自分の興味のある専門以外にも様々な分野に触れることができたため。
2　特に嫌な教員はいなかったから。
2　講義では，予習や復習の指導があったり，実習や演習では，丁寧な説明があったと思いました。
3　教員によって異なるため。
3　満足できる教員もいれば，そうでない教員もいるため。
3　指導や対応は各教員でことなるため一概には答えられません。
3　教員によってその質が様々であるため。
3　教員により，指導や対応が異なると感じたため。
4　学生実験をもう少し早く始めたかった。
4　個人差あり。
4　質問してくださいというわりに聞いても納得いかない返答されるから。

［園芸農学科］
1　わかりやすく説明してくれたり，授業目標などがはっきりしていたり，自分でも勉強しやすかった。
2　質問や疑問に丁寧に答えてくれたため。
2　講義で，丁寧に説明してくださる先生が多かったから。
2　熱心に指導してくれる先生方が多かったと思うから。
2　多くの教員は親切であったから，それなりに満足している。
2　講義等において必要な説明がされていたため。
2　教員によって対応は様々だった。満足できる対応をしてくれた教員は多かった。
2　農場実習では，トラクターの運転や稲刈りなど丁寧に指導していただいた。
3　統計学は分かりづらかった。
3　話しかけにくいと感じられることがある。
3　教員により対応が異なり，熱心に指導してくださる方とそうでない方がいるため。
3　しっかり講義をする方もいれば，自分の話をして終わってしまうこともあるため。
3　考え方の差が多少あると感じた。
3　そもそも難しい内容で，もとのそようを持ち合わせていないときもあったから。
3　指導に熱がある人とそうでない人との差があるため。

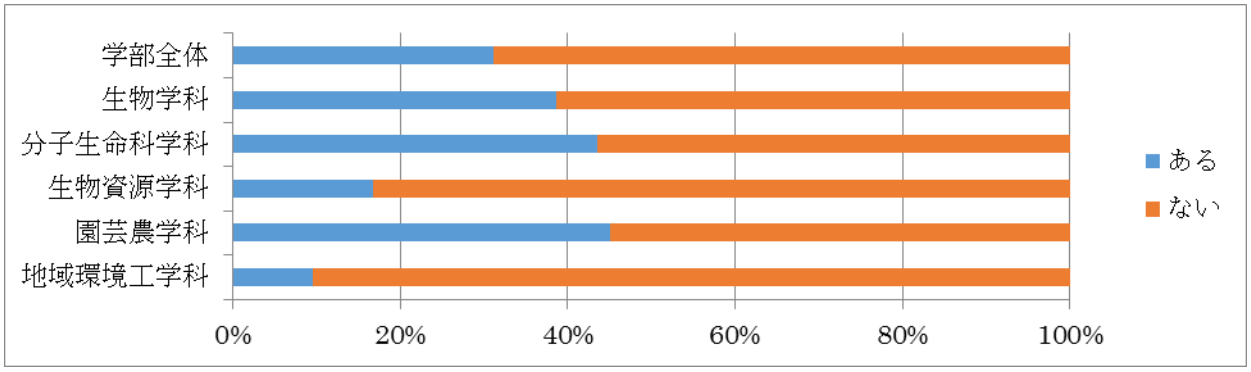
［地域環境工学科］
1　具体的に最後まで説明してくれたと思う。
1　ガイダンスかアンケートの実施など学生の要望に対応する体制もあるため。
1　全体的に授業ではスライドが多く使われており，スライドや配布資料は見やすいように工夫さ

れていたおかげで頭に入りやすかった。また，先生方は，生徒の理解度にあわせて授業を進めていたので，とてもついていきやすかった。

2　実技が多いのが良かった。質問に関しても，どの先生も真摯に対応してくれた。
2　特に不満に思ったことはないため。
2　良かったから。
2　丁寧な指導をしてくれた。
2　特に不満はない。
2　事前にプリントの配布などをおこなっており，学習に取り組みやすかった。
2　指導や対応に関しては，特に不自由を感じませんでした。
2　授業がわかりやすかったから。
2　熱心に指導してくださる方が多かったため。
2　座学はもちろん，実験や実習と通して自分で実際に体験する機会もあったため。
3　講義時間の終了時刻を過ぎても気にしていない教員がいたため。
3　わからないから。
3　熱心な教員がほとんどだったが，その意図ががつかみずらいものもあった。

設問 9. 履修した科目の成績評価について質問します。

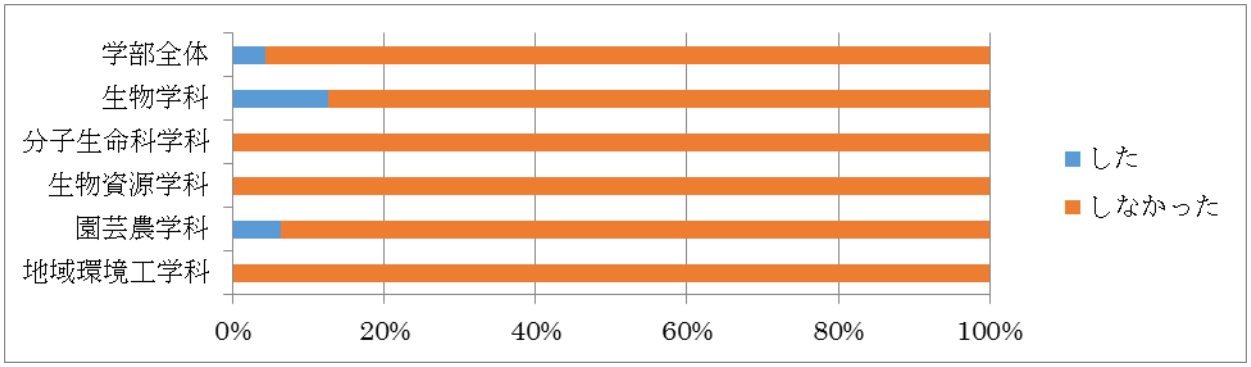
(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。



図Ⅰ－9(1)．成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはあるか

学部全体で成績評価に疑問があったと回答した学生の割合は 昨年度は 24%であり，今年度は31%と増加した。学科別見ると生物資源学科以外全部の学科が増加した。

(2) 疑問や異議があったときは，学部教務に「成績評価の問い合わせ」を提出し問い合わせできることになっていますが，あなたはそれをしましたか。した場合，その回答に満足しましたか。具体的に記入して下さい。



図Ⅰ－9(2)．成績評価の問い合わせをしたか

学部全体では成績評価について 96%（昨年度 94%）の学生が問い合わせていなかった。 問い合わせした学生が生物学科と園芸農学科のみにおり、その割合がそれぞれ 12%と 6%であった。

［生物学科］

1 履修したにもかかわらず結果が出てないことがあった。問い合わせしたら結果が出た。優だった。

1 生徒指導の理論と方法：教育実習に必要な授業であったため，問い合わせをした結果，単位は取得にいたり大変助かった。しかし「何がどういけなかったのか」をはっきりと回答してもらえず，未だに引っかかるものがあるので，そういったポイントも含めて回答していただけると大変ありがたい。

2 そのシステム自体知らなかった。

［分子生命科学科］

2 教員に直接抗議しましたが，ムダでした。

［生物資源学科］

2 知らなかった。

2 そもそも問い合わせできることを知らなかった。

2 レポートを提出していたが，担当教員の注意不足で，レポート未提出とみなされ評価されていた。このことを成績がでてから私につげられ，私が提出したことを主張すると，レポートの確認に入り，レポートが見つかり，成績を直してもらうことができた。

2 テスト・出席率から算出された点数（学期末の答案返却の際，記載されていた）より，成績が低くなっていた。

［園芸農学科］

1 教務がまず成績の評価の問い合わせにきちんと対応しなかった。

［地域環境工学科］
記入無し

設問 10. 講義や演習の受講に当たり，あなたは1日平均どの程度の時間を予習や復習に当てましたか。教員が課した課題に対するレポート作成に要した時間も含みます。

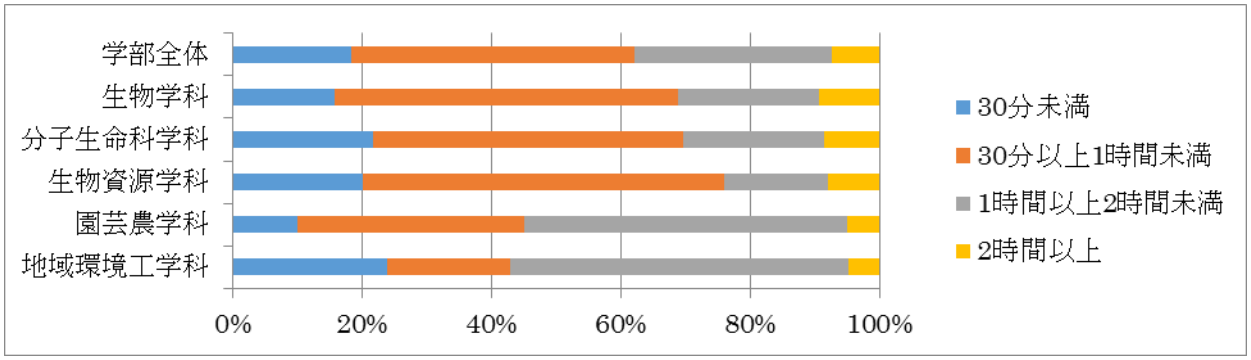


図 H-10. 1日平均どの程度の時間を予習や復習に当てたか

学部全体で１日の学習時間が「2 時間以上」と回答する割合は 7.5%であり、依然低かった。学科別見ると生物学科、分子生命科学科と生物資源３学科は 8－14%で、園芸農学科と地域環境工学科の 5%より高かった。「30 分未満」の回答者が 18%であり昨年よりやや減少したが、依然として少なくなかった。大学生とは到底思えない学生が大半を占めている。単位認定を厳しくするなど，強硬策を取らないと学力低下が防げない状態に来ていると思われる。

設問 11. 大学教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。
(1) あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。

「常に積極的にわからないところはどんどん質問し，理解することを意識していました。」、「興味のある分野は教科書や図書館の資料で調べたりしました。」、「復習予習をしっかり行い，授業についていくことができるよう臨んだ。」や「講義はあくまできっかけとして，自身の興味・関心をもとに自主的に広く深く勉強できるように取り組んだ。」と言った授業に意欲的に取り組んだことが伺える記述もあったが、多くの学生さんは講義への出席と内容の理解を重視していた。教員から見ると受動的と思われる学習姿勢が多いというこの傾向は、23･24 年度と同様であった。大学での学びにおける「主体的・意欲的な学習」のあるべき姿勢について入学直後に積極的に指導する必要があると思われる。

【生物学科】
- 必ず出席し，理解につとめた。
- 休まず行った。
- 真面目に取り組んだ。
- より良い成績をとれるように努力した。
- 向上心をもち，取り組みました。
- 雑談も含めて知らないことについて知ろうとした。

- 睡眠厳禁
- 遅刻や欠席をしないように気をつけ，予習と言われていた範囲はちゃんとやるようにしました。
- どんなことにも興味を持って授業を受けるよう心がけました。
- 授業前日に前回内容のノートを 20 分ほど見返してから取り組む程度。
- 興味のある科目については日々の講義に積極的に取り組んだ。
- 毎日行く。
- それなりに
- 自分で興味を持つようにしていた。
- 出された課題等はすぐに行ったが予習等はほとんど行わなかった。
- 予習はしたが，ほとんど講義を聞くことに集中していた。
- 授業の内容を身につけるつもりで理解しようと努めた。
- 真面目に出席した。
- 講義はあくまできっかけとして，自身の興味・関心をもとに自主的に広く深く勉強できるように取り組んだ。
- 不真面目　時々　サボリ
- 興味のある講義とそうでない講義で差はあったが遅刻欠席をしないよう心がけた。
- 分からない事があれば，自分で調べたり授業後に先生に聞いていた。
- ノートをしっかりとり，テスト前に復習した
- 講義内容（板書・先生の発言）をノートに書き込み，試験が近づいてきたらノートをもとに復習していた。日常的な予習復習はほとんど行っていなかった。
- 興味のあるものは積極的に聞き，考察したが，それ以外は受け身だった。
- 学んだ事をしっかり頭にのこす。
- とにかく情報を得る。
- 受動的
- 授業の中でポイントを押さえて取り組みノートを取るようにした。そのノートを元にしてテスト前などで教科書や参考図書で復習した。
- 集中してその場で少しでも覚えられるように取り組んだ。

【分子生命科学科】
- 試験に向けて勉強した。
- 意欲的
- 復習はするようにした。
- 特に復習に力を入れてテストに備えた。
- 特別な事情がないかぎり講義を欠席することはなかった。毎回ノートを取り「秀」「優」を目標に勉強していた。
- 講義を聞いて分からないところは調べるといった復習型の姿勢で取り組んだ。
- とりあえず出席する。
- 単位を落とさない程度に取り組んだ。
- 受け身だった。
- ノートをとることに尽力した。

- 常に積極的にわからないところはどんどん質問し，理解することを意識していました。
- 予習復習などが必要だと特別感じた授業に関しては，予習等を行ったが，ほとんどの授業では行わなかった。
- 後で見返せるようにノートをきちんとまとめるよう心がけた。
- 興味がある講義に関しては意欲的に取り組んだ。
- その場で頭にたたき込む。
- 復習に力をいれた。
- あまりまじめには取り組まなかった。
- 正直 1-2 年生のときは消化的に考えていましたが，専門性があがるにつれ，おもしろく，しっかり学びたいと思いました。

【生物資源学科】
- 分野によっては，意欲的でなかった。
- 単位のために．全てに興味を持てるほど狭い分野ではないから。
- 自分で授業がある程度くめるので，興味のあるものは真剣に取り組みました。
- テストやレポート提出直前に取り組んで間に合わせていた。
- 自分の興味のある分野以外は少し受け身だったかも知れません。興味のある分野は教科書や図書館の資料で調べたりしました。
- 専門に入ってから自主的にとりくんでいたから。
- 好きな講義に対しては意欲的だった。
- 寝ないでノートを取る。話を聞くことを中心に。
- 板書はもちろん先生の話でも重要な所をしっかりノートに書いていく。
- 予習復習はあまりしなかった。
- ノートをこまめにとり，まじめに取り組みました。
- 受け身
- テスト前しか勉強しなかった。
- 気づいたことはノートにメモしたりしました。
- 最低限授業に遅れないように板書はしっかり取り，話をしっかり聞こうと心がけていました。
- 意欲的に取り組んだ。
- 予習復習はテスト期間中以外は行わなかったが，授業中にはまじめに受講した。
- 出席重視
- 板書を書き写し，試験・レポートに備えました。
- ノートや資料等に書き込んで，講義内容を理解すること
- なるべく講義内で理解できるようにした
- 1 年生のころは少し予習復習をすることもあったが，基本的には何もせず，テスト前のみの学習で済ませていた。

【園芸農学科】
- 正直出席できればいいと思っていました。
- 必要な部分は予習復習をした。

- 休まないこと。ノートは必ずとること。復習することなどを考えながら講義に取り組んだ。
- 分からないことを明確にし，その答えを講義で見つける姿勢で取り組んだ。
- とにかく楽に単位を取り，質の良い成績を取ることを考えていた。
- 講義に毎回出席するように心がけた。
- その科目の内容を理解し，知識を見につけ，実生活で使えそうなものは使おうという姿勢。
- 積極的に取り組んだ。
- 興味のある科目は意欲的に取り組むことができた。
- 与えられた内容，重要事項が理解できるように取り組んだ。
- とても興味のある講義には熱心に取り組んだ。
- 1 年生の時は毎日予習や復習を行っていたが，上級生になるにつれて，なまけてしまった。
- やや不真面目であった。
- 予習を行い，分からないことがあれば図書館を利用し，調べてから講義に参加しました。
- 意欲的に取り組まなかったときがあった
- 興味のある分野に関しては意欲的に取り組んだが,それ以外に対しては単位さえとれればいいという考えだった。

【地域環境工学科】

- 講義では，特に専門科目は初めて学ぶことが大半なので，興味を持って受講するようこころがけ，また，講義内でなるべく理解するようにしていた。
- なるべくその場で理解できるよう集中して取り組んだ。
- 授業は寝ないでまじめに受けていました。
- まじめに聞くようにしていた。
- 復習予習をしっかり行い，授業についていくことができるよう臨んだ。
- なぜその式や答え，方法に至ったのかを自分なりに納得できるまで考えるようにした。
- 受け身だった。
- 興味のある分野にはある程度意欲的に取り組めた。
- 単位を落とさないで克つ，上位を目指した。
- 単位取得に必要な学習には取り組みました。
- 大学に払ったお金がもったいないので，まじめに勉強した。
- 講義中は講義に集中する。
- 就職につながるものと考え，まじめに取り組んだ。
- できるかぎり，黒板の文字を写すだけでなく，会話等で重要に感じたことにはメモをするようにしていました。
- 実験・実習につながっているため，1 つでも多く学ぶようにした。
- 講義の内容を理解するため，自分の持ってる知識を引っ張ってきた。
- がんばったが，内容の難しい授業は途中であきらめた。
- 真剣に取り組んだ。
- 単位を落とさないよう気をつけた。
- なんとなく

⑵ 実験・実習についてはどうですか。

「ただ指示通りのことをしただけだったので，熱心に取り組んだ記憶はない。」や「無駄で本当にいらない時間ただ苦痛。」と言った受動的や否定的な感想もあったが、「**とてもやりがいがあった。**」、「講義で学んだことが生かせたり，とても楽しく積極的に取り組めていたと思う。研究室を選択する際にも大変役にたった。」あるいは「講義よりは意欲的に取り組めた。」と言った前向きな回答の方が多かった。

【生物学科】

- 内容についてはとても興味深かったが，受け身の姿勢であったと思う。
- 主体となって進めるようにした。
- 意欲的に取り組んだ。
- 失敗しないことを一番に考え十分に理解して取り組んだ。
- 楽しみながらも真剣に取り組み結果を導き出せるように努力しました。
- とてもやりがいがあった。
- グループ内で率先して取り組んだ。
- 実験ではグループでやることが多くあり，あまり意欲的に取り組んでいなかったと思います。
- なぜこの工程が必要なのかを考えながら実験には取り組みました。
- 実験した後のレポートの採点がゼミ毎に様々な採点がされていてよかった。
- レポートに追われていたような感じであった。
- 楽しむ
- それなりに
- 周りと協力していた。
- 危険を伴う実習等もあったので，真剣に取り組んだ。
- 与えられた課題をこなしていくことが多かった。
- グループでの実験も多少必要であると思うが，あまり身につかずその場しのぎで必死だった。本当の意味で身についてのは研究室に配属し，1 人で実験を行ったときであった。
- 真面目に出席した。
- 必修だからというだけではなく，実際に手を動かして座学で教わったことをより深く理解するための機会として取り組んだ。
- 遅刻　時々　真面目
- 自分から積極的に実験のまとめ役にまわった。
- 行う作業の原理・役割はメモに取り，説明もよく聞いていた。
- 進んで実験実習に参加し，レポートなどの細かく書いた。
- 講義同様，先生に従って作業を行い，課題提出日が近づいたら課題に取り組んだ，予習復習はほとんどおこなっていなかった。
- ほとんどの実験実習はおもしろかったため，積極的に取り込んだ。特に自らが答えを見つけていくといったものはおもしろかった。逆に答えを知っている物を単純に行ってい

くものはつまらなかった。
- 楽しく行う。
- 楽しんで取り組む。
- 主体的
- 共同で行う作業や結果・考察などを他の学生とよく議論し，知識を深めるようにした。

【分子生命科学科】
- 班で協力し合いながら実験を行った。
- 積極的
- レポートなどをしっかりかけるように積極的に参加した。
- 実験の意味を理解するため予習復習をしっかりこなしレポートにも時間をかけて取り組んだ。
- 特別な事情がないかぎり講義を欠席することはなかった。毎回ノートを取り「秀」「優」を目標に勉強していた。
- 同様に実験をして分からないところは調べたり聞いたりしてできるだけ自分で解決するようにした。
- 遅刻せず出席する。
- ただ指示通りのことをしただけだったので，熱心に取り組んだ記憶はない。
- 今後の卒研等で必要になると思ったので積極的に行った。
- 班内で話し合いながら進めた。
- 講義で学んだ内容を実際の実験で行っていくときにはどのように進行して，結果がどうなるのかを常に予測して取り組んだ。
- 実験の操作等は班の中でも積極的に取り組んだと思う。その経験が研究室に配属した際に少しはいかされているように感じた。
- 自分から積極的に行った。
- 意欲的に取り組んだ。
- 色々な知識や技術を取り入れるために積極的に取り組んだ。
- 予習と結果を受けての考察に力を入れた。
- 自分でもう少し内容をくめる等あればよりおもしろいかも知れない
- とても積極的に取り組みました。結果，やはり楽しく充実させることができました。

【生物資源学科】
- 分野によっては，意欲的でなかった。
- 2 年後期から実験がはじまったのですが，内容についていけないこともしばしばありました。しかし積極的に取り組もうと努力しました。
- 講義で学んだことが生かせたり，とても楽しく積極的に取り組めていたと思う。研究室を選択する際にも大変役にたった。
- 座学と異なり，不慣れな場面が多かったですが，意欲的に望めました。
- 無駄で本当にいらない時間ただ苦痛。
- 実験は意欲的だった。

- 寝ないでノートを取る。話を聞くことを中心に。
- 何を目的としているかを正確に理解しようとした。
- 主体的に取り組めたと思う。
- 自分から操作など行うことに努めました。
- 班のメンバーと協力しあってスムーズに終えられるように取り組んだ。
- 興味がある物にたいしては積極的。
- 講義よりは意欲的に取り組めた。
- 意欲的にのぞみました。
- 常に興味や疑問をもって臨んでいました。
- 意欲的に取り組んだ。
- グループ内の人に大きく頼っていた。
- 必ず出席。結果を出すことに専念。
- 頂いた手順をよく読み取り組みました。
- なかなか上手くいかなくても失敗は成功の素！と考えて頑張った。
- 意欲的に取り組んだ。
- レポートなどが課されれば行うが，それ以外は（1）と同じ。1 年生のころは少し予習復習をすることもあったが，基本的には何もせず，テスト前のみの学習で済ませていた。

【園芸農学科】
- あまり好きではなかったので，できるだけ頑張ろうと思っていました。
- 真剣に取り組んだ。
- 順序を確認しながら，周りの人と協力しながら取り組んだ。
- その日行った実験について忘れないようノートなどにまとめた。
- 体験すること全てが初めてなので真剣に取り組んだ。
- 実際に自分が行うことができるので，意欲的に取り組んだ。
- 失敗しても良いから，体を使って体で覚えようという姿勢。
- とても興味深かったため，意欲的に取り組んだ。
- 農場実習で，牛の直腸検査をしたことなど初めての経験が多く，意欲的に取り組めた。
- 器具の操作や実験の達成ができるよう取り組んだ。
- 実験は元から知識がなく，やった経験もないため苦心した。
- 主体的に取り組んだ。
- 自分で興味を持ったものについては集中して取り組んだ。
- なれない作業が多かったため担当教員に指導をあおぎながら参加した。
- 素早く行えるようになるために予習復習をした。
- 意欲的に取り組んだ。

【地域環境工学科】
- まじめに，時には楽しみつつ，チームメイトと協力して行えた。
- 人に任せっきりにすることなく，協力して結果を出そうと努力した。
- 授業は寝ないでまじめに受けていました。

・ 自分から進んで取り組むようにした。
・ 実験では，班の人と協力して，みんなで丁寧に提示されている検証を証明できたと思っている。
・ 積極的に取り組んで体験しようとした。
・ まじめに取り組んだ。
・ 実際に自身で行うことに意味があったと思う。
・ 良い経験であったため，積極的に克つ，楽しむ姿勢で取り組んだ。
・ 机上で学べない体験をするつもりで臨んだ。
・ 大学に払ったお金がもったいないので，まじめに勉強した。
・ 手順・行動に気をつける。
・ 就職につながるものと考え，まじめに取り組んだ。
・ グループでわかれた場合はグループの人も協力をするようにつとめました。
・ 専門でも幅広い分野のものをあつかっているため，全てではリーダーシップを持てなかったが，得意な物では積極的にリーダーになった。
・ 実体験を伴う講義が効果的なあることを認識し，積極的に参加した。
・ 手順の理解が不十分なことがあった。
・ けがをしないように気をつけた。
・ 積極的に取り組んだ。
・ なんとなく

(3) 大学在学中のカリキュラム（21 世紀教育も含む）の中で，もっとも印象に残った科目があれば，その科目名と理由を記入して下さい。

自身が興味を持っている分野の科目を挙げた学生さんもいたが、教員の個性や熱意が感じられる講義や実験・実習科目を印象に残った科目として挙げた学生さんもいた。

【生物学科】
・ 21 世紀教育の「もやしもん」を参考資料としていた授業。すごくわかりやすくおもしろかった。
・ 植物形態学：小中高と勉強してきた分野でしたが，大学でより細かい知識を身につけることができました。
・ 学生実験：1 週間に多くの時間を使って様々な分野の実験を行ったから。
・ 生態野外実習
・ 統計学：板書で標準偏差等の計算を行ったので，授業中は割と頭を使うため印象に残りました。
・ 環境と生活（F）：寄生虫などを実際に目で見られたことが楽しかった。
・ 水圏生態学：教員の少し路線の外れた話が楽しかった。
・ 分子進化学：学生と先生との間に意見の交流が合った上，学生同士が話し合う時間があったことも新鮮であった。
・ 臨海実習，生態学野外実習　宿泊ありの実習が良かった。

- 生物学実験：様々な先生から色々な実験を教えてもらったため。
- 森林生態学：一番興味を持って取り組むことが出来たため。
- 菌学：田中先生　自ら興味を持ち全力で学ぼうと頑張った科目であり，授業が楽しかったから。
- 卒業演習
- 化学の基礎Ⅱ（C），植物生理学Ⅰ：いずれも内容だけでなく先生の雑談もおもしろかった。その雑談で「大学とはどういうところか」「研究の道へ進むこと」などを考えさせられた。
- 卒研：しめきり地獄なう
- 生態学野外実習：教員と深く関わることができ，自分自身の興味関心をしっかりと認識するよい機会となる。
- 生物統計学：3 年生で受けていましたが，今後，これがこんなに活用されるとは思っていませんでした。
- 酵素化学：先生の説明がとてもおもしろく，授業に参加するのがとてもたのしかった。
- 進化生態学：城田先生の個性的な授業方法（動画・プレゼンテーション等）が他の先生と全く異なっていたことだけ覚えている。
- ゲーム理論（科目名は忘れてしまいました。21 世紀教育の「経済」だったとおもいます）経済についてのゲーム理論を学ぶ授業であったが，生物の進化に対しても全てあてはまる事が多く，とてもおもしろかった。
- 臨海実習，野生生物学実験
- 体育（サッカー）：頭を使わない授業が新鮮だった
- ゲーム理論：インパクト強かったから
- 生態学野外実験：野外での調査を，実際に体験することが出来た点がとてもためになった。

【分子生命科学科】
- 有機化学
- 応用微生物学：微生物を利用した様々なことを学べ非常に興味をもって学習に取り組めた。
- 戦後日本の子ども文化（A）：毎回身近なテーマをとりあげ，それに沿った講義と映像を見るという科目で，専門科目とは異なり自分が体験してきたこと（学校生活や遊び）が授業でとりあげられるので非常に興味深かったし，なにより先生のトークに魅了された。
- 生物有機化学：自分に合っていないだけかとおもうが，とにかく内容が難しく大変だった。
- 生化学 2：先生と試験
- 食品安全学：普段私たちが食している飲食料における食中毒の原因となるものがどんなもので，対策はどんなものがあるのかという，身近なことを学べたので。
- 「火の話」：自分の専門外の分野で，なかなか聞くことのできないないようだったので，大変ためになった。
- 卒業研究：先生との討論が非常に充実していたから。
- 酵素化学：実学を一番感じた科目だったため。
- 分子機能化学：私の道を決めたと思います。

【生物資源学科】

- 応用昆虫学：何度も受講させられた。
- 正しい講義名を忘れてしまいましたが，社会と私というテーマ科目が，社会に出るための事前準備になったのではないかと思います。
- 農場実習（集中講義）：大学キャンパスから遠く離れて，体を動かし，みんなで宿泊してごはんも作った実習が一番印象に残りました。必修ではなかったですが楽しかったです。
- 植物生理学：板書テストＰＤＦが秀一でわかりやすから。
- 菌学：フンタマカビのビデオがおもしろかったです。
- 植物病理，植物バイオテクノロジーⅠⅡ
- 応用昆虫学：初めての授業内容がほぼ英語の科目であり，テスト勉強にも一番苦労した科目だったため
- 生物資源学演習Ⅱ：先生方の研究内容を知ることができ，卒業研究へ意欲的になれるきっかけとなりました。
- 植物ゲノム学：千田先生がおもしろかったです。
- 実験
- 食品安全学：これから就く仕事の役に立ちそうだと思った。
- 食品科学：一番勉強した科目で，内容も興味のある内容だったから。
- 生物有機化学Ⅰ：単位を取得するのに苦労したから。
- 植物育種学
- 特別印象に残ったものはありません。
- 応用昆虫学：難しいというより大変だった。
- 育種・遺伝学の実験は興味のある分野であったため，印象に残っている。

【園芸農学科】

- 国際農業経済論：時事的な事が多かったため印象に残った。
- ソフトボール
- 農場実習：実際にフィールドに出て行うので，本物に触れることができるから。
- 食料経済論：実生活と照らし合わせながら食農のことを学ぶ事ができ，また毎回のレポートで考える訓練ができたから。
- 卒業研究：研究していくなかで多くの物が得られたから。
- 食料経済論が印象に残った。リアクションペーパーを毎回提出し，先生が質問に回答してくれる形式が良かった。
- 生化学（21 世紀）片方先生の話がおもしろく楽しかったから　多分，化学の基礎 2（C）
- 果樹園芸学：基本を学ぶ上で，基礎的な知見をえることができたため。
- 農業経営管理論：やりたかったこと，知りたかったことを丁寧に教えてくれた。

【地域環境工学科】

- 農場実習：様々な体験ができ，とても貴重な経験になった。
- 地域環境工学実習：実際の職場体験をしたこと。勉強したことが実際どう使われるか知ることができたから。

- 山間地環境計画学：この授業を学び，自然災害は日常的な物であると分かった。よてこの自然災害と共生できるような地域整備が重要であると実感した。
- 山間地環境計画学：山間地における地すべり・崩壊地の対策工事をまなぶだけでなく，その構造物と自然との関係性を学ぶことができたため。加えて国外の事例の話も聞くことができ，とてもおもしろかったため。
- 専門英語：英語は苦手だったので，難しかったが，内容は興味があった。
- 地域環境工学実習：インターンシップ先が楽しかったから。
- 土壌物理学：大学での授業の中の一つで，一番教えようとする努力が感じられた。内容も分かりやすく，今後も続いて欲しいと思う。
- 地域環境工学実習：インターンシップのように公務員の仕事に触れることができた。
- 卒業論文：もっとも専門的なことを学ぶ機会が多かった。
- 水理学：水利学にもつながっており，水の基本だったため。
- 生活の科学技術：身近な内容でおもしろかった。
- 地域環境工学実習：授業で学んだこととかを実際に実験することができたから。
- 水理学：担当教員が印象的だった。

[学生への教育支援，施設・設備について]

設問 12. 本学部や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，下記のような 10 のルートを用意しています在学中あなたは次の(1)～(3)の項目について主にどれを利用しましたか。(　) 内に番号を記入して下さい。

(1) 学業

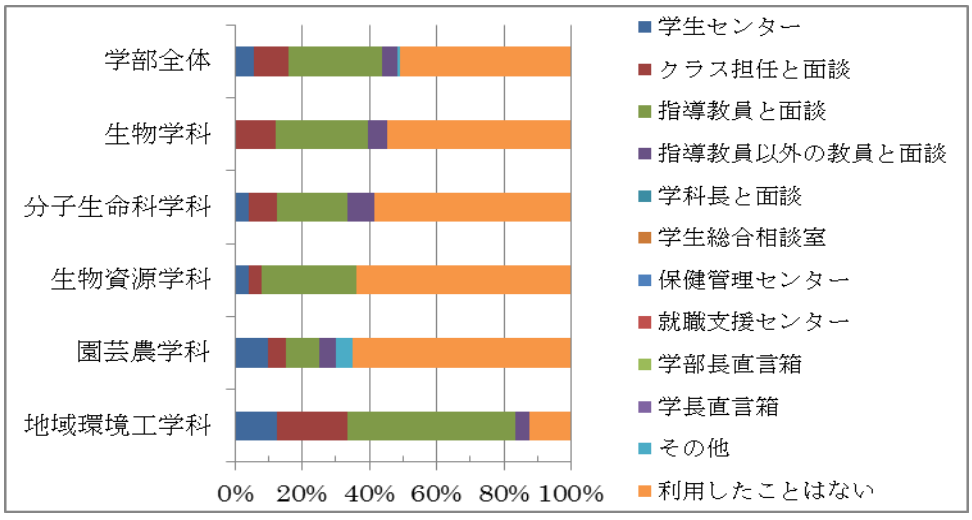
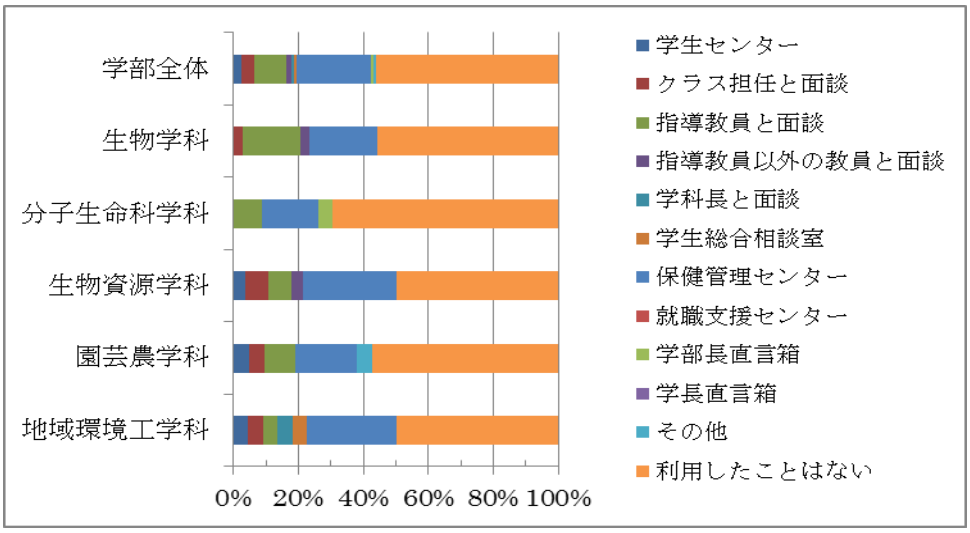


図 I－12(1)．学業に関する相談窓口

学業に関する相談の場合、学部全体では、最多は「利用したことはない」の 51%、次いで「指導教員と面談」の 28%であった。この傾向は最近 3 年間変わっていない。学科単位で見ると、地域環境工学科では昨年度は、最多が他学科と同様に「利用したことはない」であったが、本年度は 13%に過ぎなかった。本年度の最多は「指導教員と面談」の 50%で、次いで「クラス担任と面談」の 21%であった。地域環境工学科では相談窓口の利用率が高いという結果は平成 23 年度も観察されているので、学科としての積極的な取り組みの成果と考えることもできる。

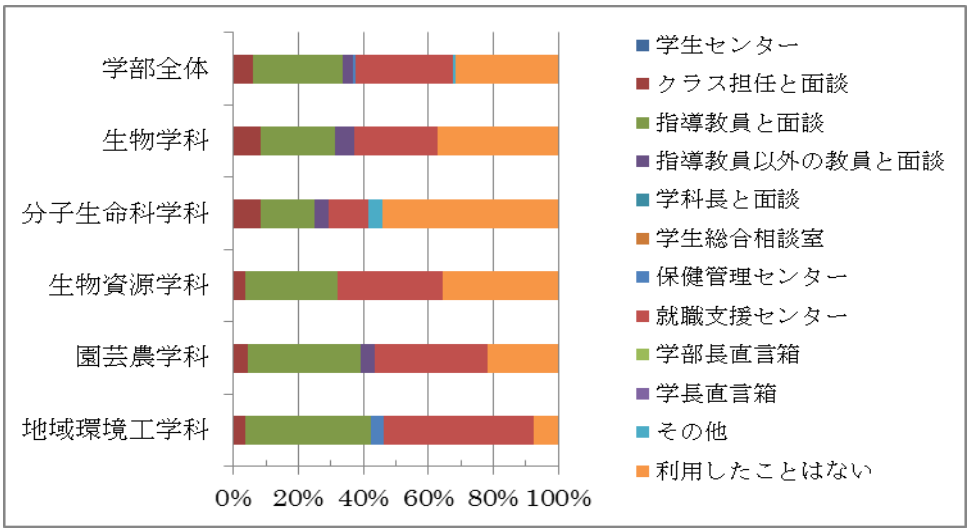
(2) 学生生活



図Ⅰ-12(2)．学生生活に関する相談窓口

学生生活に関する相談の場合、学部全体では、最多は「利用したことはない」の 56%、次いで「保健管理センター」の 23%、「指導教員と面談」の 10%であった。この傾向は、最近 3 年間同様である。

(3) 進路



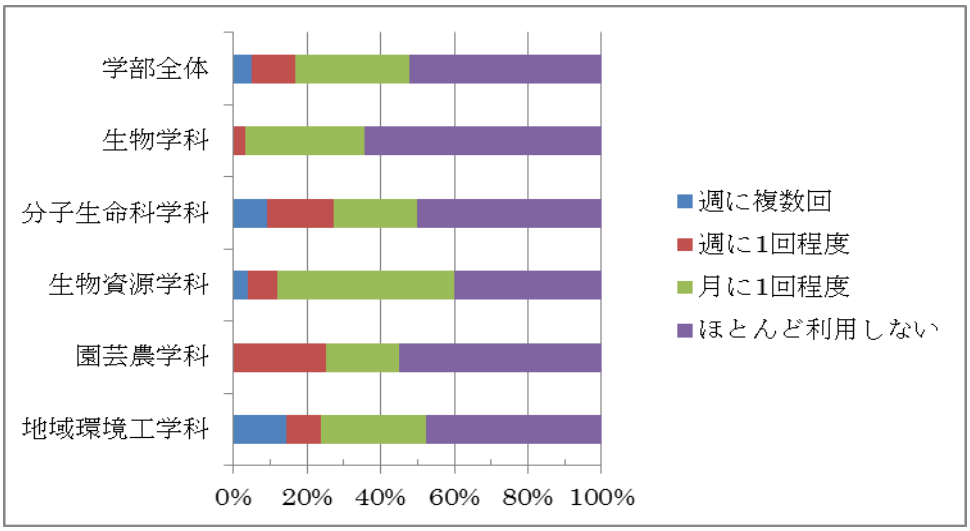
図Ⅰ－12(3)．進路に関する相談窓口

進路に関する相談の場合、学部全体では、最多は「利用したことはない」の 32%、次いで「就職支援センター」の 30%、「指導教員と面談」の 28%であった。3 つがほぼ等しい割合で選択されるという傾向は、最近 3 年間同様である。「その他」と回答した 3 名は、相談先として「生協」、「総務」および「友人」と答えている。学科単位でみると、「利用したことはない」が最少なの

は地域環境工学科の 8%で、この傾向は最近 3 年間変わらない。

設問 13. 本学部図書室の利用について質問します。

(1) あなたは在学期間を通して，平均どのくらい利用しましたか。

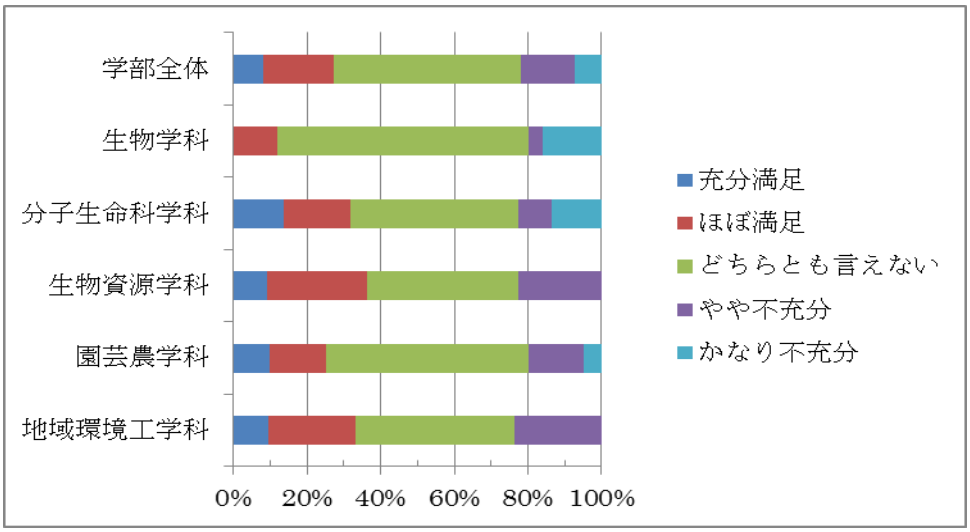


図Ⅰ-13(1)．本学部の図書室の利用頻度

本学部の図書室の利用頻度は、学部全体で見ると，最多は「ほとんど利用しない」の 52%、次いで「月に 1 回程度」の 31%、「週に 1 回程度」の 12%であった。この順位は、最近 3 年間と同様である。学科単位でみると、各選択肢の割合に多少に違いはあるが、年度により変動が大きく、特定の学科に特徴的な傾向は認められない。

(2) 以下の項目について，どのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。

1. 所蔵図書（和書および洋書の単行本）



図Ⅰ-13(2)-1．所蔵図書

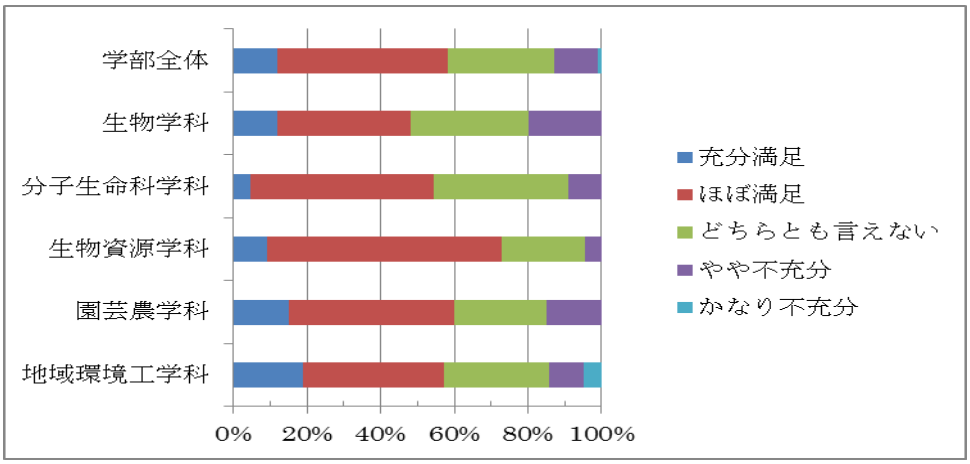
本学部の図書室の所蔵図書について、学部全体では，「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 27%，

「どちらともいえない」は 51%であり、「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は 22%であった。平成 23 および 24 年度は、「充分満足」と「ほぼ満足」の合計が約 40%、「どちらともいえない」が約 40%であったので、本年度は、満足度が低下した分、どちらとも言えないが増加した。

設問 13（1）で図書室をほとんど利用しないという回答が学部全体での集計で 52%に達しているので、「どちらともいえない」は「図書室の現状を知らない」の代替として選択されている可能性もある。

この設問はアンケート調査が開始された平成 14 年度から使われているが、調査開始後 10 年以上が経過し、本学部の「図書室」の現在の実態は、「自習室」という名称の方が適切と思われる状況にある。従って、「所蔵図書」の満足度を問うのであれば、今後、「図書室」に授業科目の参考図書（この場合、複数部数揃えることが必要）や学部学生向けの専門図書を計画的に拡充して行くか、「附属図書館の利用状況」に関する設問を別に設けるのが望ましいと思われる。

2. 閲覧スペース

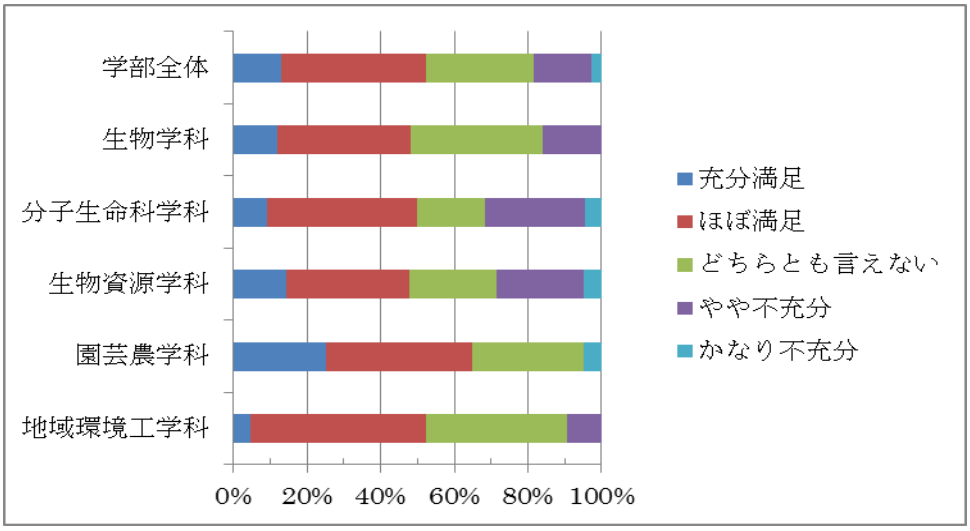


図Ⅰ-13(2)-2. 閲覧スペース

本学部の図書室の閲覧スペースについて、学部全体では、「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 58%、「どちらともいえない」は 29%であり、「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は 13%であった。「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は平成 22 年度が 29%、23 年度が 42%、24 年度が 60%と上昇してきた。このような評価の上昇は、農学生命科学部後援会の援助により、図書室の閲覧スペース（実態は自習スペース）の整備改善を行ってきた結果であると推定される。

「自習室」の実態からすると設問は「閲覧スペース→自習スペース」に変更が望ましいと思われるが。

3. 開館時間



図Ⅰ-13(2)-3. 開館時間

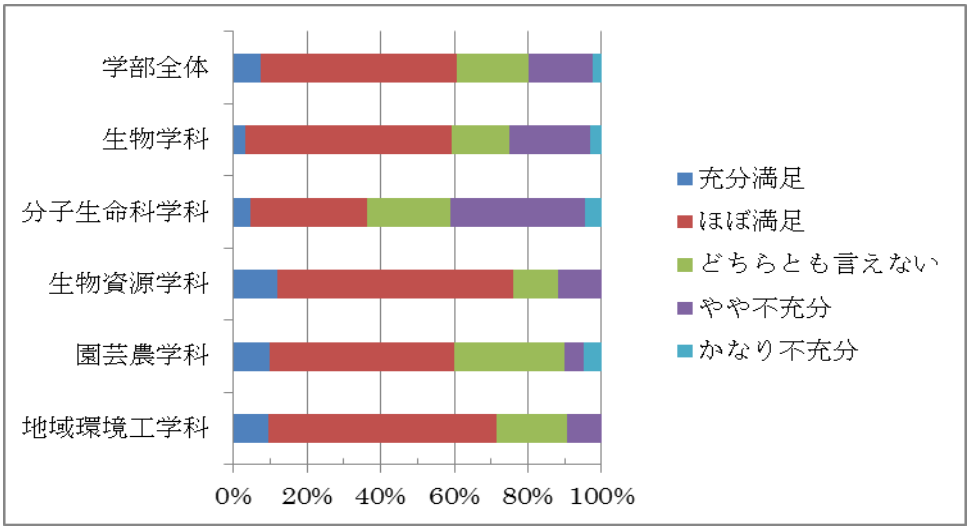
本学部の図書室の開館時間について、学部全体では，「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 52%，「どちらともいえない」は 29%であり、「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は 18%であった。「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は、最近 3 年間は約 50%の水準にあるが、「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は、平成 23 年度の 31%、24 年度の 27%と漸減してきている。

この設問も「自習室」の実態からすると「開館時間→利用時間」への変更が望ましいのでは。

設問 14. 本学部の以下の施設について，どのように感じていますか。

(1). 該当する欄に○を書き込んで下さい。

1. 講義室



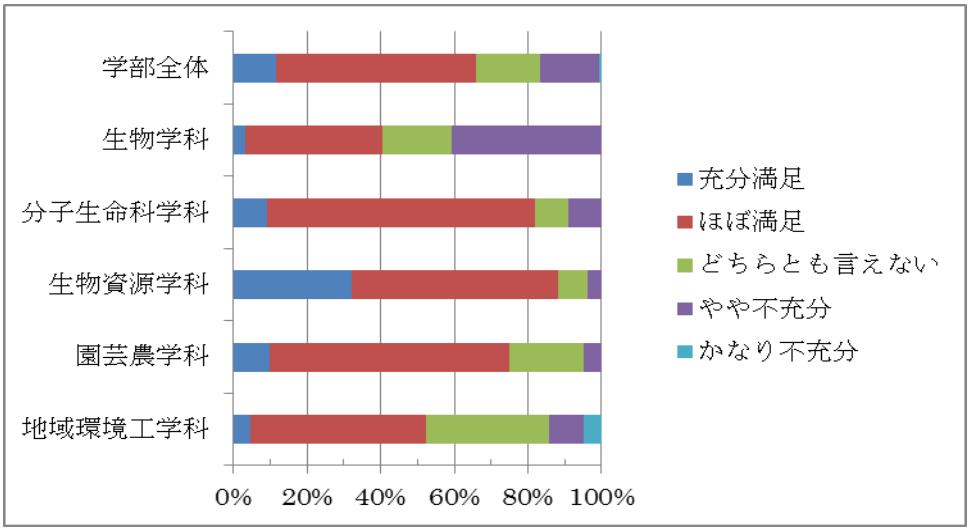
図Ⅰ-14(1)-1. 講義室

本学部の講義室について、学部全体では，「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 61%，「どちらともいえない」は 19%であり、「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は 20%であった。「充分満足」

と「ほぼ満足」の合計は平成 22 年度 64%、平成 23 年度 52%、平成 24 年度 55%となっている。「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は平成 22 年度 17%、23 年度 22%、平成 24 年度 26%となっている。

分子生命科学科では「やや不充分」と「かなり不充分」が 41%あったが、その理由として冬季に暖房が機能せず講義室があり、酷寒となること、夏季に冷房が無いことから酷暑となることが挙げられていた。

2. 実験・実習室



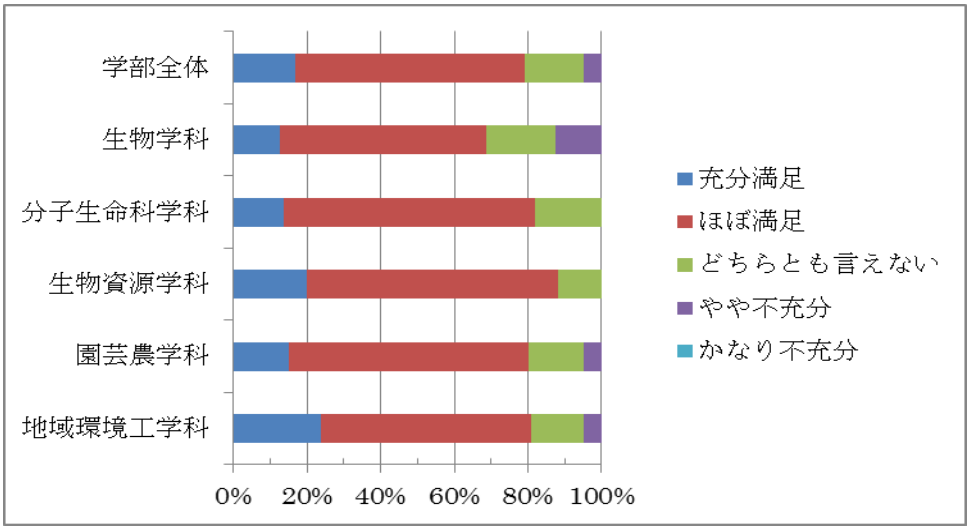
図Ⅰ-14(1)-2. 実験・実習室

本学部の実験・実習室について、学部全体では，「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 66%，「どちらともいえない」は 18%であり、「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は 17%であった。「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は平成 23 年度 66%、平成 24 年度 71%となっている。「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は 23 年度 13%、平成 24 年度 11%となっている。

学科単位で見た場合に、「やや不充分」と「かなり不充分」の合計が最高値であったのは、平成 23 年度と 24 年度が地域環境工学科の約 25%であったが、本年度は生物学科の約 40%であった。

生物学科では「やや不充分」が 41%あったが、その理由として，狭さや実験用備品の不備が挙げられていた。

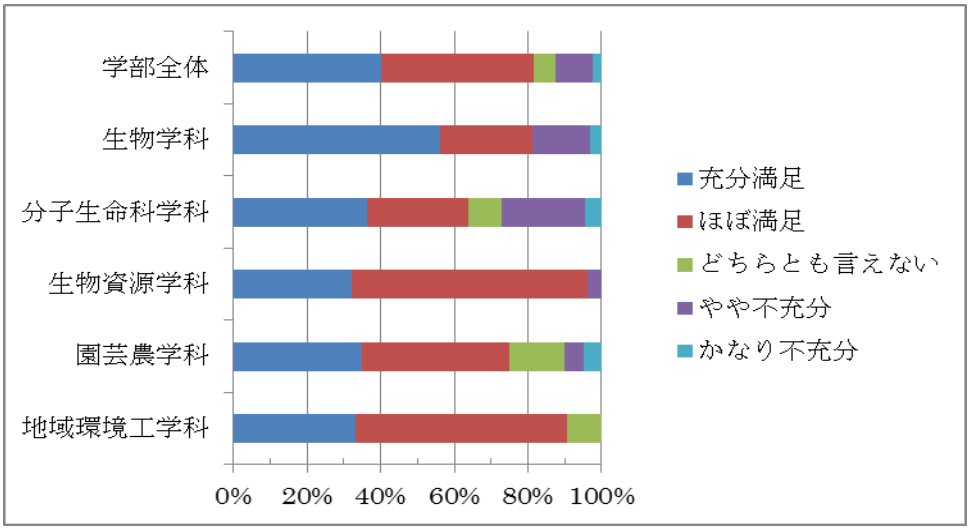
3. 情報処理演習室



図Ⅰ-14(1)-3. 情報処理演習室

情報処理演習室について、学部全体では,「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 79%であった。平成 22 年度 67%、23 年度と 24 年度は 71%と、過去にも満足度は高かったが、本年度はさらに上昇した。

4. 卒業研究を行った研究室



図Ⅰ-14(1)-4. 卒業研究を行なった研究室

卒業研究を行った研究室について、学部全体では,「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 82%であった。平成 22 年度 65%、23 年度 79%、24 年度は 74%と、過去にも満足度は高かったが、本年度はさらに上昇した。分子生命科学科では「やや不充分」と「かなり不充分」の合計が 27%と、他の学科よりも高率であった。

(2). 各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

延べ 38 件の要望があったが、講義室の冷房設備の設置（7 件）および暖房設備の改善（3 件）を合わせると、26%が冷暖房に関するものであった。実験・実習室に関しての要望 9 件のうち 4 件が生物学科の実験室の面積拡張に関するものであった。これらが多いという傾向は、最近 3 年間変わらない。

【生物学科】

〈講義室〉

- 冬が寒い
- 講義室の机椅子がとても座りにくい（前のめりになってしまい先生の話を聞きにくい)。

〈実験・実習室〉

- 狭い，席が足りない，顕微鏡等が不十分。
- 実験室は 40 人強の人数で 1 度に行う際，黒板が見えずらかったり通路が狭くて通りづらかったりした
- 実験室の顕微鏡が壊れている物もあるのでなおしてほしいです。
- 1 階の生物学実験室が 1 学年全員が座るには狭すぎるので, 他の学科の実験室の様にもう少しスペースを確保した方がいいと思う。
- 実験の部屋の通気が悪いので夏は暑すぎる。とくに白衣をきてやるので。
- 実験室（生物学科・2 年時）が狭い。

〈卒業研究を行った研究室〉

- ゼミの資金やりくりが大変なのでもう少し考慮してほしい。
- 卒業研究に用いる備品の充実をもっと目指して欲しい。

〈その他の施設〉

- もう少し談話スペースのようなものを。
- 図書館で専門的な本をもっとおいてほしい。全体的に本が古くて使えない。
- 生物に関する本をもっと増やしてほしい。
- 図書館の開館時間が，土日祝日や長期休業中は短すぎる。

【分子生命科学科】

〈講義室〉

- 教室に冷房設備を。
- 講義室・・・前に背の高い人が座ると黒板やスクリーンがみえなくなる部屋がある。
- 冬の講義室が寒いので，もっと暖房の効率化を進めて欲しい。
- 講義室が，冬はかなりさむくて具合が悪くなってしまいます。どうにかしてください。
- 夏の講義室が暑すぎる。
- 農生の講義室はさむい。暖房の音がうるさい。前からしか入れない部屋はイヤ。

〈その他の施設〉

- 図書館の机にデスク用電気を設置してほしい。
- 農生の 2 階か 3 階を GRC とつなぐ渡り廊下を作って欲しいと思う。

【生物資源学科】

〈講義室〉
・ エアコンを設置していただきたい。特に夏場の 3，4 階といった上の方。
・ 講義室が暑い。
・ もう少し風通しがよければいい。
〈実験・実習室〉
・ 農生 3 階の学生実験室が冬場寒いので暖房してください。
〈卒業研究を行った研究室〉
・ 一部研究室では，大学構内で使える無線 LAN の電波が受信できなくて不便でした。
〈その他の施設〉
・ 女子トイレの便座の暖房はこれから先もついていて欲しいなと思います。図書室の書籍はもっとカリキュラムに沿ったものがあってもいいかなと思いました。
・ トイレの流れが悪すぎる。2-3 回流さないと流れない。
・ 暗くなると廊下がとても暗くてこわいです。階段を降りるとき，直前まで行かないと電気がつかないので危ないです。
・ 5 コマ後，廊下が暗く，階段を降りることが怖いことがあった。もう少し明るくしてもらいたいです。

【園芸農学科】
〈講義室〉
・ 冷房を入れて欲しい。
〈実験・実習室〉
・ 実験実習室の部屋数を増設し，学科毎にもうけても良いと思います。
〈卒業研究を行った研究室〉
・ やりたかった実験はできたが，あとから改善点が多く見つかり，あと 1 年やればもっと内容の濃い卒業研究ができたのではと思うと，あまり満足できない。
〈その他の施設〉
・ 農場が，本学の近場にあってほしい。

【地域環境工学科】
〈講義室〉
・ 夏場の講義室が暑い。また，冬場は寒い。理工などに比べ農生は不公平であると思う。
〈実験・実習室〉
・ 実験室をもっときれいに，広くした方が良いと思う。
〈情報処理演習室〉
・ 情報処理演習室はパソコンを使った他の学生との共同作業に必要です。学部の施設によっては，早い時間に閉館になるところもあるので，学生が利用するには時間的に厳しい。

設問 15. (1) 卒業研究を行ったことに満足していますか。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない

5. 全くそう思わない

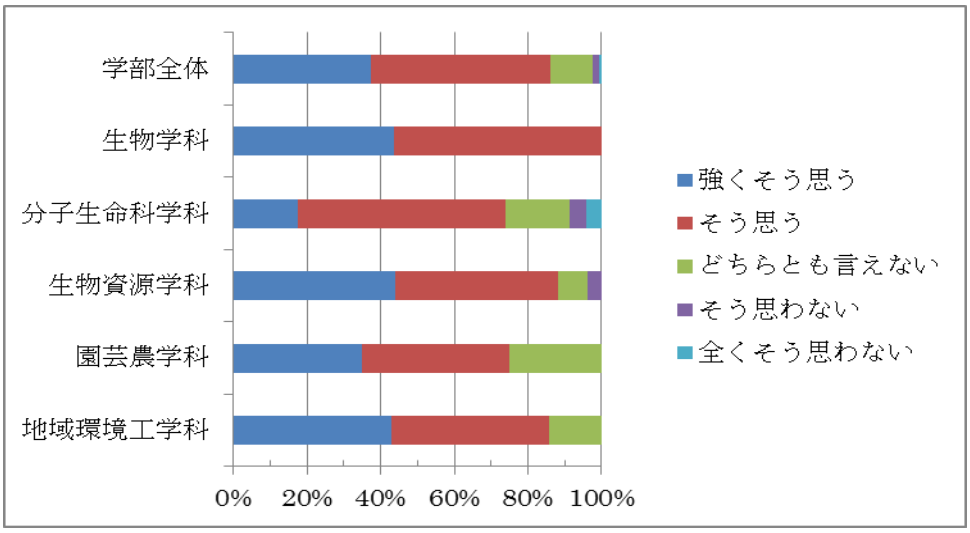


図 I -15. 卒業研究を行なったことに対する満足度

卒業研究を行なったことに対する満足度は学部全体では、「強くそう思う」と「そう思う」の合計が 86%に達し、平成 22 年度の 75%、23 年度 84%、24 年度 80%と比べて、本年度は最高値である。卒業研究は好評であることが判る。一方で、回答した 121 人中、17 人が「どちらとも言えない」、「そう思わない」および「全くそう思わない」を選択している。

「どちらとも言えない」の理由として、例えば、「先生に使われているという気がしたため。」、「卒業するためのただの義務だから。」、「就活とうまく両立させられなかったため。公務員になりたかったので勉強と実験でバランスがとれなかった。実験で 1 日が潰れることもありつらかった。」、「実験のために就活をあきらめたことがあり辛かった。」があった。

「そう思わない」の理由として、「卒業研究で得た知識を今後活用する場面というのはないため，何のために研究していたのか分からなくなるときがある。」が、「全くそう思わない」理由として、「担当教員からこれといって教えてもらったこともなく，ただ怒られるだけだったから。」があった。

これらの指摘の中には、学生さんと教員のコミュニケーション不足を伺わせる事例もあるように思われる。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

【生物学科】

1　普通では経験できないことを体験できた。

1　良い勉強と経験になりました。

1　指導教員に熱心にご指導いただいた。

1　自分でやりたいことをさせてもらったため。

1　一番最初にやりたかったこととはかなり異なった研究を行ったのは残念だが，その研究のため

に全力で取り組む事ができたのは大きいと思う。
1　学士として学ぶべき専門知識を活かした研究ができ，思考力情報処理能力が身についたと感じているから。
1　達成感が得られる自分の行ってきたことが形にできる。
1　卒業後の進路がどうであれ，大学で学んだことをもとに１つの成果を出すための過程で，今後様々な事柄を対処するための力をつけられる最良の機会であるため。
1　自分のやりたい研究を行うことができました，先生には感謝しています。
1　楽しく取り組むことができ，大学生活を満喫できた。
1　数多くの実験手法を学ぶことができたし，卒業研究を通して研究の仕方論文の作成方法を学べた。また様々な先生や人と話す機会が増えた。
1　様々な調査地に行くことができたので満足です。
1　卒業研究を通して，物事に熱中して取り組むことの大切さや達成感など，社会で生きていくうえで必要な大切なことを学べたから。
1　実験を楽しくできたし，様々なことをしれたと思うので。
2　自分が何をしていたのか分かったし理解を深められた。
2　一つの自分が形として残る仕事をしたいという実感があるから。
2　自分が興味を持っている遺伝子等の研究をおこなうことができたからです。
2　１つのテーマについて論文を読んだり実験を繰り返して達成感を感じたから。
2　自然保全の取り組に貢献できたため。
2　生物の飼育やそれを用いた実験は普段出来ないことなので，貴重な体験だったし，様々な実験器具等の使い方が学べました。
2　内容だけでなくプレゼンの仕方等もためになりました。
2　教員や先輩の適切な指導があり助けられた。
2　研究室で学びたかったことと自分の未熟さをしれたから。
2　自分が疑問を持ち，答えが出ていない事例の正体に少したどりつくことができたため。
2　実験，研究の大切さを身にしみて感じた。正確なデータ大事。
2　自分の調査した内容を他人に説明し，理解してもらえるようにまとめることで様々なスキルがえられたと思う。
2　研究を行うにあたり，心身共に成長が出来たと思うから。
2　ひとまわり成長できた気がするから。
2　自分が主体となってより知識を深めるために何をすべきか考えながら，物事を進められる良い経験になった。

【分子生命科学科】
1　自分のやりたい研究を行いきちんと結果を残せたから。
1　指導教員はもちろんのこと，先輩や同級生たちと積極的にコミュニケーションを取ることができ，自身が理解するだけでなく，他者にも理解してもらうためにどうすればいいかということ等の多くのことを学べたため。
1　やりたい分野の知識を増やすことができ，実験手法を身につけることができたから。
1　良い先生に巡り会えたから。

2　自分の興味を探求できた。
2　忙しいながらも成果を得られ自ら新たな発見が出来たこともあり非常に有意義であった。
2　研究テーマに沿って自分で考えながら実験を行う事でそれまで学んで得た知識を再確認出来たとともに，将来生かせる技術を身につけることができたと思うから。
2　自分の知識を深められた上，内定先でも役に立つであろう技術・知識を学ぶ事ができたため。
2　ある程度，自分の意思によって進めることができた。
2　学んだ専門的な知識は，将来に直接役には立たないかも知れないが，普段出来ない貴重な体験をさせてもらえたので，満足はしています。
2　論理的に考える力が身についた。
2　1つの目的に対し，自分で考え，実験を進める方法を身につけることができた。
2　おもしろいです。
3　先生に使われているという気がしたため。研究自体は自分のためになったと感じている。
3　結果を出すのが遅くなってしまったから。
3　規則正しい生活をおくれるようになった。
4　卒業研究で得た知識を今後活用する場面というのはないため，何のために研究していたのか分からなくなるときがある。
5　担当教員からこれといって教えてもらったこともなく，ただ怒られるだけだったから。

【生物資源学科】
1　充実していたから。
1　学生実験だけは得られない実験手法の獲得や，実験結果の考察の仕方など，たくさんの貴重なことを学べました。
1　実験を進めて行く際，講義等で学んだ事が生かせたり，あるいはさらに深い知識を身につけることができたので，学びの楽しさを感じましたし，実験があったことで大学に入学したことや大学生活に満足できました。
1　形式に合わせつつ自分の特徴・主張したことをいかに表現，伝えることの難しさを学んでいます。
1　非常に打ち込むことができたし，良い経験をさせてもらいました。
1　卒業研究を進めれば進めるほど，いろいろな技術や知識が身についた。とても良い経験になった。
1　実験手法やプレゼン力，文章構築力が向上したことが強く感じられた。
1　思い通りになることはほとんどありませんでしたが，充実した日々を送ることが出来，感謝しております。
1　新しい研究テーマということで，実験方法が確立されておらず，不安しかなかったが，先生方を始めいろんな人に協力してもらい，結果が得られたので，満足しています。
2　目の前の課題に対して，どう取り組むかを論理的に考える機会があってためになりました。
2　卒業研究を通して，1つのことにうちこんで考えることができ，よい経験になったと思いました。
2　自分の都合を優先してしまいがちだったが，何もおこることなく優しく指導してくださったため。

2　卒業研究がなかったら，大学で何を学んだかと聞かれたら答えられない。
2　決められた期間での取り組みについては満足している。しかし，専門性を身につけるためには，卒業研究の期間をのばす必要があると感じた。
2　ずっと興味のあったことを深く学んでみることができたため
3　卒業するためのただの義務だから。
3　研究内容は充実していたが，自分の達成率は低かったと思うから。
4　自分の中で納得のいく成果が得られなかったため。

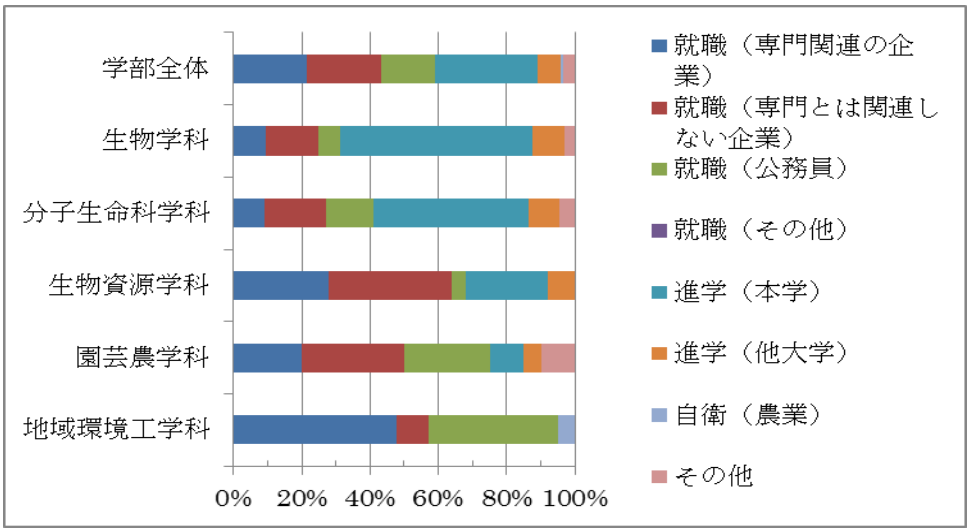
【園芸農学科】
1　大学生としてやるべきことだと考えるし，結果は思うようにでなかったが，やって良かったと思う。
1　自分でテーマを見つけて取り組むことは将来の自分のためになると思う。
1　特定の内容について理解を深める事ができ，修士まで研究したいと思える内容であったから。
1　自分の納得がいくまで，研究できたから。
1　ポスターや卒業論文をゼロからつくりあげるのは大変だったがやりがいを感じた。
1　研究成果だけでなく，多くの物を得られ成長することができたから。
1　人生で論文を書くという機会はおそらくこれっきりであり，非常に良い経験になった。良い意味で最も大学生らしい勉強をさせてもらった。
2　データ処理の方法，統計などについての操作がわかったため。
2　たくさんの経験ができたから。
2　予想した結果にはならなかったが，物事をいろいろな角度で考えられるようになったから。また，物事の組み立て方，構成などが上達できたと思うから。
2　一年を通して一つのことに取り組んだことで，達成感を得た。
2　卒業研究を行うことは大学生活 4 年間の集大成であり，研究を通じて学べることは多く，失敗することも貴重な体験であることを実感することができたから。
2　興味を持って取り組んだ研究に一応の結果を出すことが出来たから。
3　就活とうまく両立させられなかったため。公務員になりたかったので勉強と実験でバランスがとれなかった。実験で 1 日が潰れることもありつらかった。
3　何事にも計画的に取り組まなくてはいけないと卒業研究を通して感じた。実験のために就活をあきらめたことがあり辛かった。

【地域環境工学科】
1　卒業研究を進める過程で，自らの考えを論理的に示すこと，表現の仕方，発表のスキルなど，多くの知識や技術を学べた。また，研究を進めるにあたり，多くの方々と出会い，お話しできたことは貴重な経験となった。
1　卒業研究を行ったことによって，1-3 年生で学んだカリキュラムを活かし，それらを応用することによって見方が変わり，視野（見解）を広げることができた。卒業研究を通じ，学科の教育目標に最終的に近づけたと思っている。
1　研究成果として，1 つの物を作り上げることが出来，研究をとおして　様々な人と出会い，多くのためになる話を聞け，実際に現地へおもむき調査をしたり，研究室の中にばかりいるので

はなく，身体を動かして自ら体験することによって得られる自分なりの経験のつめ，プレゼンの仕方も教わることができた。研究室に所属してから卒業までに，多くの貴重な体験が出来たと思うため。

1　研究内容が興味のある内容だった。
1　大変だったが楽しかったから。
1　自分の興味ある分野について深く取り組めたため。
1　苦しんで成長できた。
1　実際に現場へいくのでとてもよい刺激になりました。
2　自分の興味のある分野・事柄を研究し，一定の成果としてまとめることができたから。
2　卒業研究を行ったことから学ぶことは多かった。しかし内容には若干不備があったように思う
2　一年かけてやってきたものが卒業研究として残せることができたから。
2　講義とも違って自分で設定し考え調べるということが，いかに大変で重要なことだと知れたから。
2　新しいことを学べたから
2　楽しく実験を行うことができたし，良い経験となったから。
2　いい経験になったと思ったから。
3　最初はすごく興味をもって取り組んでいたが，途中から興味が薄くなったため。
3　学びたい研究室にはいったはいいものの，内容が私には難しすぎた。
3　時間の中でできなかった実験もあったから。

設問 16.（1）あなたの卒業後の進路は次のどれですか。



図Ⅰ-16(1)．卒業後の進路

学部全体では就職した者の割合は 59%で、平成 23 年度 58%、24 年度の 63%と類似の水準であった。進学（本学と他大学）した者の割合は 37%で、平成 23 年度と 24 年度の 30%と類似の水準であった。このうち、大学院（他大学）への進学者は 7%で、平成 23 と 24 年度の 10%より微減した。自営（農業）に進んだ者は 1 名のみで、平成 23 年度と 24 年度と同人数であった。

学科単位でみると、就職した者の割合が高いのは、地域環境工学科の 95%、園芸農学科の 75%、

生物資源学科の 68%であった。このうち地域環境工学科は公務員になった者の割合が、38%と高かった。一方、進学（本学と他大学）した者の割合が高いのは、生物学科の 66%、分子生命科学科の 55%、生物資源学科の 32%であった。以上の学科単位での進路の特徴は、最近 3 年で変わらない。地域環境工学科は、最近 3 年間でみると進学する者（本学と他大学）の割合は 10%に満たなかったが、本年度は 0 人であった。

(2) 本学部のカリキュラムで学んだことは，進路にどのように影響しましたか。

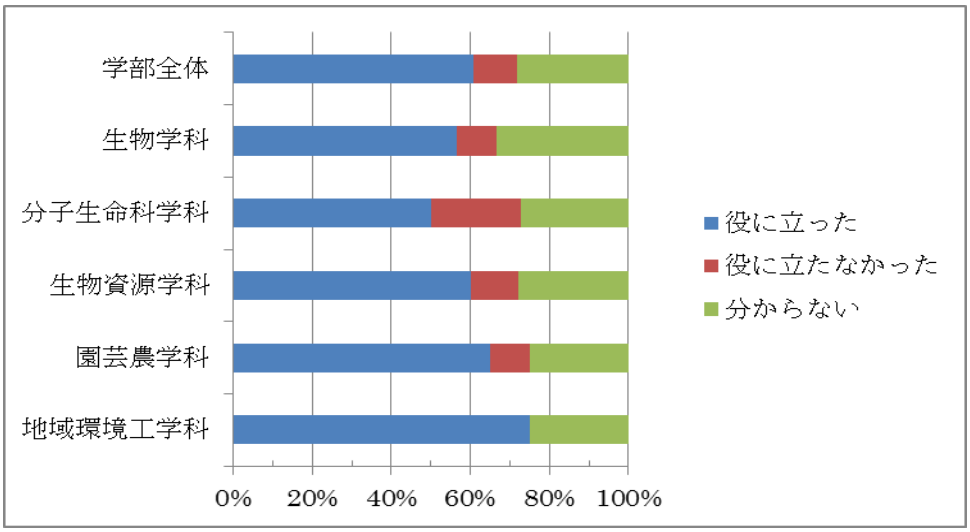
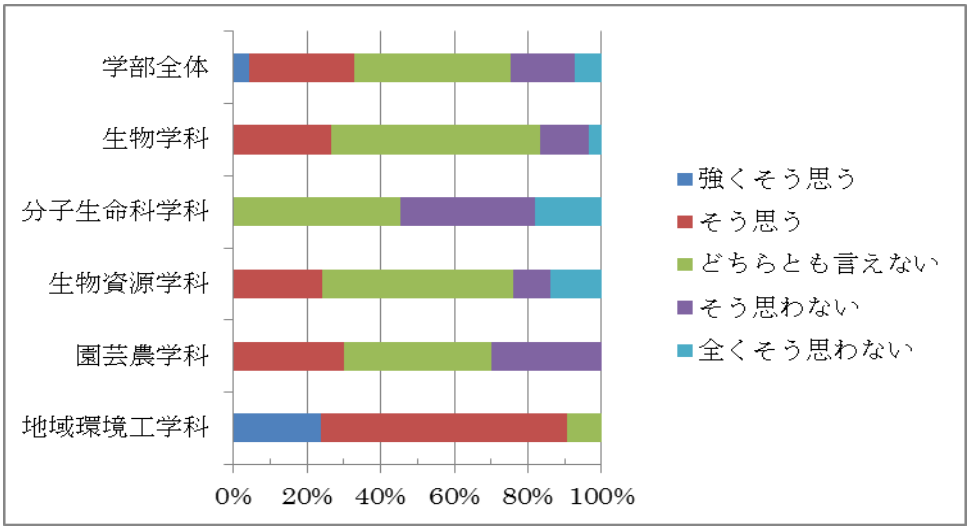


図 I -16(2)．カリキュラムで学んだことはどのように進路に影響したか

カリキュラムで学んだことはどのように進路に影響したかについて、学部全体では「役に立った」は 61%、「役に立たなかった」は 11%であった。平成 23 年度はそれぞれ、49%と 10%、24 年度はそれぞれ、47%と 17%であった。

学科単位で見ると、地域環境工学科で「役に立った」が 75%で 5 学科中最高値である一方、「役に立たなかった」が 0%で 5 学科中最低値であるのは、進路が「就職（専門関連の企業)」と「就職（公務員)」の合計で 86%にも達することと、関連しているかも知れない。

(3) 本学および本学部の進路支援に対する取り組みは充分だったと思いますか。



図Ⅰ-16(3)．本学部の進路支援の取り組みは充分か

本学部の進路支援の取り組みは充分だったかに対して、学部全体では「強くそう思う」と「そう思う」の合計は 33%で、「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計が 25%で、肯定的評価と否定的評価が拮抗していた。平成 22 年度はそれぞれ 30%と 29%、23 年度はそれぞれ 45%と 19%、24 年度はそれぞれ 36%と 15%であった。最近 2 年間の「肯定的評価＞否定的評価」から 3 年前の「肯定的評価≒否定的評価」に戻ったということか。

学科単位でみると、分子生命科学科では「強くそう思う」と「そう思う」の合計が 0%である一方で、「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計が 55%で、それぞれ 5 学科中で最低および最高値であった。これと対照的に、地域環境工学科では「強くそう思う」と「そう思う」の合計が 90%である一方で、「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計が 0%で、それぞれ 5 学科中で最高および最低値であった。この相違には、進路に関する相談先に関する設問 12 (3)で、いずれの相談先も「利用したことはない」と回答した割合が分子生命科学科は 5 学科中最高値の 54%であるのに対し、地域環境工学科は最低の 8%であったことが関連しているかも知れない。

[本学部の教育のあり方について]

設問 17.（1）あなたが本学部を卒業するに当たり，大学卒業者としての知識や学力を身に付けたと感じていますか。

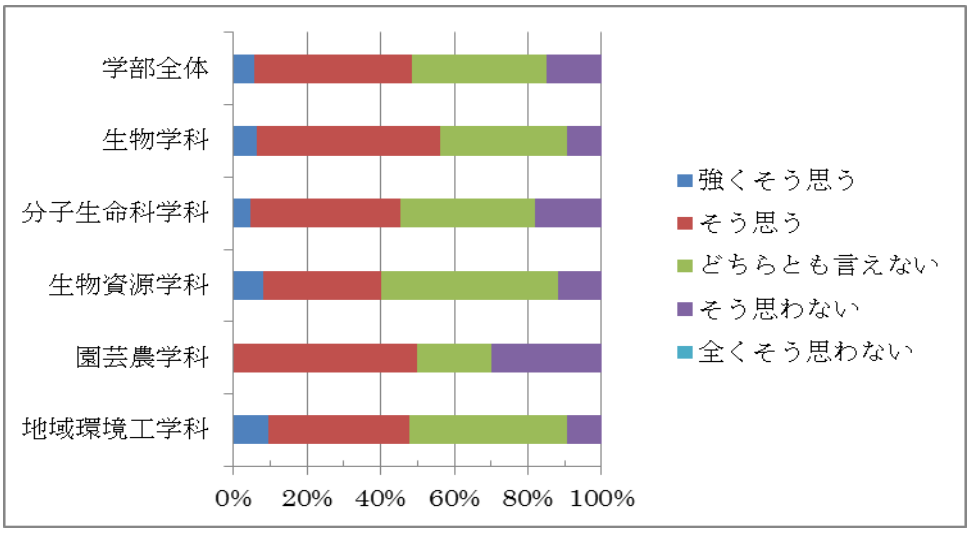


図 I -17. 大学卒業者としての知識や学力を身に着けたか

大学卒業者としての知識や学力を身に着けたかに対して、学部全体では「強くそう思う」と「そう思う」の合計が 48%、「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計の 15%を大きく上回っていた。平成 22 年度はそれぞれ 37%と 25%、23 年度と 24 年度はそれぞれ 49%と 13%で、最近 3 年間はほぼ同じ数値になっている。

学科単位でみると、「強くそう思う」と「そう思う」の合計が最も高かった学科と低かった学科は、それぞれ生物学科と生物資源学科でその差は 16%であった。23 年度はそれぞれ地域環境工学科と分子生命科学科、24 年度はそれぞれ地域環境工学科と生物資源学科で、いずれの年度も差が 30%程度あったので、本年は差が縮小された。

「そう思わない」理由として、意欲や努力不足、受動的姿勢、知識不足あるいは社会人基礎力の不足を挙げている。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない
5. 全くそう思わない

【生物学科】

1　卒論として恥ずかしくない内容の研究をすることができ，知識や技術がみについたとかんじているから。

1　自ら勉強し物事を対処していくための下地が 4 年間で身についたと思うため。

2　専門分野においては，十分な知識を付けられたと思う。

2　学んだ知識をいろいろな場でいかせる。

2　実験や実習を通して生物学全般の知識を身につけることができたからです。学力に関してはもう少し頑張れば良かったと少し後悔しております。

2　考える力や聞く力は向上した気がする。
2　生態学的知見を深めることができたため。
2　高校よりも深い知識は身についたと思います。また，研究するにあたり，様々な器具の使い方も学べました。
2　人並みには頑張ったと思うので。
2　他大学の方や一般の方と専門に関連した話もそうでない話も自分の意見をもって話せるようになった。
2　3，4 年生に入ってから，より多くの専門教科を学び色々な方面から物を考えることができるようになったと思います。
2　他の人が体験できないようなことを大学で体験できた。
2　入学する前と比べて，成長できている気がするから。
2　4 年いたから
3　実際に，自分が知識や学力をつけれたという実感がないため。
3　大学生という存在が昔に比べどのような存在に変わったかを考慮しても自分の知識学力が不足していると思うから。
3　勉強をやればやる程，分からない事が多くなってしまい，今まで学んだ知識があいまいになってしまった。もっと深く物事を考えなければいけないのではないかと思った。
3　基本的な知識は大学でえられるレベルで身につけられたと思う。しかし，その知識を活かす手立てを身につけるには少し時間が足りないように感じた。
3　基準がわからない。
4　一つ一つの講義や実験で学んだ事以上のものを，もっと学ぶべきだったと思うから。
4　まだ学ぶことは多いと思うから。
4　単位を取得するために最低限の学習しか行わなかったため，知識がほとんど身についていないから。

【分子生命科学科】
1　今後の実験でひるような知識を深く学べ，また，必要な情報を取得する術も身につけた。
2　4 年間を通して様々なことを学べたから。
2　一般的な教養についてはしっかりと身についたと思うため。
2　ips 細胞や STAP 細胞のニュースについて理解出来るから。
2　高校生以上程度には専門知識が身についている。
2　もう少しいろいろなことを相互に関連させて理解を深め，研究の役に立てることができたのではないかと考えたため。
2　自分自身で在学有中に勉学をがんばったから。
2　化学・生物系の専門的知識を身につけることができた。
3　社会にでてから使える知識ではないが，専門的な勉学はできたから。
3　入学前と比べたら知識や学力ははるかに上回っていると思うが，自分がイメージする社会が求める大学卒業者としての学力や知識を身につけたかと問われたらそうではないと思うから。もっと身につけるべき知識はあると思うから。
3　小さい頃思っていた大学生とは異なっている。

3　自分が専攻した分野については，ある程度の知識・学力が身についたと感じるが，他の分野にかんしてはそうはおもわないため。
3　もう少し自らで学ぶ事をふやすべきだったと思う。
3　講義でならったことは，本を見ないと思い出せない。
3　大学生活，アルバイト等を通して人間的に高校生よりは成長できていると思いますが，知識はもっと身につけるべき，足りないと思います。
4　自身から進んで行こうとすることがあまりなかったため。
4　自身の努力がたりなかったので。

【生物資源学科】
1　高校卒業時の自分のことを考えると幼かったし，社会人として生活していくのは大変だと思うから。
2　講義・実験で知識を身につけることが出来たと思いますし，何かに取り組むときの計画実行反省等のこれから役に立つであろうことを学べたと思う。
2　自主性が最も役立つものと確認できたから。
2　研究室内での生活を通し，充分な知識を得ることをこれからも続けてみたい。
2　4年間で確実に勉強していたから。
2　この学部・学科でないと得られなかった知識はたくさんあったし，学校以外の場で話せるくらい身についたと思う。
3　興味のあるものは意欲的に取り組んだが，興味がわかない教科は勉強不足だと感じるため。
3　社会に出てからでないと，知識や学力が身についたと実感できないような気がする。質問の答えになっていないようですが・・・。
3　専門にかたよっている状態であると思うから。
3　一般常識と言った点では身についたと思えるが，専門知識は不充分だと思っているため。
2　自分の研究室の分野に関する知識をある程度身につけることができたから。
3　本当に身についた知識などはわずかしかない。
3　もっと勉強しないといけないと思う。
3　専門的な知識は身についたが，高校等で学習した知識を忘れてしまった気がする。
3　知識の幅が狭すぎると思います。
4　講義はたくさん聞いたが，1日に5コマや4コマなど講義をとっていたため勉強時間におわれ知識の幅は広くなったのかも知れないが，浅いものであると感じているためです。
4　自身の勉強不足のため。実際に研究室という場に入ってみることで，自分に向いていないと感じたため。

【園芸農学科】
2　最低限の知識は得たと思うが，実地で役立てられる力は身につけられていないから。
2　社会に出る上で，必要な物が身についたかは分からないが，農業に関しては基礎的な知識を広く身につけることができたから。
2　自分が知見として得たことを，第3者に教えることができるようになったから。
2　農学に関する基本的なことを学べたので。

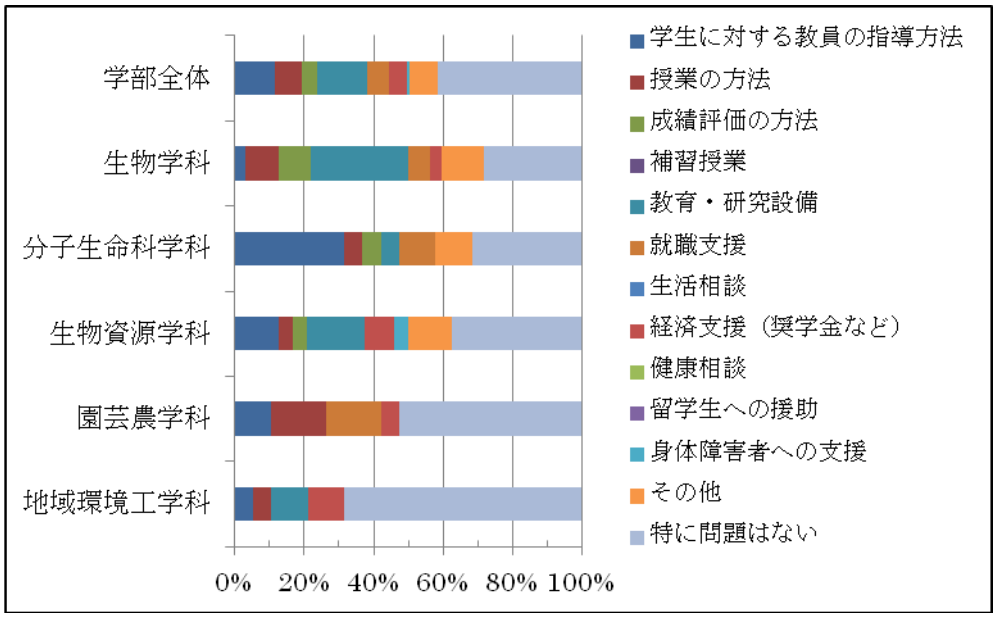
2　4年前と比較して，確実に知識量が増えたから。
2　ニュースや新聞を見てある程度内容が理解出来るようになったと感じるから。
2　一側面だけでなく，多面的に物事を考えることが身についたため。
2　様々な側面から農業について学べたから。
2　専門的な知識を多く身につけることが出来たと思う。
3　学力が自分にはあまり身につかなかったと思う。
3　どのくらいの学力や知識を身につけているのか，自分では判断しにくい。
4　上手く表現できません。すいません。
4　専門的な知識に対して，受容的な姿勢でいたため，不十分ではないかと強く感じたため。
4　記憶した知識量が少ないから。
4　講義に対しての意欲が低かった。自分の努力不足。

【地域環境工学科】
1　専門的な知識が身についたから。
2　少なくとも高校生よりは，自ら考え発信する力を養えていると思う。
2　興味のある分野に関しては知識が身についたと思うが，そうでない分野は，身についていないように思うから。
2　就職試験で専門的な知識を活用できたから。
2　大学で学んだ知識が，最後の卒業研究に活かされたと思っているので，知識が学力を身につけられたのではないかと思っている。
2　専門科目の単位を取れたことで，ある程度知識は身についたと思うため。
2　会社でも必要とされるであろう知識を身につけることができたため。
2　専門的な知識をつけられたと思ったから。
2　広く身につけることが出来たと思う。
3　覚えていることもあるが，ほとんどは忘れてしまっているため。
3　学びはしたが，数年のうちに忘れそう。
3　ある程度は学んだとかんじてはいるが，まだ学べることはあると感じているため。
3　基礎的なもの（数学・英語など）については，継続的な勉学が必要だが，私は専門分野にかかりっきりになっていたため，おろそかになったから。
3　仕事で知識を活かせるか不安。
3　学んだことをだんだん忘れていくから。
3　あまり良い成績をとれなかったから。
4　社会で生きていく上で必要な基礎に乏しく，新社会人としては不十分です。大学で学べなかったことは，社会から学ばなければなりません。
4　今，心に残っているものが多いから。

設問 18.（１）本学部の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を，次の項目の中から一つを選んで下さい。

1. 学生に対する教員の指導方法　2. 授業の方法　　3. 成績評価の方法　　4. 補習授業　5. 教育･研究設備　6. 就職支援　7. 生活相談　8. 経済支援(奨学金など)　9. 健康相談　10. 留学生への援助　11. 身体障害者への支援　　12. その他（　　）

13. 特に問題は無い



図Ⅰ-18. 早急に改善すべき点

学部全体でみると、選択肢の中では「特に問題は無い」が 42%で最多であった。平成 23 および 24 年度も「特に問題はない」が最多で約 35%であった。早急に改善すべき点として選択された上位 5 項目は、学部全体でみると「5. 教育・研究設備」(14%)、「1. 学生に対する教員の指導方法」(12%)、「2. 授業の方法」(8%)、「6. 就職支援」(6%) および「8. 経済支援（奨学金など)」(5%) であった。平成 23 年度～24 年度にこれらの 5 項目の選択割合と順位は異なるものの、常に上位 5 位以内に入っている。「6. 就職支援」の割合は平成 22 年度 21%、23 年度 14%、24 年度 7%と年々減少してきた。これは、全学および学部における就職支援体制の整備充実は図って来た成果と理解される。

学科単位で見ると、「1. 学生に対する教員の指導方法」と「2. 授業の方法」の合計が分子生命科学科では 37%と、園芸農学科では 26%と高かった。平成 23 年度は分子生命科学科が 32%、園芸農学科が 28%、平成 24 年度は園芸農学科が 29%、生物学科が 26%、生物資源学科が 25%であった。4 人に一人が指摘している点は重く受け止め、改善を図らなければならない。

「5. 教育・研究設備」に関する具体的要望として、例えば、「暖房が使えないところがあったりするのでそこだけどうにかしてほしい。」、「できればエアコンが 1 つでもついていると夏も快適に研究が出来ます。」、「農生図書館をさらに充実させるべきだとおもう。現状では附属図書館の方が遠くても情報を得るためには有用であり，農生の方の存在意義が薄いと考えられる。」、「学生実験で使用した実験器具を壊れた物を買い換えて欲しいと思います。」があった。

「1. 学生に対する教員の指導方法」に関する具体的要望として、例えば、「学部生全員がその学部の専門知識を使った職業に就くわけではないことを理解してない。研究に対する指導がまるでない。教員のコミュニケーション能力がない。」、「研究室に配属後「うつ」になる学生が多い。怒鳴る教員や罵倒する教員などもいるので改善が必要だと思われる。」、「一部教員の一部学生に対する贔屓的態度。」、「就職，大学院への進学，その他と人それぞれ進路は違うのになぜ皆同程度の研究成果や研究時間を求められなければならないのか。」、「教員 1 人に 1 つのゼミではなく，複数人の教員にすべきだと思う。教員と学生では，合う合わないがあるので 1 人の教員と合わなかったとき大変ではないか。」、「期限間近にならないと対応してくれなかったり，学生の考えや意見を全て否定し自身の考えを押し通そうとする指導があったため。また就活を許してくれない・させてくれない研究室もあるので，学生への対応については改善すべきだと思われる。」があった。

「6. 就職支援」に関する具体的要望として、例えば、「2 月に行われる合同説明会での業種の拡大」、「就職活動に集中して取り組める期間があったら良いなと思う。」、「他の大学に比べガイダンスや，学内セミナーの開催が遅く感じるため。」、「一年の時から進路を意識したセミナーなどを行ってほしい。」があった。

「8. 経済支援（奨学金など）」に関する具体的要望として、例えば、「無利子や返還しなくてもよいものをもっと増やすべきだと思う。」、「成績優秀者に給付型の奨学金があっても良いと思う。」、「大学院への進学もしたかったが，金銭的理由もあり難しいから。」があった。

⑵ 上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。

【生物学科】

1　指導教員によっては役職によって，かなり忙しい様に感じた。もし，可能であるならば仕事内容を分散させる必要があるのではないかと思う。
2　単位を取るときに，うけたい内容だが，単位的に取る必要がないものだったりして受けないという結果になったので，もっと単位の幅を広くして欲しかった。
2　先生毎に差がありすぎる。
3　講義によって欠席による減点の有無があるため学生の単位取得に不平等が生じている。
3　評価の方法と言うより成績開示の方法の改善や成績表の表記ミスをなくしてほしい。
3　4 年次になってやっとでてくる取得単位数の欄をせめて 2 年次からだしてほしい。
5　暖房が使えないところがあったりするのでそこだけどうにかしてほしい。
5　できればエアコンが 1 つでもついていると夏も快適に研究が出来ます。
5　研究費にもう少し余裕がほしい。
5　協同で使用している備品の使用頻度を調べて，現在あるものだけでは足りないとおもわれるものをおぎなってほしい。
5　農生図書館をさらに充実させるべきだとおもう。現状では附属図書館の方が遠くても情報を得るためには有用であり，農生の方の存在意義が薄いと考えられる。
5　欲を言えばクーラーが欲しいです。

5　実験室を。1 台でも良い顕微鏡があるとうれしい（2 年　実験室）
6　2 月に行われる合同説明会での業種の拡大
6　生物を専門にした職へつく人が少ないのではないかと思うから。
8　無利子や返還しなくてもよいものをもっと増やすべきだと思う。
12 その他（授業の取り方）授業によっては，その授業をとれない学年があったり，教職に関する授業と専門の授業がかぶっていることがあるので改善してほしいです。
12 その他（教務の対応）
12 その他（英語教育に関して）1 年生で行われる英語の科目は高校で学ぶ内容の延長のような感じで，あまり自分にとって意味がなかった。高校で学んだことの復習のような印象を受けたので，やるならば本当に身につく（使える）英語として英語を本当の意味で使えるようになるための授業を行った方が，学生のためにもなるのではないかと思いました。
12 その他（タバコ）喫煙スペースつくって欲しい。目指すべきは「禁煙」じゃない「分煙」だ。

【分子生命科学科】
1　学部生全員がその学部の専門知識を使った職業に就くわけではないことを理解してない。研究に対する指導がまるでない。教員のコミュニケーション能力がない。
1　研究室に配属後「うつ」になる学生が多い。怒鳴る教員や罵倒する教員などもいるので改善が必要だと思われる。
1　一部教員の一部学生に対する贔屓的態度。
1　就職，大学院への進学，その他と人それぞれ進路は違うのになぜ皆同程度の研究成果や研究時間を求められなければならないのか。
1　教員 1 人に 1 つのゼミではなく，複数人の教員にすべきだと思う。教員と学生では，合う合わないがあるので 1 人の教員と合わなかったとき大変ではないか。
1 と 5 と 6　それぞれの専門別の求人を増やしていってほしい。
1 と 7　リタイアする学生を減らせるように工夫するべき。
2　学科の学生実験において行う順を変えた方が生徒にとってやりやすいと思う。
3　テストを返却してほしい。
5　実験機器の拡充を。
12 その他（カリキュラム）しいて言うなら，もっと大学全体として柔軟にしてほしい。たとえば私の学科の場合，専門性を広げるという意味で，理工学部や医学部など他学部の授業に参加できたり，など。「学びたい」に対して，もっと対応してほしかった
12（予算）

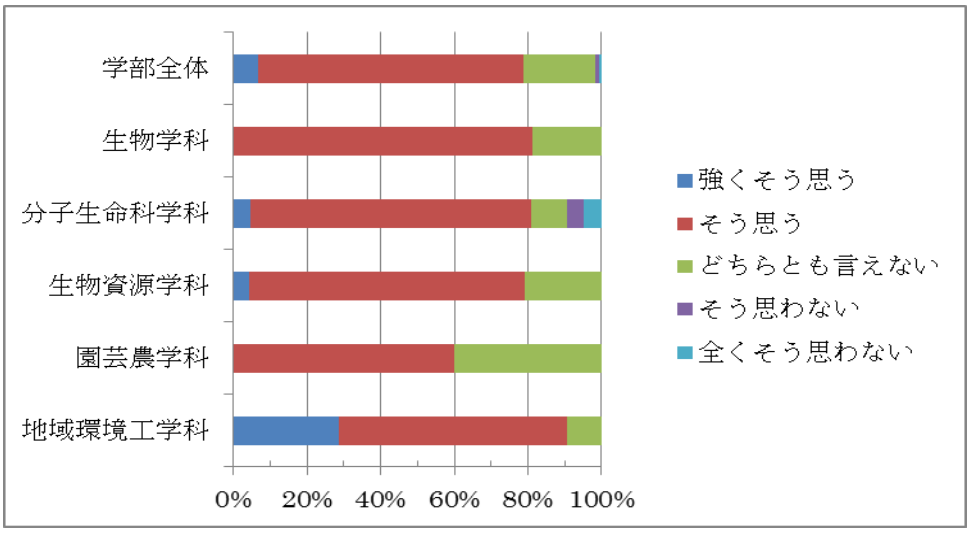
【生物資源学科】
1　研究室の教授次第になるのは運命だが，酷の程度が差がありすぎる。後，イロイロ雑。
1　学生がわかっている前提で専門的知識，用語で話されても理解できない。分からないことを聞いた際に，その答えに対する周辺知識を一気に話されても混乱してしまう。以上を改善してもらいたい。
2　ゼミ所属を半年はやめてほしい。または 2 年生のうちにコース所属を先にしてほしい。そのために，1 年生のうちに専門教科をふやしてほしい。あと農生概論も学科全員の先生でやってほ

しい（できないなら他学科とわけてほしい)。
5　学生実験で使用した実験器具を壊れた物を買い換えて欲しいと思います。
5　有益な研究を行っている先生方々の日々の努力を見ているとそう思います。
5　もう少し空調等の設備を充実させるべきだと思う。
8　学費・生活費・就活費用を稼ぐためにアルバイトを多く行い，勉強にかける時間がすくなくなってしまう友人がいることから，経済支援が必要であると感じました。
11　アルバイト先の塾で，車いすの学生が入学希望で見学に来た際に，ぞんざいな扱い（適当にあしらわれたそう）を受けたらしいので，改めるべきだと思います。
12 その他（学生への自習の喚起）
12 その他（教務課の対応）
12 その他（履修科目）3 年や 4 年にならないと履修できないという制限は少し厳しかった。
13　特にないですが，あるとすれば英語にもう少し力を入れるなど。

【園芸農学科】
1　期限間近にならないと対応してくれなかったり，学生の考えや意見を全て否定し自身の考えを押し通そうとする指導があったため。また就活を許してくれない・させてくれない研究室もあるので，学生への対応については改善すべきだと思われる。
1　病欠ややむを得ない事情で欠席した際の対応。
2　少人数講義を増やしてほしい。
6　就職活動に集中して取り組める期間があったら良いなと思う。
6　他の大学に比べガイダンスや，学内セミナーの開催が遅く感じるため。
6　大学で学んだことが全て就職後に活かせるとは考えられず，そのためにも必要最低限の教養を身につける活動の支援が行われた方が良いと思います。
8　成績優秀者に給付型の奨学金があっても良いと思う。

【地域環境工学科】
1　教員による生徒の好き嫌いを表に出した態度を改善すべきだと思います。
2　2 年生の頃，専門科学と興味のあるテーマ科目がかぶり，非常に残念な思いをした。専門の時間割にもっと配慮を。
2　生物学の基礎で全部英語で書いてあるスライドはやめてほしい。
3　英語の先生（医学部の中野先生？）が，自分が宿題を見せていた友達の方に良い成績を付けていたため。一体何をもって成績を付けているのかわからない
5　もう少し整備を整えて，きれいにしても良いと思う。
6 と 10　一年の時から進路を意識したセミナーなどを行ってほしい。留学生との交流及び留学にかんしても力を入れてほしい。
8　大学院への進学もしたかったが，金銭的理由もあり難しいから。
13　自分の在学中は特に不満をかんじるようなことはなかった。

設問 19.（1）総合的に判断して，本学部・学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。



図Ⅰ-19. 本学部・学科の取り組みに満足か

本学部・学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますかという設問に対して、学部全体では「強くそう思う」と「そう思う」の合計が 79%で、「そう思わない」と「全くそう思わない」は各 1 名で 2%に過ぎなかった。

過去のデータを見てみると、肯定的評価は 19 年度 57%，20 年度 63%，21 年度 63%，22 年度 50%，23 年度 62%、24 年度 73%のように推移している。否定的評価は 19 年度 9%，20 年度 5%，21 年度 11%，22 年度 11%，23 年度 5%、24 年度 6%であった。

したがって、本年度は 19 年度以降で、肯定的評価が最高値である一方、否定的評価は最低値となった。

(2) 上記のように回答した理由を記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない
5. 全くそう思わない

「強くそう思う」や「そう思う」を選択した理由として、大学生活、講義の内容、卒業研究の内容あるいは研究室での生活に満足できたことを挙げていた。

【生物学科】

2　興味深い授業や研究ができて，とても有意義だったと思います。
2　研究室での生活は将来にとって非常に有意義なものであったとおもうから。
2　楽しかった。ためになった。
2　講義や研究への取り組みの強さがうかがわれるが，より学びたいと思っている人たちにさらに支援体制をつくってほしいため。
2　弘前大学でしか学ぶことができない分野（教員・フィールド）を身につけ，学ぶ事ができ，この大学で 4 年間過ごせたことを誇りに思うから。

2　卒業研究を十分に行う事ができたから。
2　大学が学生にとっては主体的に学問に励む場であるとすれば，設備（特に図書館）以外は，農生の取り組みは充分だと思われるため。
2　良いけど，お金のなさ（科研費とか）がマイナス。お金がほしい。
2　研究室配属が他大学に比べ早いのはいいことだと思う。
2　生物学科として入学したが，農学的な内容も学習することができたことは，農学生命科学部をもつ弘前大学にしか出来ないことだと思うから。
2　教育研究は楽しくできまた，内容も体験が多く満足した。
2　良い先生，良い仲間とめぐり会えたから。
2　大きな問題はないと思う。
2　個人的には，だいたい満足して勉学ができたので。
3　後2年残って確かめます。
3　素晴らしい先生方も多くいらっしゃるが温度差がある。
3　実習は興味を引く物があった。しかし，数が少ないのではないかと思った。それと就職が不安である。
3　弘大しか知らないので比較できない。

【分子生命科学科】
1　学部生活を充実に過ごすことができたので。
2　大学生活を通して不満に思うところは少なく多くのことを学べたから。
2　4年間を振り返ってみて強く不満を感じたことがあまりないから。学部図書室・・・貸出期間を2週間にのばしてほしい。1週間は短い。
2　自分が興味のあった生物学について深く学ぶ事ができたため。
2　それなりに楽しかった。
2　教育研究に関してはどの教員も熱心であったし，おかげで専門的な知識を得ることが出来た。
2　特に不満もないため
2　自分自身を教育目標に照らし合わせると，あまり達成できているとは感じないが，大学4年間を通して様々なことを学び貴重な体験ができて大学に入って良かったと感じたので満足しています。
2　良い研究室に巡り会えたから。
2　卒業後の進路がきまっているので。
3　強い不満はない
5　人として成長できる場ではなかった。研究でも古い実験方法での作業を求められ最新の方法を取り入れていない部分にも不満があった。

【生物資源学科】
1　興味のある分野について勉強できたので満足しています。
2　卒業研究等，農生でしかできないことを体験でき，充実した大学生活だったと思う。
2　卒業まで施設や実験室を充分に活用できましたし，講義に関しても学費にみあうくらい幅広く学んだつもりです。弘前大学を卒業できてよかったです。

2　バイテクを学び将来は，そのような進路を目指そうと思えたから。
2　まじめな方々が多い。
2　卒業研究を約1年間行ってきて，自分の考え方などがいい方向に変わったと思ったから。
2　4年間楽しかったから。
2　充実した4年間を送れたから。
2　学科に関しては研究室への配属時期をもう少し早めても良いのではないかと考えております。
2　学生生活中に特に不満などはありませんでした。
3　先生方のご指導や授業の方針に対しては，満足しているのですが，他学年の授業は履修できない場合があったので，そのことに対して不満を持っています。
3　学科・研究室間で差がありすぎると思う。

【園芸農学科】
2　留学生と関わる機会があったが，弘大のバックアップにとても感謝しているようでした。
2　講義は自分の興味があるものばかりで，わかりやすかった。
2　農業という広い分野で，基礎的な知識を得ることができたから，4年間お世話になりました。
2　無事に卒業できたので満足している。
2　多くのことを学ぶ事が出来たし，それに伴い様々な事を体験することが出来たから。
2　地域特有の研究分野や授業がたくさんあり，地域貢献を積極的におこなっている分野が多かった。
2　弘前大学で4年間を過ごせて良かったと思っている。
2　本学の取り組まれた教育や研究活動によって自分自身が得た経験値は自身にとって有意義であったと実感できたため。
2　学べる体制は充分整っていると思う。それに対してどう取り組むかは本人次第だと思う。
3　学校もろくに来なく，卒論もまじめに取り組まず授業もろくに出席しない学生の卒業を認めてもいいのでしょうか？大学の価値，弘前大学農学生命科学部のブランド力や信頼が下がると思います。下がった中で弘大の卒業生というのが恥ずかしいです。
3　その取り組みや姿勢をあまり把握できていないので分からない。
3　講義の内容はおもしろかったが，卒論については適切な対応があまり見られなかったため。
3　周りに流されて，目標をあまり持たずに生活してしまったため。
3　図書館が開いている時間が短い。もう少し遅くまで開いていて欲しい。

【地域環境工学科】
1　実際に使える専門知識を身につけられる学科だと思う。
1　学科や研究室を通じ，地域をより発展させる（活性化）農業土木を学んできた。学んできたことは，現在・将来的に身近にあるものだと思っている。これからの人として土木を通じて社会に貢献できることはとても素晴らしいと思う。だから，学部・学科の取り組み・姿勢には十分満足している。
1　楽しく学べたから。
1　自分の欲するところの知識と進路を決めることができ，とても満足したため。
2　大学生活を通じて，多くのことを学べ，無事進路を確定したので，満足している。強いていえ

ば学部の様々な研究室がどのような研究を行っているのかを知る場が欲しかった。また，国際交流や留学に関しても，もっと積極的であればよかった。

2　自分なりに考え，行動することができるようになったと感じるため。

2　結果的に，入学して良かったと思えるから。

2　大きな不満がなかったため。

2　勉強しやすい環境は整っていた。

2　農業土木の基礎となる科目が必修でありステップアップしながら深い専門の知識を得られるため。

2　専門に対する熱心な姿勢が感じられたから。

2　楽しみながら学習できたから。

3　不満はありませんが，取り組みや姿勢を強く意識するような場面はあまりありませんでした。

3　よくわからないから

Ⅱ．研究科修了時学生対象教育評価アンケート

１．アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学研究科の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため，２年間本研究科で教育を受け今まさに修了しようとしている学生を対象に，研究科における教育について総合的な評価を得ることを目的とした。

調査方法：教員をとおして研究室所属の研究科学生にアンケート用紙を配布し，無記名方式で行った。

調査対象：平成 26 年３月研究科修了予定者 54 名

調査期間：平成 26 年 2 月 18 日～3 月 20 日

有効回答者数：29 名

調査項目：設問は以下のとおりである。(ただし，下記の[　]の項目名は，回答結果の分析にあたってグループ化のために設けたものである。)

設問 1．あなたの所属コースをお答えください。

[研究科・コースの教育目標等の認識]

設問 2．本研究科の教育目的および教育目標を知っていますか。

設問 3．あなたが所属するコースの概要は添付資料の通りですが，コースの概要および入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

(1) 概要について

(2) 入学者受け入れ方針について

設問 4.(1) あなたが所属するコースの概要は添付資料の通りですが，コースのカリキュラムはその目標に合致していると思いますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

[コースの専門教育について]

設問 5．シラバスは受講する科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。

設問 6．(1) あなたが所属するコースで受けた教育（講義・演習など）について満足していますか（修士研究については設問１５で別に聞きます）。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 7．本研究科では年度初めに指導教員がガイダンスを行っていますが，その内容は適切であったと思いますか。

[教員の指導について]

設問 8．(1) 所属するコースの教員の学生への指導や対応に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 9．大学院で履修した科目の成績評価についてお尋ねします。

(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。

(2) 疑問や異議があったとき，あなたは実際にどこに相談し，その対応に満足しましたか。具体的に記入して下さい。

[学生の主体的学習について]

設問 10.

(1) 講義や演習の受講に当たり，あなたは 1 日平均どの程度の時間を予習や復習に当てましたか。教員が課した課題に対するレポート作成に要した時間も含みます。

(2)課題研究に要した時間は 1 日平均どの程度ですか。

設問 11. 大学院教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。

(1) あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。

(2) 大学在学中のカリキュラムで，もっとも印象に残った科目があれば，その科目名と理由を記入して下さい。

[学生への教育支援，施設・設備について]

設問 12. 本研究科や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，以下のようなルートを用意しています。在学中あなたは次の(1)～(3)の項目について主にどれを利用しましたか。（ ）内に番号を記入して下さい。

(1) 学業（ ） (2) 学生生活（ ） (3) 進路（ ）

設問 13. 本学部図書室の利用について質問します。

(1) あなたは在学期間を通して，平均どのくらい利用しましたか。

(2) 以下の項目について，どのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。

設問 14. 本学部の以下の施設について，どのように感じていますか。

(1) 下表の該当する欄に○を書き込んで下さい。

(2) 各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

[修士研究について]

設問 15. (1) 修士研究について満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 16. (1) 研究科修了後のあなたの進路は次のうちのどれですか。

(2) 本学部のカリキュラムで学んだことは，進路の決定にどのように影響しましたか。

(3) 本学および本研究科の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

[本研究科の教育のあり方について]

設問 17. (1) あなたが本研究科を修了するに当たり，大学院修了者としての知識および学力を身に付けたと感じていますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 18. (1) 本研究科の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を，次の項目の中から一つを選んで下さい。

(2) 上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。

設問 19. 本研究科で学生が期待する教育を受けるとともに充実した学生生活を送るために，希望する点や，大学または学部が改善すべき点があれば具体的に記入して下さい。

設問 20. (1) 総合的に判断して本研究科・コースの教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を記入して下さい。

２．調査結果

設問 １．あなたの所属コースをお答え下さい。

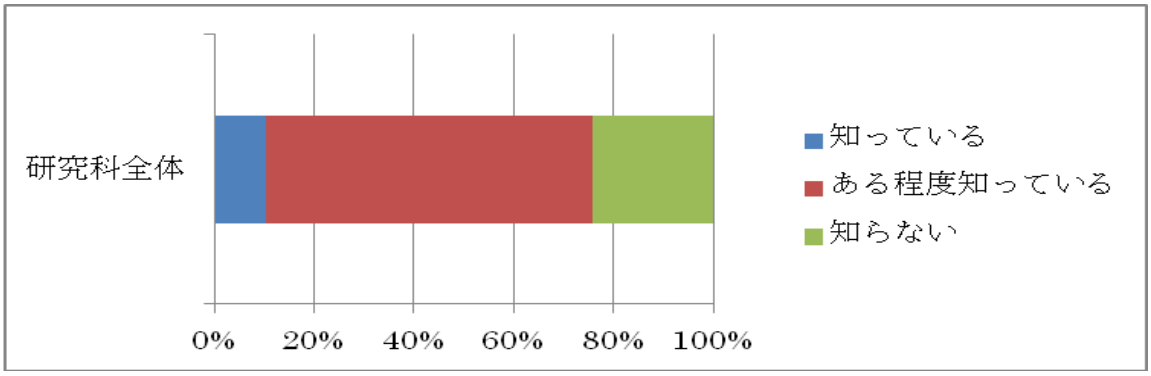
表Ⅱ－１．コース別アンケート回答率

コース	対象者人数（人）	回答者数（人）	回答率（%）
研究科合計	38	29	76
生物学コース	11	10	91
分子生命科学コース	13	11	85
生物資源学コース	8	5	63
園芸農学コース	5	2	40
地域環境工学コース	1	1	100

回答率は研究科全体で 76%であり，昨年より 15 ポイント増加した。大学院生が 5 名以上のコースのなかで最も回答率が高かったコースは生物学コースであり，91%であった。園芸農学コースは最も回答率が低く，40%であった。研究科全体の回答率が上がったのは，昨年度より調査開始時期が早かったためかもしれない。回答者数が 10 人未満のコースが過半数であるため，集計は研究科全体で行った。

[研究科・コースの教育目標等の認識について]

設問 ２．本研究科の教育目的および教育目標を知っていますか。

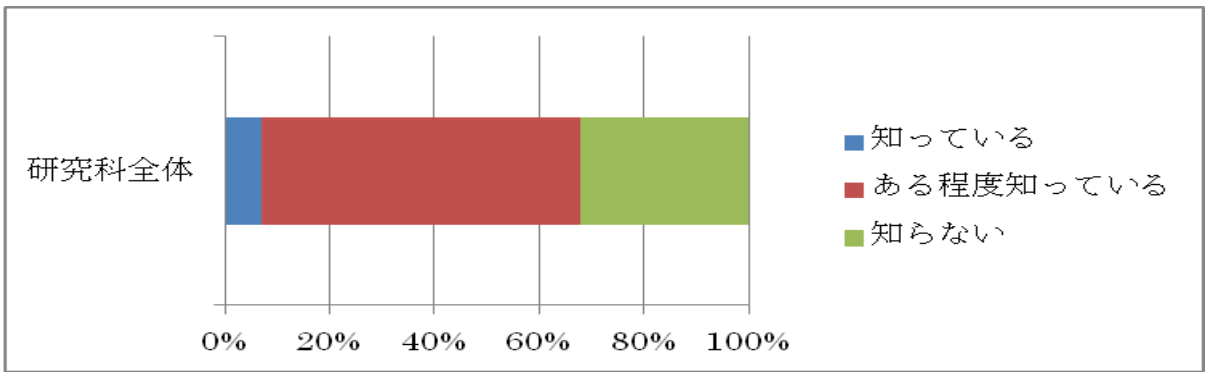


図Ⅱ－１．本研究科の教育目的等の認識

研究科全体では，「ある程度知っている」以上の肯定的な回答が 76%で，昨年度の 67%よりも高い。母数が少なくコース別の議論は出来ないが、昨年度と比べて改善が進行し、教育目的などが浸透してきていると思われる。

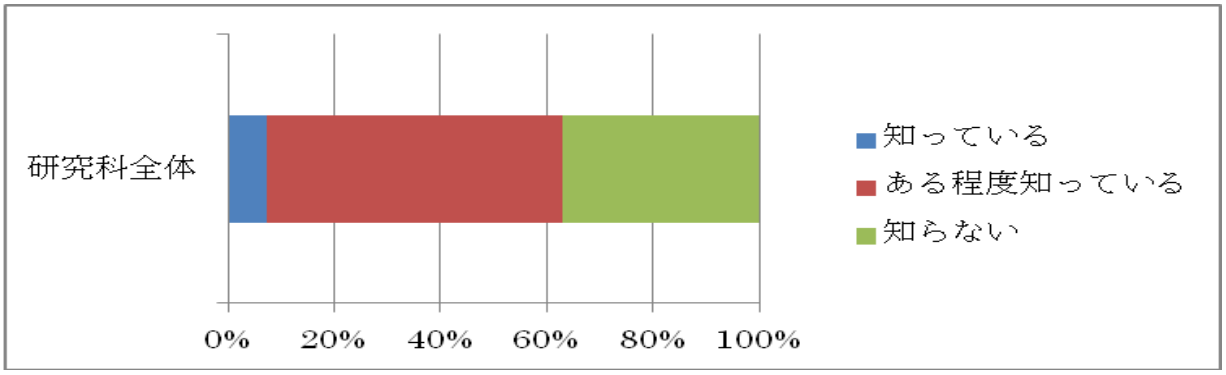
設問　３．あなたが所属するコースの概要は添付資料の通りですが，コースの概要および入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

（１）概要について



図Ⅱ－２．所属コースの概要の認識

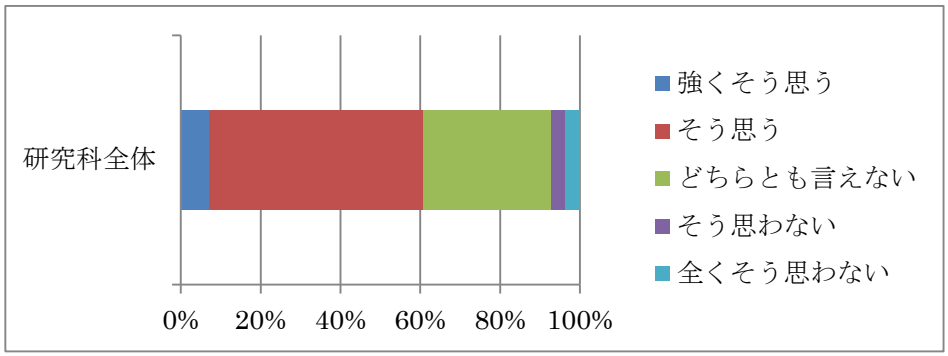
（２）入学者受け入れ方針について



図Ⅱ－３．受け入れ方針

研究科全体で見ると，（１）概要についての「知っている」と「ある程度知っている」は合計で68％で、昨年の 66％と同程度である。設問３の（１）は「概要」としているが，例年おおよそ認識している事が見てとれる。（２）の入学者受け入れ方針については，研究科全体で見ると，「知っている」と「ある程度知っている」の合計が 63％であり，昨年の 45％より多かった。 大学院説明会の実施が奏功したものと思われるが、今後も改善していく余地があると思われる。

設問 ４．（１）あなたが所属するコースの概要は添付資料の通りですが，コースのカリキュラムはその目標に合致していると思いますか。



図Ⅱ－４．概要とカリキュラムの合致度

研究科全体では，肯定的な評価は 61%であり，否定的な評価は 7%であった。肯定的な評価は，56%であった昨年度と同程度である。大学院説明会の効果が現れているのかもしれない。

（２）上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

１．強くそう思う　２．そう思う　３．どちらとも言えない　４．そう思わない
５．全くそう思わない

[生物学コース]

2　生物生態系の保全に係る研究ができたから。
2　将来に役に立ちそうだと思ったため。
2　研究に専念しやすいカリキュラムだったから。
3　技術職を考えたカリキュラムはしっかりしていると思うが，一般の就職を目指す人に対してのカリキュラムはそうでもないと思う。院にきた以上，専門職を第一に考えたカリキュラムを立てるのはもちろんだが，一般職に進路を決めた人にとっては，就活期間に集中講義が入っていたりして大変だと思う。せめて修士 2 年の後期には授業がないようにするなどの配慮がほしい。
4　副コース科目の種類が少なく学びたいものがなかった。

[分子生命科学コース]

2　修論発表で，発表者の方々が，機構の解明において，分子レベルで具体的に研究していたため。
2　科目が幅広い分野にわたっており，広い視野を養えるようなカリキュラムになっている。（院だけではなく学部でも）
2　育成目標に向けた講義が多数開講されていたから。
2　コースの概要にそってカリキュラムが組まれていると思ったから。
2　講義内容が目標に対応していると思ったから。
2　授業内容については満足している。
3　分野が広いと思います。

3　目標自体を知らない。

［生物資源学コース］

1　ほど良いペースのカリキュラムで，しっかりと研究に集中できました。

2　研究内容が生物の環境適応についてのものだったので，直にコース概要には結びつかないかもしれないが，応用可能であると思ったため。

2　幅広い研究分野が存在しながらも，それぞれの研究室が，互いに協力し合いながら，研究に取り組んでいるように感じられるから。

2　生産は技術養成だけでなく普及する能力も必要とすると思う。

［園芸農学コース］

5　科目が少ない。先生にやる気がないためやっても意味がない。

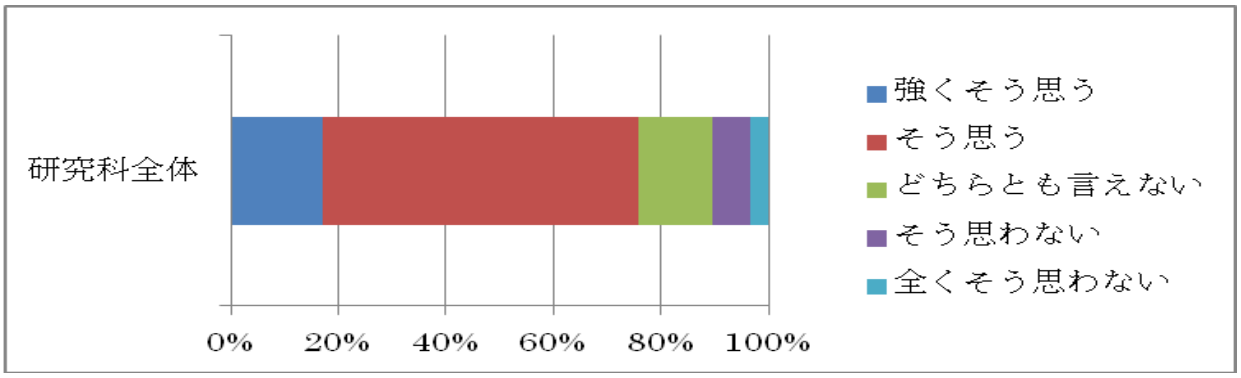
［地域環境工学コース］

1　農村整備のハード面リフト面からも研究が行われていたから。

カリキュラムは研究分野ごとの講義を主体に構成されているが，講義が「概要」の事項を網羅していると捉えた肯定的評価がやや多いようである。「科目数が少ない」など否定的な評価も見受けられた。

［コースの専門教育について］

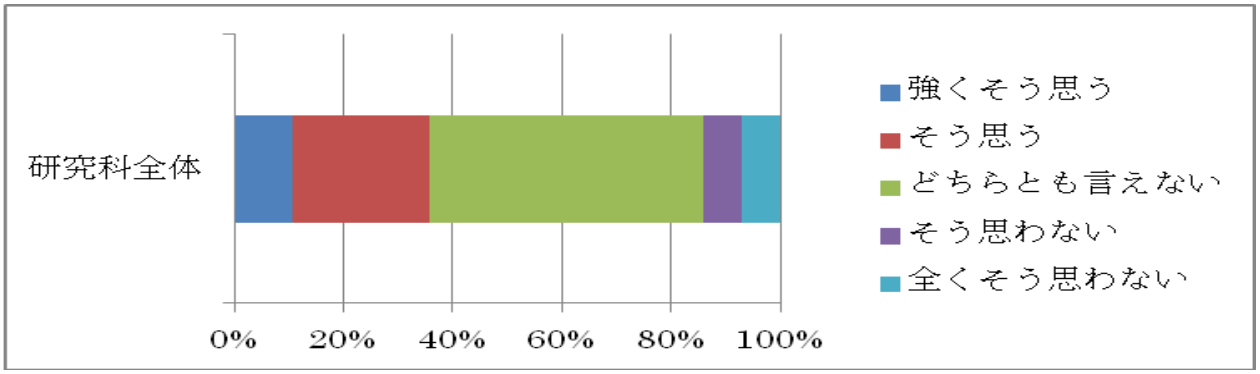
設問　5．シラバスは受講する科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。



図Ⅱ－5．シラバスの有用性

研究科全体で，肯定的評価は 76%であり，昨年の 85%よりも少なかった。シラバスと講義内容の整合性がやや低下したのかもしれない。

設問 6.（1） あなたが所属するコースで受けた教育（講義・演習など）について満足していますか（修士研究については設問 15 で別に聞きます）。



図Ⅱ-6．所属コースの教育に満足か

研究科全体では，肯定的評価は 36%，否定的評価は 14%であり，それぞれ前年度の 56%，16%よりも少ない。満足度が減少する傾向にあるといえる。

（2）上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1．強くそう思う　2．そう思う　3．どちらとも言えない　4．そう思わない
5．全くそう思わない

[生物学コース]

2　何かしらの形で，自分の研究に関わる部分もあった。
2　知識の幅を広げられたから。
3　授業が多すぎる気がしました。研究に集中できるように，もう少し授業数が少なくてもいいと思います。
3　副コースは本当に使えるのかよくわからない。他学科の授業を受けることもためになるかもしれないが，同じ学科の中の別分野を副コースとして受けられると，もっと有意義だと思う。（たとえば，生物学コースでも野生研ならば，同コース内の森林系の授業をうけるなど）普通に授業としても受けられるかもしれないが，他学科のつながりのうすい授業を副コースとして受けるよりもいいと思う。
3　プレゼン演習Ⅱは M1 時にやってほしかったから。
3　プレゼンテーション演習Ⅱの内容はよかったが，時期が二年生の後期という忙しい時期だったので，もう少し早い時期にしてほしかった。
4　プレゼンテーション演習の時期が悪い。
4　講義内容が論文紹介のものばかりである点。開講時期に問題や矛盾を感じるものがあった点（キャリア開発セミナー・プレゼン演習Ⅱ）。一学期が短く，科目数が多い点。
5　研究に支障が出るような日程や内容の講義・演習が多く，満足に教育を受けたという実感はない。

[分子生命科学コース]

1　昨年度に比べて，講義の数が増えたように感じるが，研究と閉講して授業をこなしていると

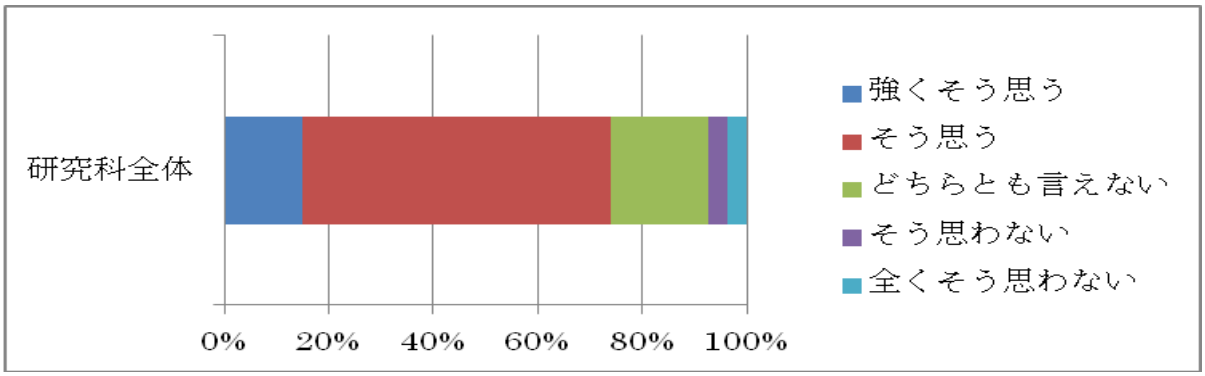
いう力がついて，社会人にむけて良いトレーニングとなった。
2　他学科の科目をいくつか選択して受講できる点はよかった。
2　専門的な知識や国際的な広い視野を身につけられたと思うから。
2　研究を進める上で講義や演習の内容が役立ったから。
3　講義の課題が多く感じ，普段の研究活動に影響を及ぼしていたため。
3　何の得になるかわかならい講義があったから。
3　プレゼンテーション演習の内容や講義の時期に不満があった。プレゼンⅠの内容は役に立たなかった。プレゼンⅡの内容は良かったが，修士 2 年の後期に必修科目を受けるのは大変であった。

［生物資源学コース］
1　普段接することのない分野の実験や，プレゼンテーション演習などがおもしろかったです
3　時間的に受講できなかった講義があったため
3　実験実習については，満足しているが，講義に関しては，受けなくてもよかったのではないかというものもあった気がする。
3　良い面は研究に役立てる授業が多かった。悪い面をいえば，夏休みの集中講義や 2 年の後期の授業が研究の妨げになった。

［園芸農学コース］
5　役に立つことを教えてほしい。先生の研究内容を聞きに来たわけじゃない。

肯定的評価では，自らの専門を深められることや，専門外の内容も知ることが出来たことなどが理由として挙げられていた。否定的評価の主な理由は，必修科目であるプレゼンテーション演習Ⅱの開講時期に問題があること，講義数や課題が多すぎることなどであった。

設問　7．本研究科では年度初めに指導教員がガイダンスを行っていますが，その内容は適切であったと思いますか。

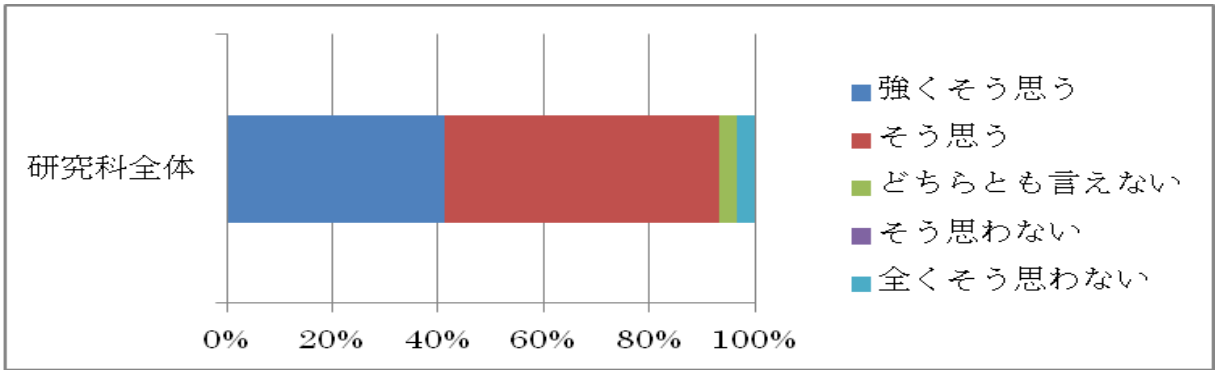


図Ⅱ－7．ガイダンスは適切だったか

研究科全体では，肯定的な評価が 74%であり，昨年度の 55%よりも多かった。一昨年の肯定的な評価は 71%であることから，評価の程度は年度によって変動するものと思われる。

[教員の指導について]

設問　８．（１）所属するコースの教員の学生への指導や対応に満足していますか。



図Ⅱ－８．教員の指導や対応に満足か

研究科全体では，肯定的評価が 93%であった。全体的に見て，概ね肯定的な評価が得られているといえる。

（２）上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

１．強くそう思う　２．そう思う　３．どちらとも言えない　４．そう思わない
５．全くそう思わない

[生物学コース]

1　丁寧な指導と感じた。
1　他の研究室の先生にも研究で協力していただくことができた。
1　誠心誠意指導していただいているから。
1　質問に親身に答えてくださりありがたかった。
2　丁寧に指導していただき，とてもためになったから。
2　特に不満がないから。
2　良かった。
2　親身になって指導していただけた。

[分子生命科学コース]

1　丁寧な指導，対応を行っていたから。
2　学生の意見を尊重してアドバイスや指導を行っていたため。
2　聞いたことには答えていただけるため。
2　特に不満がないから。
2　とても親切丁寧に指導して頂いたため。
2　相談等，親切に対応してくださった。研究にたいしてもたくさんアドバイスを下さり，向も不満はなかった。
2　教員によって学生への指導や対応は違うのでなんともいえないが，全体的に見てやや満足している。

［生物資源学コース］

1　様々な場面で，先生方にはお世話になりました。

1　学生が社会に出たときのことを考え，指導して下さったため。

1　指導教員だけでなく，他の研究室の先生方も，惜しみなく研究や学校生活のサポートをしてくれた。

1　修士の学生として必要な技術・知識・人間性などを示して頂いた。

［園芸農学コース］

5　学生のためだけではなく，すべて自分の権力を守るために学生を利用しているだけ。先生が学生への指導がどういうことかわかっていない。

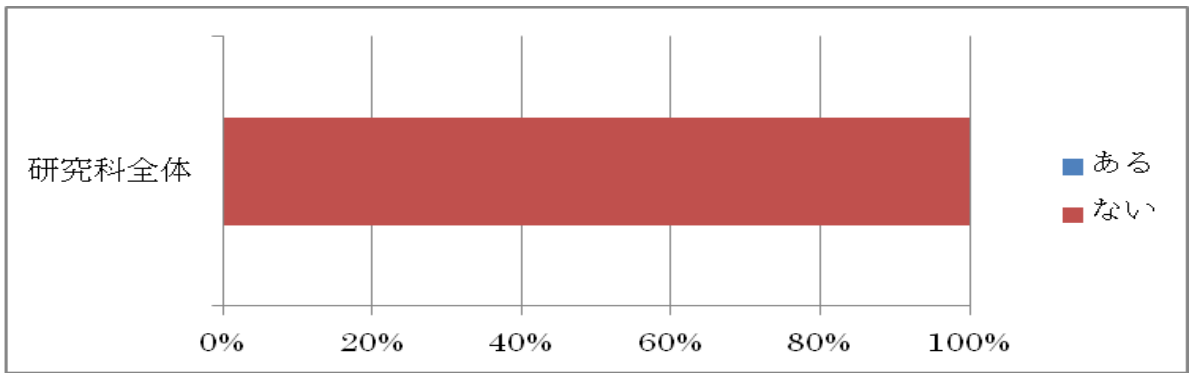
［地域環境工学コース］

1　詰まっていると和ませてくれたり相談にも大変よく対応してくれました。

各コースとも，肯定的評価では丁寧・親切・親身な指導や対応を受けられたことが挙げられていた。教員の指導が適切に行われているようである。

設問　９．大学院で履修した科目の成績評価についてお尋ねします。

（１）成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。



図Ⅱ－９．成績評価に対する疑義

「成績評価に疑問を持った」との回答はなかった。

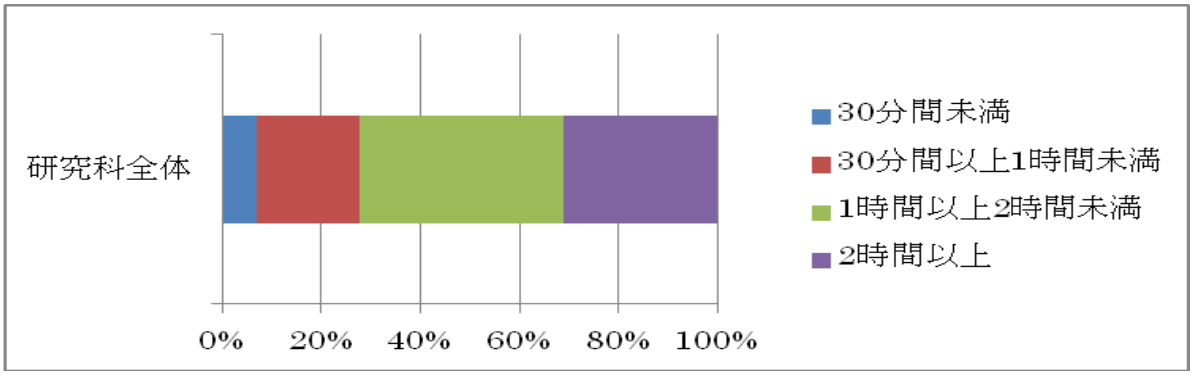
（２）疑問や異議があったとき，あなたは実際にどこに相談し，その対応に満足しましたか。

この設問に対するコメントはなかった。

[学生の主体的学習について]

設問 10.（１）講義や演習の受講に当たり，あなたは１日平均どの程度の時間を予習や復習に当てましたか。教員が課した課題に対するレポート作成に要した時間も含みます。

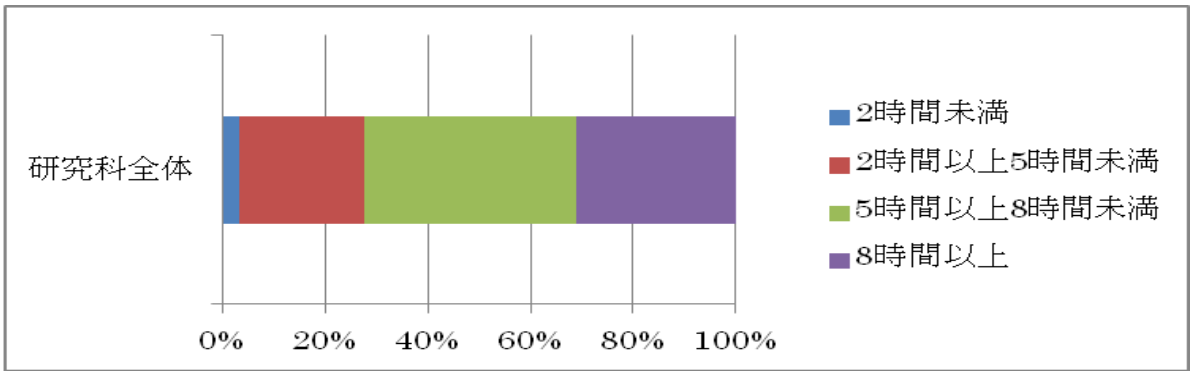
1. 30 分未満　2. 30 分以上 1 時間未満　3. 1 時間以上 2 時間未満　4. 2 時間以上



図Ⅱ-10（1）．予習や復習の時間

研究科全体では，１日当たりの予習・復習時間が１時間未満と回答した学生は 28%であり，昨年の 45%より少なかった。30 分未満は 7%であった。

（２）課題研究に要した時間は１日平均どの程度ですか。



図Ⅱ-10（2）．課題研究に要した時間

5 時間以上と回答した学生は 72%を占めており，昨年度よりやや増加した。

設問 11. 大学院教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。

（１）あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。

[生物学コース]

・自分の研究に関わる部分もあるという考え方をもって取り組んだ。
・新しい知識を得ようという気持ちで取り組んだ。
・専門外の知識を取り入れ，自分の幅を広げようと取り組んだ。
・学部の内容からさらに広い視野，深い知識をえられるように取り組みました。
・楽しもうという姿勢。
・楽しく取り組んだ。
・意欲的に取り組んだ。

・楽しんで受講する。

［分子生命科学コース］
・自身の研究分野にとらわれず，様々な分野を学ぼうとしていた。
・積極的だったかと思います。
・自分の専門分野もそうでない分野も全力で取り組むことを心がけました。
・自分の研究に役立てるため，できるだけ専門外の見聞も広めるように取り組んだ。
・専門的な知識を身につけようという姿勢で取り組んだ。
・自分の研究にどの様に生かせるかを考えて取り組んだ。
・特に何も考えていない。
・講義中に講義内容を理解するように努めた。
・レポート，発表等はできる限りの完成度になるように取り組んだ。
・興味のある講義については入念な予習復習を行った。

［生物資源学コース］
・とりあえず，前の席で講義を受け質問するようにしました。
・講義で教わったことを理解しようとつとめました。
・講義によって意欲的に取り組んだものとそうでないものがあった。
・自分の研究に直結する授業であれば授業で話題になった論文は目を通すようにしていた。

［園芸農学コース］
・1 つの講義に対しレポート作成に全力をつくした。

［地域環境工学コース］
・常に意欲的に取り組んだ。

多くの学生が講義に意欲的に取り組んだと回答しており，自分の研究に有益だからという動機だけでなく，幅広く知識を得ることを楽しもうとする姿勢が見受けられる。学生により様々ではあるが，各自が問題意識を持って取り組んだようである。

（２）大学在学中のカリキュラムで，もっとも印象に残った科目があれば，その科目名と理由を記入して下さい。

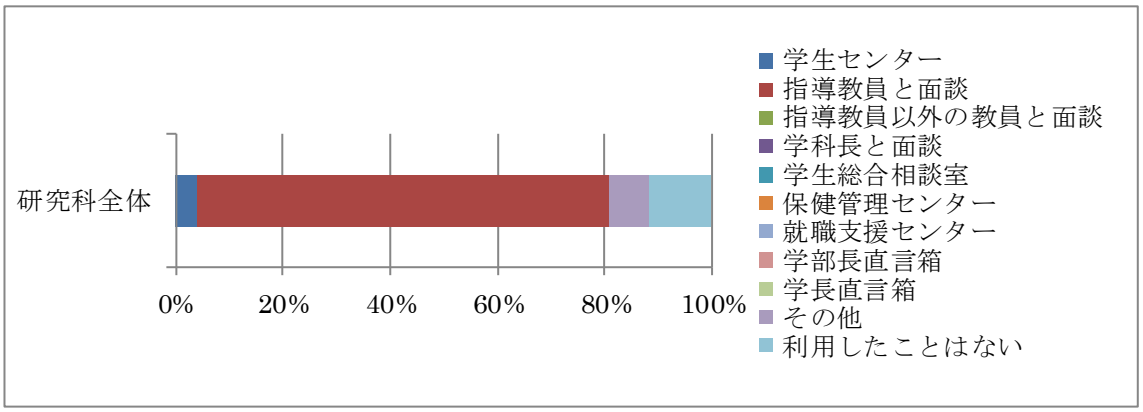
［生物学コース］
・野外実習：実際に同期と深くかかわることができた。
・プレゼンテーション演習Ⅱ：内容はおもしろく悪いものではなかったが，実施時間，日程，期間これらがとにかく邪魔だった。修論研究に大きく支障が出た。
・森林保全学（石田清先生の授業です）：質問に丁寧に答えて下さり内容も濃かった。
・環境微生物学：培養・解析など，最も自分が欲していた知識を取り扱う講義だったから。
・集中講義の保全生態学実習：学内で講義として受けることも大事ですが，やはり実際に自分の目で，それを確かめることの大事さを再確認できるから。

・プレゼン演習Ⅰ：うさんくさかったけど，ためになることもあったから。
・森林保全生態学実習：北海道の自然について深く学ぶことができたから。
・キャリア開発セミナー：時間のムダでした。
・プレゼン演習Ⅱ：修士論文の大詰めと丸かぶり。

［分子生命科学コース］
・植物真菌学
・プレゼンテーション演習：とても身になる科目でしたが，同時にとても辛い科目でした。
・プレゼンⅡ：発表一週間前まで授業があるのはつらかった。
・プレゼンテーション演習Ⅱ：大変だったため。
・プレゼンテーション演習Ⅱ：教科書を購入したけれど，全く授業で使わず，プレゼンテーションのスキルが上がるようなことは学ぶことができなかった。
・プレゼンテーション演習Ⅱはポスター発表やプレゼンの課題がだされ，それに取り組むことでプレゼンの力がついたように思う

［生物資源学コース］
・プレゼンテーション演習Ⅱ：英語のスピーチをとても楽しく学べました。
・実践園芸学Ⅱ：大雪の中，農家の皆さんと一緒にりんご樹の剪定を行ったこと。
・プレゼンテーション演習Ⅱ：先生がネイティブな英語で講義を行ってくれたので，素晴らしい体験をさせていただいた。ただ 2 年後期という時期の講義で少し大変だった。

［学生への教育支援，施設・設備について］
設問 12. 本学部や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，以下のようなルートを用意しています。在学中あなたは次の（１）～（３）の項目について主にどれを利用しましたか。（　）内に番号を記入して下さい。
（１）学業

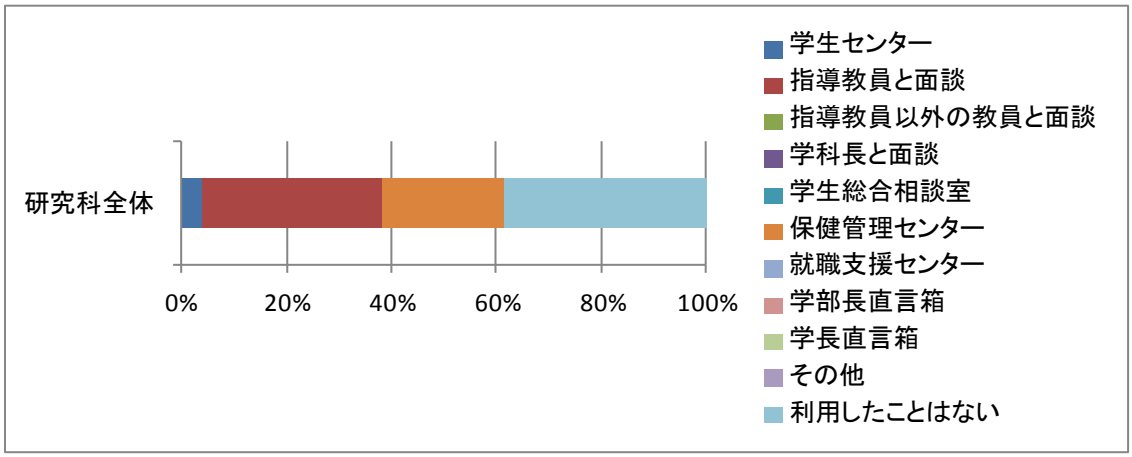


図Ⅱ-11(1)．学業についての利用

研究科全体では「指導教員と面談」が最も多く，全回答者の 77%を占めており，昨年度よりも 32 ポイント上昇した。ついで多かったのは「利用したことが無い」の 12%で昨年度より 22 ポイ

ント減少した。特に相談を必要としなかった学生が増加したのかどうかは定かではないが、年度により学生気質が異なることが，この結果からも伺われる。

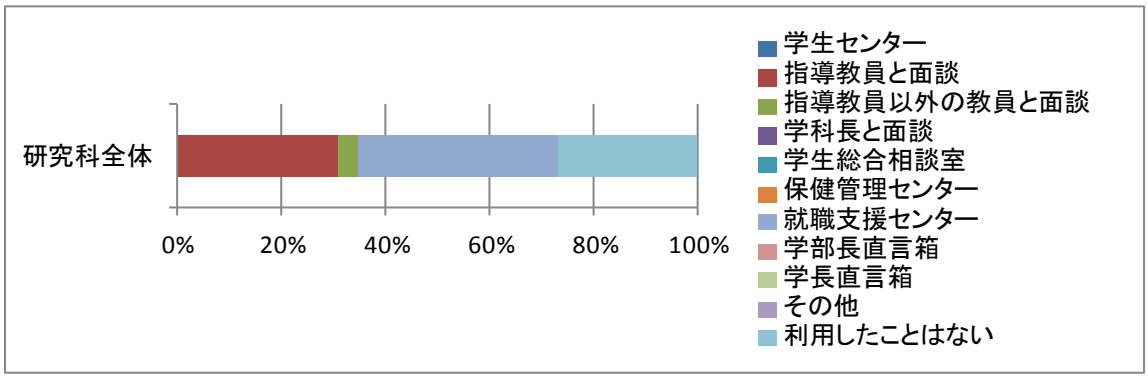
（２）学生生活



図Ⅱ-11(2)．学生生活についての利用

研究科全体では「利用したことが無い」が 38%で最も多かったが，昨年度より 24 ポイント減少した。「指導教員と面談」は 35%と昨年と同程度であった。相談しやすい環境が整備されてきたようである。今後も相談しやすい環境の維持に努める必要がある。

（３）進路

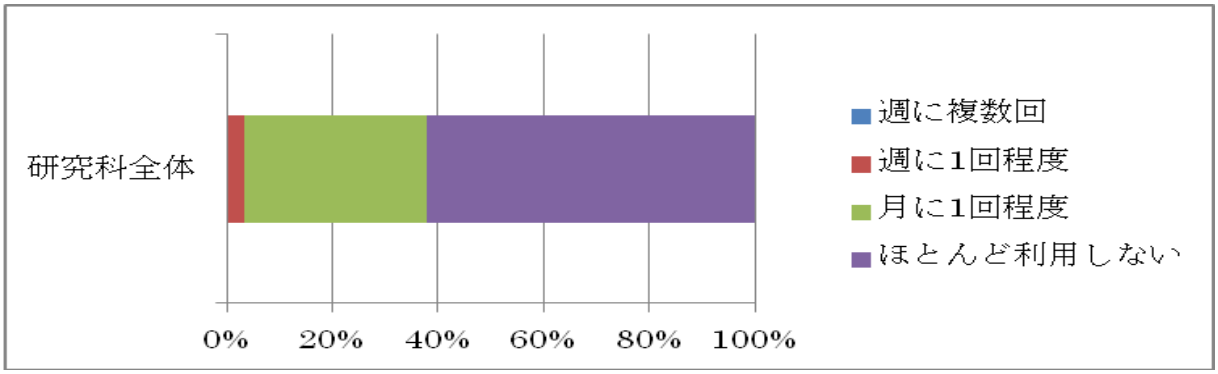


図Ⅱ-11(3)．進路についての利用

利用したものの中では「就職支援センター」が 38%で最も多く，昨年度と同程度であった。ついで「指導教員と面談」が 31%であり，「利用したことは無い」は 27%であった。就職支援センターが最多であることから，センターの存在が認知されてきているといえる。また，
就職活動に対する関心も高まっているのかもしれない。

設問 13. 本学部図書室の利用について質問します。

（１）あなたは在学期間を通して，平均どのくらい利用しましたか。

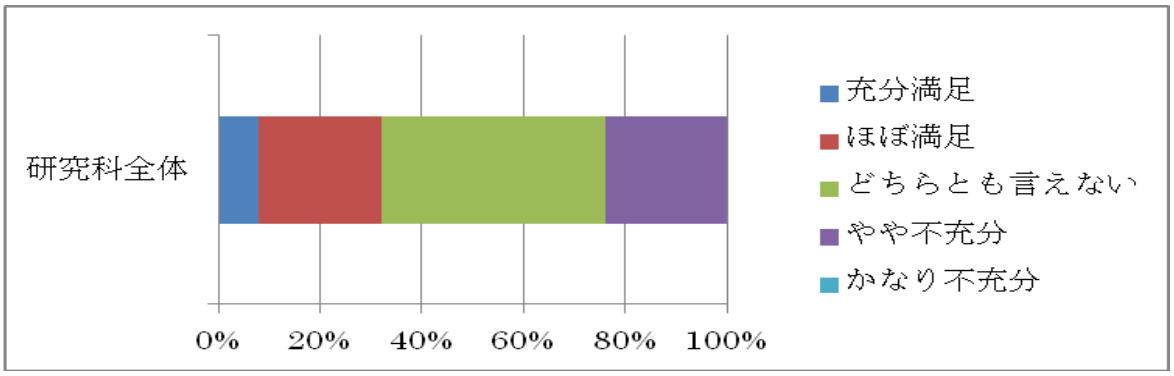


図Ⅱ-12(1)．本学部図書室の利用状況

研究科全体では，週に１回以上の利用が 3%であり，昨年より 20 ポイント減少した。また，「ほとんど利用しない」は昨年と同様に 62%と依然として高い。インターネット利用の増加等，情報収集の仕方が変化していることも関係しているだろうが，図書の整備状況等の改善を続け，今後の推移をみていく必要がある。

（２）以下の項目について，どのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。

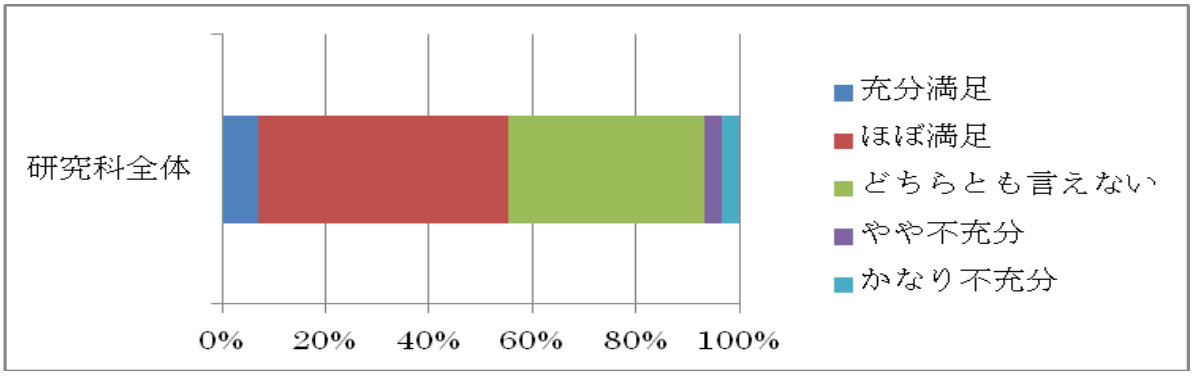
１．所蔵図書（和書および洋書の単行本）



図Ⅱ-12(2)．所蔵図書

研究科全体では，「充分満足」，「ほぼ満足」を合わせた肯定的な評価は 32%であり，昨年より 5 ポイント減少したのに対し，否定的な評価は 24%で 9 ポイント増加した。新しい蔵書が追加されたことの効果がまだ現れていないように見えるが，今後も学部図書室の蔵書を充実させていく必要がある。図書追加等の情報をうまく伝達できれば，利用状況の改善につながるかもしれない。

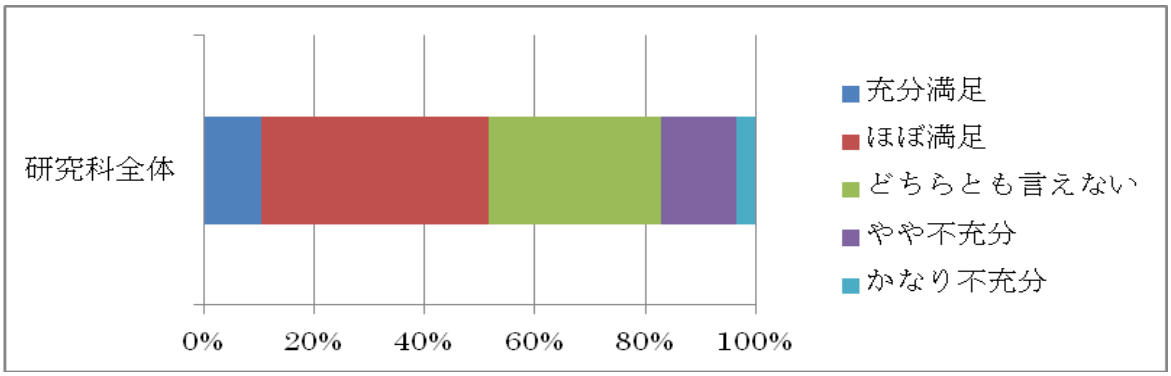
２．閲覧スペース



図Ⅱ-12(3)．閲覧スペース

研究科全体では，「充分満足」と「ほぼ満足」の合計が 55%で昨年より７ポイント上昇した。関係者による改善が評価されていることが伺える。しかし，「どちらとも言えない」も 38%と少なくない。閲覧スペースが限られていることが満足度が上がりいにくい原因かもしれない。

３．開館時間

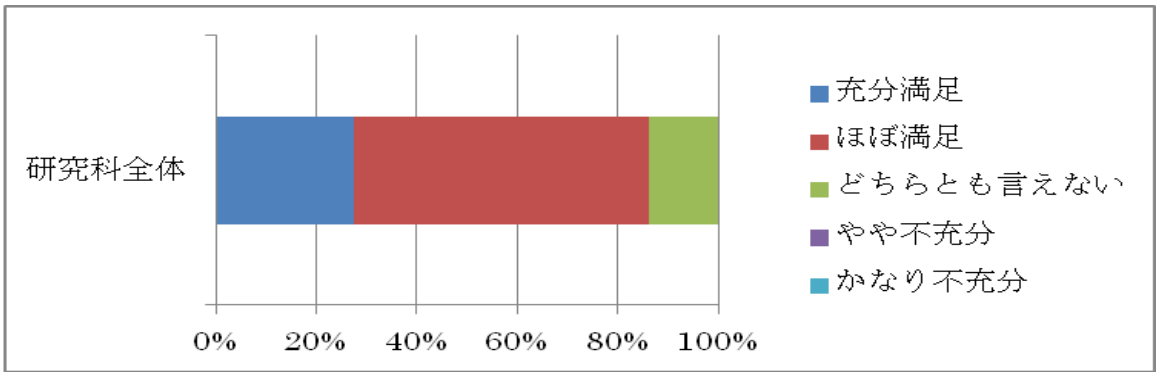


図Ⅱ-12(4)．開館時間

研究科全体では，肯定的評価は 52%，否定的評価は 17%であり，肯定的な評価は否定的な評価の約３倍あった。

設問 14. 本学部の以下の施設について，どのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。

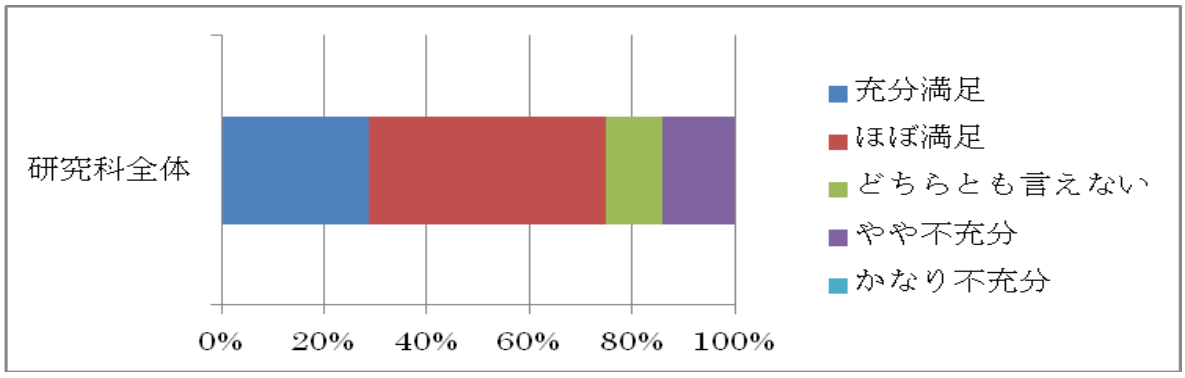
１．講義室



図Ⅱ-13(1)．講義室

研究科全体では，「充分満足」と「ほぼ満足」の合計が 86%で，昨年より 29 ポイント増加した。各種映像機器の設置が進んだため高評価となったのかもしれない。

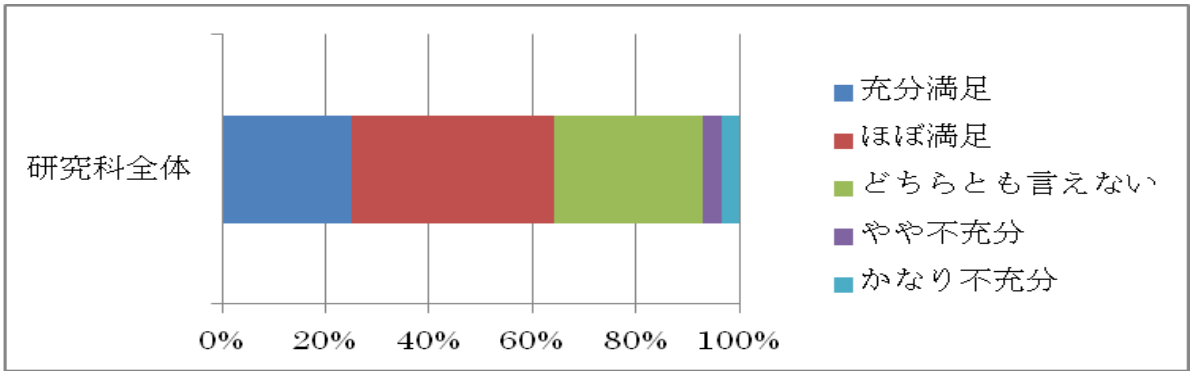
２．実験・実習室



図Ⅱ-13(2)．実験・実習室

研究科全体では，肯定的評価は 75%で昨年度より 10 ポイント増加した。一方，否定的評価は 14%と低かった。平成 19 年度から空き室の利活用がはかられており，少しずつ改善が進んできていることを反映しているようである。

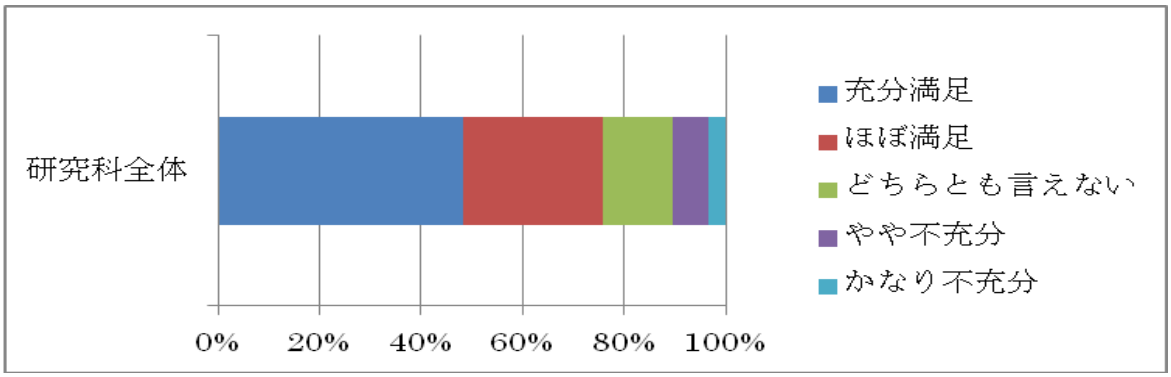
３．情報処理演習室



図Ⅱ-13(3)．情報処理演習室

研究科全体では，肯定的評価は 64%であり，昨年度と同程度であった。否定的評価も 7%で昨年度と同程度である。

４．修士研究を行った研究室



図Ⅱ-13(4)．修士研究を行った研究室

研究科全体では，肯定的評価が 76%で昨年度より 14 ポイント上昇した。否定的評価は 10%と少なかった。対応は図られてきているが，設問 14（2）にあるような要望も出ており，全て改善された訳ではない。今後も適切な対応が望まれる。

設問 14.（２）各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

[生物学コース]

・クーラーの設置

[分子生命科学コース]

・スクリーンがちゃんと映らない講義室があるので，なおしてほしい。

[生物資源学コース]

・「情報処理演習室」については，パソコンが夜使えないため，時間のかかる計算ができず授業の課題をうまくこなせないので，開館時間をのばしてほしい。

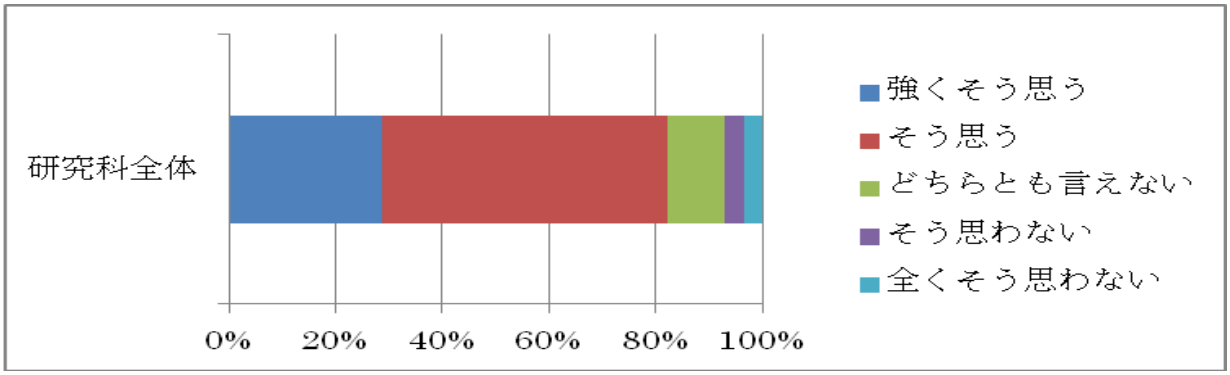
[地域環境工学コース]

・本学部の図書室，図書館とも本がそろっていない。

研究室や実験・実習のためのスペースは改善されたものの，冷房設備など施設に対する要望はあり，適正な改善を更に図っていく必要がある。

[修士研究について]

設問 15.（１）修士研究に満足していますか。



図Ⅱ-14. 修士研究に満足か

肯定的な評価は，研究科全体で 82%（全回答者に占める割合）であり，昨年度および一昨年度と同程度に高評価を維持している。修士研究については概ね満足しているといえる。

（２）上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

１．強くそう思う　２．そう思う　３．どちらとも言えない
４．そう思わない　５．全くそう思わない

[生物学コース]

・熱中して取り組むことができ，自分の興味を強くそそがれたから。
・新しい発見をすることができ，充実していた。指導教員からも丁寧な指導を受けられた。
・専門に対する知識が学部より深くなり，学会など様々な貴重な経験ができたため。
・自分がやりたいと思ったことを学部から続けてより深く学ぶことができたから。
・やりたい研究ができたから。
・自分がやりたいことに集中して取り組めたことが本当によかった。
・研究に対して積極的に行うことができ，ある程度の結果をとることができた。
・無事に終えることができたから。

[分子生命科学コース]

・自分が研究したい分野で，自分で研究背景を考えて研究できたため。
・研究結果を評価してもらえたため，論文を発表できたため。
・他の大学・研究機関などの研究への取り組み方・考え方などを知る機会を多く与えてもらえた。
　それが自分の考え方を変えることにもつながったから。
・自分のやりたいように修士研究させてもらえたから。
・もう少し要領よくできれば内容を深められたかもしれないため。
・やれることはやれたと思うから。

・もっと効率良い方法，順番で実験を行えばさらに研究が進んだのではないかと思うから。
・普段の研究に必要な機器はそろっていたので，不自由なく研究を行うことができた。

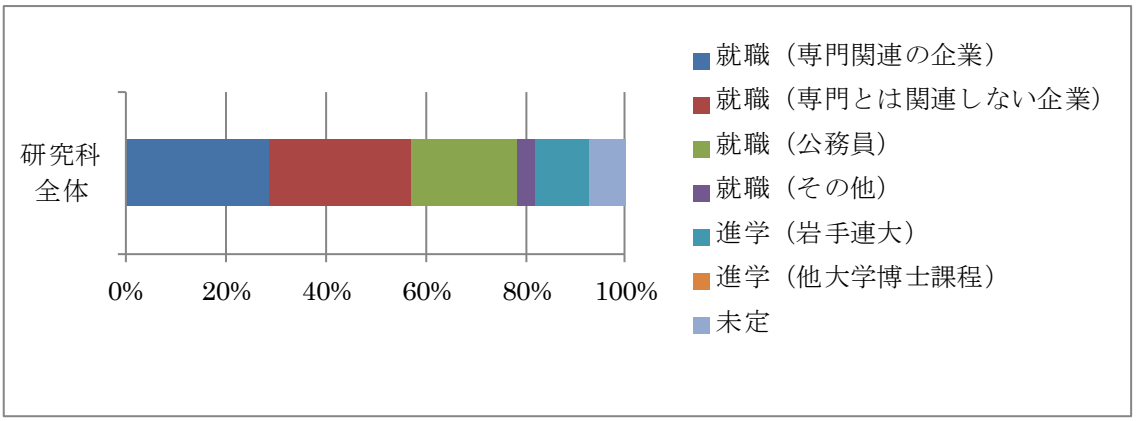
[生物資源学コース]
・一心不乱になれました。ただ同時にもっと勉強したいと思いました。
・限られた時間で結果が出せたので。しかし，自分自身は理解力があればもっと上の研究ができたと思う。
・多少なりとも結果を出せたことには満足しているが，もっとできたと思う。
・自分の研究を一つのカタチにできた。学会等で発表もさせて頂けた。

[園芸農学コース]
・先生方が何をしたいのかわからない。他の大学と比べたら不十分すぎる。

[地域環境工学コース]
・研究したいと思ったことができたから。

修士研究に満足したという肯定的評価の理由には，やりたい研究を十分に行なうことができた等，研究に対する充実感があげられている。一方，「どちらとも言えない」と否定的評価については，研究時間の不足や計画不備などの理由があげられていた。

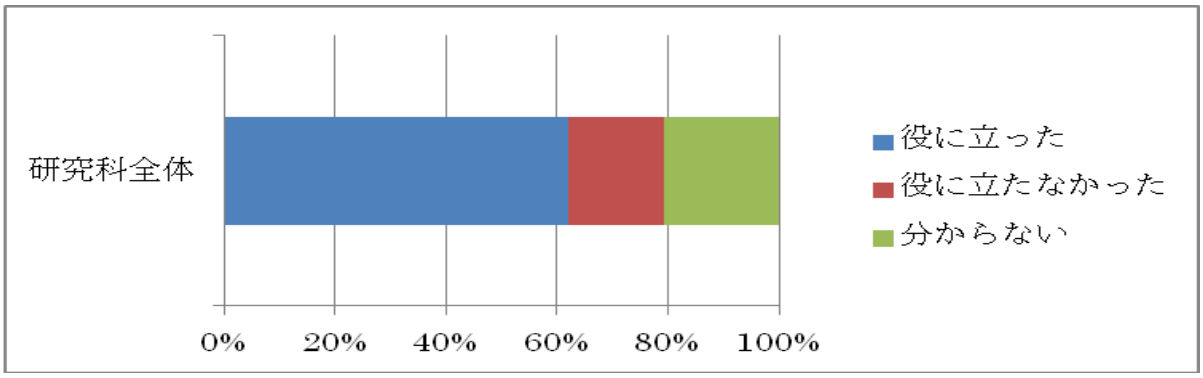
設問 16.（１）研究科修了後のあなたの進路は次のうちのどれですか。



図Ⅱ-15(1)．進路

研究科全体では，「専門関連の企業」と「非関連企業」はいずれも 29%であり，昨年と同程度である。「公務員」は 21%で，これも昨年と同程度である。就職の全体合計は 82%であり，昨年と同程度である。ただし「未定」も昨年度より 8 ポイント減少している。全体としては昨年度と同程度であるが，就職支援を充実させていく必要がある。

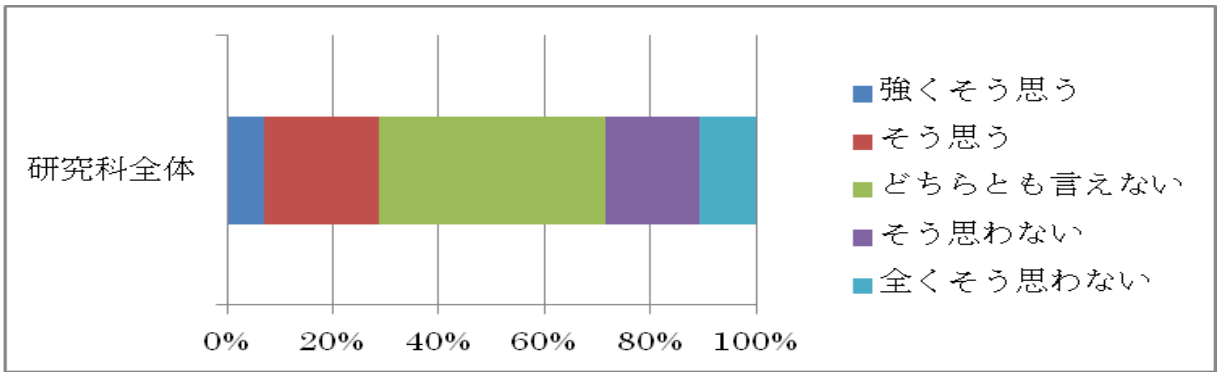
（２）　本研究科のカリキュラムで学んだことは，進路にどのように影響しましたか。



図Ⅱ-15(2)．研究科で学んだことの進路への影響

「役に立った」は 62%で，昨年より 14 ポイント上昇している。また「役に立たなかった」は 17%で昨年より 7 ポイント少ない。研究科で学んだことが進路に好影響を与えるようになってきたものと思われる。確率的な年変動を反映している可能性もあるため，今後も注視していく必要がある。

（３）本学および本研究科の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

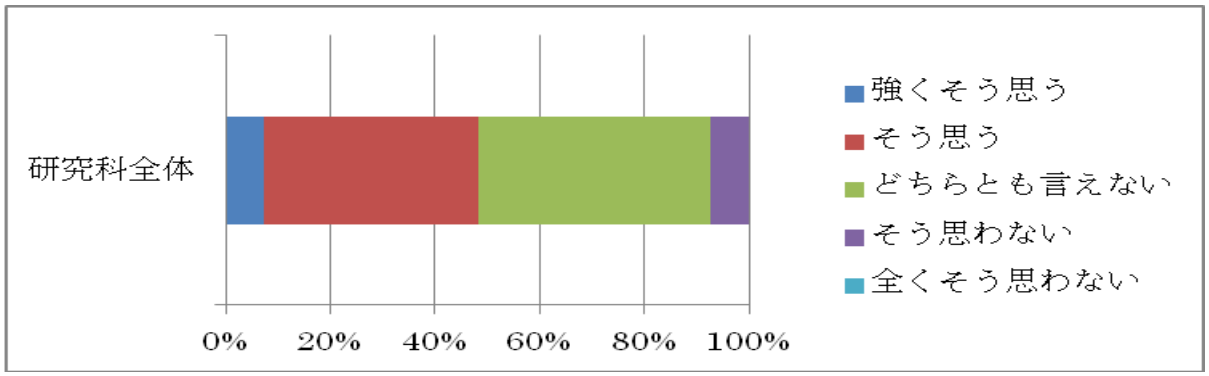


図Ⅱ-15(3)．進路支援の取り組みは十分か

研究科全体では，肯定的な評価が 29%で昨年より 9 ポイント減少した。一方，否定的な評価も 29%であり，昨年より 9 ポイント多かった。継続的な進路支援の取り組みが必要であろう。

[本研究科の教育のあり方について]

設問 17.（１）あなたが本研究科を修了するに当たり，大学院修了者としての知識及び学力を身に付けたと感じていますか。



図Ⅱ-16.　大学院修了者としての知識および学力を身につけたか

研究科全体では，肯定的な評価が 48%，「どちらとも言えない」が 44%であり，肯定的な評価が昨年度より 6 ポイント減少した一方で，「どちらとも言えない」が 14 ポイント増加した。修了生としての学力を身につけたと感じているものが半数に達していないことがわかる。

（２）上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

１．強くそう思う　２．そう思う　３．どちらとも言えない

４．そう思わない　５．全くそう思わない

[生物学コース]

2　少なくとも，自分の後任に教えるだけの知識を得たから。

2　英語の読解に強くなった。

2　自分自身で努力したから。

2　やはり学部生のうちのゼミに在籍する期間が 2 年というのは短く深い研究ができないが，大学院に行くことで単純に考えても，もう 2 年間自身の研究に打ち込めるというのは大きいと思うから。

2　PC の使い方の基本は学べたから。論理的な考えを観につけたとおもうから。

2　学会でもいろいろな研究者の方々と対等にディスカッションできたので。

2　後輩に指導や助言ができるようになれたため。

3　修士課程においては「研究活動をした」「その援助を受けた」と感じているが，教育を受けた感じはしない。

[分子生命科学コース]

1　全国レベルの学会に数回参加し，内容について深く理解することができ，また日々の実験を通して技術を学んだことから。

2　学部卒業時と比べて，より専門的な知識を身につけられたと感じるから。

3　より多くの知識を身につける機会をうまく活かせなかったことがあったため。

3　英語力があまり身につかなかった。

3　様々な機会に恵まれ学ぶことも多かったが，まだまだたくさんのことを学べたと思うから。

3　まだまだ知るべきことがあると思うため。
3　いろいろ足りてないと考えているから。ある部分とない部分の差が激しい。
3　学んだこともあるが，学べなかったこともあるため。
3　自分の研究分野に対しては深い知識をつけることができたが，分野外のことを勉強する時間があまりなく，狭い範囲の知識しか身につけられなかったと思う。

[生物資源学コース]

1　修論や論文をまとめるにあたって，多くの知識また技術を身につけることができた。
2　学部のときに比べ様々な面で成長できたと感じられたから。
3　知識にとらわれすぎていたかもしれないと思ったからです。
4　新たに問題に直面した時に自力で解決できるとは思わないため。

[園芸農学コース]

3　そんなこと現時点では判断できません。

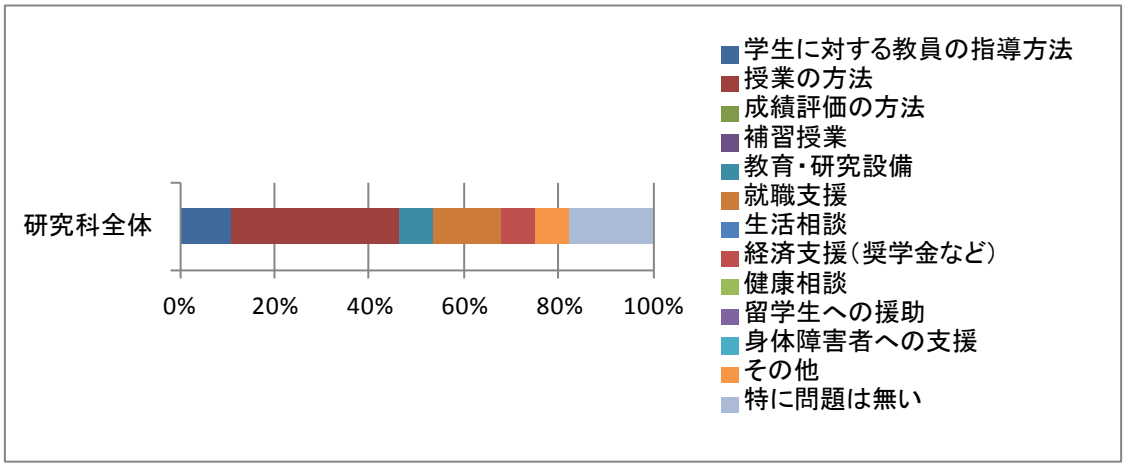
[地域環境工学コース]

3　継続は力なり。

肯定的評価の回答では，研究面での専門知識やスキルアップをあげているものが多い。「どちらとも言えない」や否定的評価では，学部生の時よりは専門知識・技術などが向上した反面，努力不足であったことなどが挙げられており，自己評価の厳しい学生が少なくないことがわかる。修了生としての知識と学力を身につけたことを，教員が具体的に指摘するとよいかもしれない。

設問 18.（１）本研究科の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を次の項目の中から一つ選んで下さい。

1. 学生に対する教員の指導方法　2. 授業の方法　3. 成績評価の方法
4. 補習授業　5. 教育・研究設備　6. 就職支援　7. 生活相談
8. 経済支援（奨学金など）　9. 健康相談　10. 留学生への援助
11. 身体障害者への支援　12. その他（　　）
13. 特に問題は無い



図Ⅱ-17. 早急に改善すべき点

研究科全体で見ると，「授業の方法」が 36%で最も多かった。他の改善すべき点として比較的多くあげられていた事項は「就職支援」と「学生に対する教員の指導方法」であり，それぞれ 14%，11%を占めていた。「授業の方法」と「学生に対する教員の指導方法」は，改善すべき重要課題といえる。

（２）上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。

[生物学コース]

１・２　授業がとても多い（フィールドの日程との調整に苦心）。4 学期制は 1 ターンが短く学べた感じが薄い。必須講義が学会とかぶる。就活がはじまってから就活用の講義がある（遅い）。修論提出や発表の直前に講義がある（プレゼン演習Ⅱ）。

２　いまいち分かりづらい部分があった。

２　というか，カリキュラムそのものを見直ししてほしい。

２　プレゼンテーション演習Ⅱを修士発表などいそがしい時期までやらないでほしい。

２　シラバスで長期休業中に集中講義として行うとされていた授業が何の連絡もなく，通常の授業期間に授業として割り込まれて，就職活動，研究活動ともに大きく予定に狂いが生じたため。生物学コースとしてのカリキュラムが今回からの試みであったとはいえ，せめて修士 2 年の就職活動や研究活動が忙しくなる時期には，講義が入らないよう修士 1 年時に講義を入れられるようにしてほしかった。

２　しっかり講義している教員としていない教員がいる。

２　副コース科目を増やす。キャリア開発セミナーについて就職に関しての OBOG の話を聞きたかった。

6　全然支援されていない。

[分子生命科学コース]
2　研究活動に取り組む時間をもう少し多くしてほしい。
2　院 2 年生の後期にプレゼンテーション演習を組み込まれると，修論や追い込みのかかった実験が重なります。特にプレゼン演習Ⅱは発表など，準備するものもあります。なので，院 1 年や，遅くとも院 2 年の前期に移した方が絶対良いです！！
2　2 年後期の講義であるプレゼンテーション演習Ⅱが修士論文の執筆の時期と重なって非常に大変だったので，講義の実施時期を変えてほしい。
5　私の所属する研究分野では不自由なく実験ができたが，研究費用などの問題で普段の研究も満足にできない所もあると聞いております。
6　授業をやる時期は内容に関係なく迷惑な時があった。就職活動についてよく思っていない先生もいるので，支援するようにいってほしい。生徒の話は聞かないので。
6　自分自身の就職に対しては満足しているが，他の人から「思うように就職活動ができなかった」「時間がなかった」という話を聞くので，指導教員も含めてもっと就職支援を充実させてほしいと思う。

[生物資源学コース]
2　社会人コースのカリキュラムは，社会人（特に働いている人）に対応するように，土・日にまとめて受講できるようにした方が良い。それが必修だけでも 1 日にまとめて受けられる形にする等。
8　学生が学校生活を送る上で，一番不安な点は，金銭面だと思うので，できれば学部 1 年のときのガイダンスとかで，免除申請のことなど，より具体的なことを聞いておきたかった。
8　知らない自分にも問題は十二分にあるが，授業料免除などはもっとわかりやすい告知がほしかった。最も知らない方にも問題はありますが。

[園芸農学コース]
1　教員が指導方法を理解していない。学生を指導できるレベルにある教員はほとんどいないに等しい。

[地域環境工学コース]
1・2　演習・講義は遅くとも 2 年の前半にすべきです。

要望が多かった「授業の方法」と「学生に対する教員の指導方法」はどちらも重要である。改善可能なことは早急に改善しなければならない。また，就職支援，事務連絡，経済支援に関しての要望や批判にも耳を傾け，改善を図っていく必要がある。

設問 19. 本研究科で学生が期待する教育を受けるとともに充実した学生生活を送るために，希望する点や，大学または学部が改善すべき点があれば具体的に記入して下さい。
[生物学コース]

・指導教員に恵まれない人もいるらしいので，供に過ごす時間を増やせばいいと思う。
・HP とか，もっとちゃんとしてほしい。
・カリキュラムとシステムを根本から見直すことをご検討いただきたい。講義を受けさせたいのか，研究をさせたいのか，就職を支援したいのか方向性を決めるもしくは適切な時期でテーマを分けるといった改善を求めます。

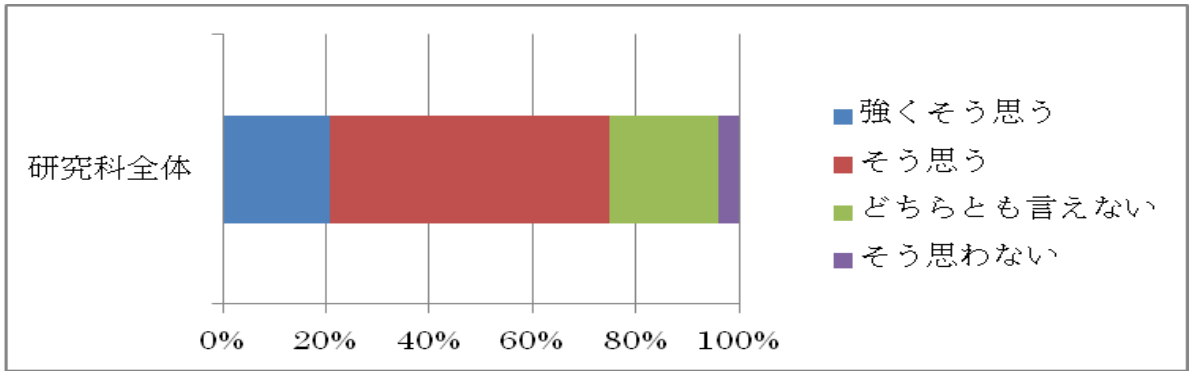
[分子生命科学コース]
・学部でも 4 年生になっても必要科目がある（学年が上がらないととれない科目がある）ことは，日々の余裕はあるかもしれませんが，就活と重なってしまうと逆に大変なのではないかな，と思います。（その辺は個人の裁量かもしれませんが）。
・各研究室に配属決定する前に，もっと学生に研究室についての情報を与えるべきだと思う。配属してから「あわなかった」という人がいるのをよく聞く。
・希望する点や改善すべき点はありません。

[生物資源学コース]
・学部生がもっと弘大院へ進学したいと思わせるようなアプローチが必要かもしれません。
・モチベーションが上がるようなイベント等あったら良かったと思う。たぶん，やる気のない人は，なにもしないままただ漠然と 2 年間を過ごして卒業していくことも可能だと思うので，結果だせばだすだけ補助金でますよーといった何か具体的な目標があれば良かった。
・大学は各専門ジャーナルをもっともっともっと充実させるべきだと思う。電子ジャーナルの量を増やしてほしい。（もっと研究室に対してフレックスな対応をしてください！！）。

[園芸農学コース]
・教員への指導。アカハラ等への対応について学外の機関が必要である。

回答は多種多様である。いくつかの回答は前設問における回答と類似したものであった。

設問 20.（1）総合的に判断して本研究科・コースの教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。



図Ⅱ-18. 本研究科の教育研究に対する取り組みに満足か

肯定的評価は研究科全体で 72%，「どちらとも言えない」は 20%であった。肯定的評価の割合

は昨年度，一昨年度とそれほど変わっていない。一方で否定的評価は 8%で，昨年度より 5 ポイント多くなった。

（2）上記のように回答した理由を記入して下さい。

1．強くそう思う　2．そう思う　3．どちらとも言えない

4．そう思わない　5．全くそう思わない

[生物学コース]

1　6 年間とても充実した学校生活を送ることができました。ありがとうございました。

1　私のやりたいことを思う存分取り組むことができました。

2　専門分野の理解を深められたから。

2　充実した学生生活を送れました。ありがとうございました。

2　知識を深く学ぶことができたから。

3　一期生だったので仕方がないが，教育者側も把握しきれていない教育方針に振り回された学生生活だったと思うため。

3　院に進んで，自分の知識を深めることができたのは十分なプラスになったと思うが，講義のカリキュラムの組み立てにはもう少し進路を見据えた形で組み立ててほしかった。（学術プログラムも実践プログラムも研局，研究者の育成を促していると思った。実践プログラムで就職活動を見据えたプログラムにするなら就職活動の時期までには卒業単位を取られるように講義コマの割り振りをしてほしかった。キャリア開発セミナーも修士 2 年の頭くらに行ったと思うが，その時期に話を聞いて就職活動をするのでは遅いと思う。せめて修士 1 年の夏から秋くらではないかと思う。

4　御教授いただいた先生方には大変御世話になりありがたく思いますが，修士の講義体制には多々問題があるように感じました。一期生の意見を今後参考にしていただけたらと思います。

[分子生命科学コース]

2　良かったからです。

2　いろいろやってもらっていることは伝わっているから。

2　授業について不満足なところはあるが，研究はのびのびとできた。

2　学ぶ姿勢のある学生は，講義以外でも教員などにいつでも聞く機会がある。逆に学ぶ姿勢のない人は，研究や講義を怠惰にする。総合的に判断して本研究科前者の人達のことを大事にした取り組み姿勢であると言える。

[生物資源学コース]

2　弘前大学の農学生命科学研究科で本当に良かったと感じたからです。ありがとうございました。

2　指導教員の研究に対する姿勢がすばらしいと思ったため。

2　指導教員にもよるかもしれないが，自分のやりたい研究をやらせて頂いたから。普段の学校生活で特に困ることもなかった。

[園芸農学コース]

５　何がしたいのかわからない。そもそも教員も本研究科の目的を理解していない。このままなら廃止すべきだと思う。

［地域環境工学コース］

１　現在抱えている農村社会の問題と研究がマッチしており満足しています。

肯定的評価については，「やりたい研究ができたから」「充実感」等，研究の成果や取り組み対する満足感を示した学生が多かった。一方，講義体制や指導教員に問題があると感じている学生もいることがわかる。

Ⅲ．教員対象授業アンケート（学部授業および研究科授業）

１．アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学部および研究科の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため，学部および研究科の授業に関する教員の意識について調査することを目的にアンケート調査を実施した。

調査方法：各教員にアンケート用紙を配布することで調査を行った。各教員が担当している授業のうち最も重要と考えられる学部専門教育科目，研究科講義科目それぞれ１科目の合計２科目について回答してもらった。

調査対象：平成 26 年 3 月に学部および生物共生教育研究センターに所属の教員とした。

調査期間：平成 26 年 2 月 18 日～4 月 5 日

対象教員数：　71 人　回答者数：　51 人(学部授業)，51 人(研究科授業)

調査項目：設問は以下の通りである。

『学部授業に関する調査』

設問 1. あなたが所属する学科等を選択して下さい。

1. 生物学科　　2. 分子生命科学科　　3. 生物資源学科　　4. 園芸農学科
5. 地域環境工学科　　6. 生物共生教育研究センター

設問 2. 授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。

① 予定回数（２単位 15 回とし、集中講義の場合は 90 分間を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目を除きます）　（　　）回

② 実施回数（集中講義の場合は 90 分間を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目を除きます）　（　　）回

設問 3. 休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。

1. 休講回数分を補講した　2. 一部補講した　3. 他の措置（　　）
4. 何もしなかった

設問 4. ① シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。

1. シラバスに記載した内容に一致させて講義を行った
2. シラバスに記載した内容を意識し、できるだけ沿うように講義した
3. シラバスに記載した内容にはとらわれないで講義した

② 上記で、「3.」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。

設問 5. ① 本年度のシラバスの記載内容は昨年度と同一でしたか。

1. 昨年度と同一であった　2. 一部変更した　3. 大幅に変更した

② 上記で、「2.」または「3.」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。

③ 上記の場合で、シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。

1. 教育効果が向上した 2. 教育効果は変わらなかった　3. 教育効果は低下した
4. 分からない

④ 上記の設問③で「１」と回答した方は、その具体的な事例を教えて下さい。

設問 6. 学部の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。

1. 大多数の学生のレベルを意識して展開した
2. より専門性を重視して展開した
3. その他（　　）

設問 7. 学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可）。

1. 視聴覚教材（ビデオや DVD 教材など）の利用
2. 画像データ（OHP、スライドプロジェクター、プレゼンテーションソフトなど）の提示
3. 授業の合間に質疑や討論の時間を設けた
4. 小グループによる課題学習の発表や討論の場を設けた
5. 宿題（レポートを含む）を課した
6. その他（　　）

設問 8. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが、そのような場合への対応として、どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

設問 9. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために、このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。

設問 10. このアンケート調査の実施や内容について他にご意見がありましたらご記入下さい。

『研究科授業に関する調査』

設問 1. あなたが所属する学科等を選択して下さい。

1. 生物学コース　2. 分子生命科学コース　3. 生物資源学コース 4. 園芸農学コース
5. 地域環境工学コース　6. 生物共生教育研究センター

設問 2. 授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。

① 予定回数（２単位 15 回とし、集中講義の場合は 90 分間を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目は除きます。）

（　　）回

② 実施回数（集中講義の場合は 90 分間を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目は除きます。）

（　　）回

設問 3. 休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。

1. 休講回数分を補講した　2. 一部補講した　3. 他の措置（　　）
4. 何もしなかった

設問 4. ① シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。

1. シラバスに記載した内容に一致させて講義を行った
2. シラバスに記載した内容を意識し、できるだけ沿うように講義した
3. シラバスに記載した内容にはとらわれないで講義した

② 上記で、「3. 」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。設問 6. (1) あなたが所属する専攻で受けた教育（講義・演習など）について満足していますか（修士研究については設問１５で別に聞きます）。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 5. 大学院の改組により本年度からカリキュラムが変更になり、クオーター制が導入されました。旧カリキュラムで講義を実施された方は、（1）の問いにお答え下さい。また、新カリキュラムで実施された方は、（2）の問いにお答え下さい。

（1）旧カリキュラム講義

① 本年度のシラバスの記載内容は昨年度と同一でしたか。

1. 昨年度と同一であった　2. 一部変更した　3. 大幅に変更した

② 上記で、「2. 」または「3. 」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。

③ 上記の場合で、シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。

1. 教育効果が向上した 2. 教育効果は変わらなかった　3. 教育効果は低下した
4. 分からない

④ 上記の設問③で「１」と回答した方は、その具体的な事例を教えて下さい。

（2）新カリキュラム講義

昨年度まで担当された専門科目をクオーターに分けて実施したケースについてお聞きします。

① 各クオーター分を合わせた全体のシラバスは、前年度に比べ変更されましたか？

1. まったく新しい内容にした　2. 大幅に変更した　3. 多少変更した　4. ほぼ同じであった

上記で、1．または 2. と回答した方は、どのような観点で内容を変更しましたか？

② クオーター制による講義は、教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか？

1. 教育効果が向上した 2. 教育効果は変わらなかった　3. 教育効果は低下した
4. 分からない

④ 上記の設問③で「１」と回答した方は、その具体的な事例を教えて下さい。

設問 6. 大学院の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。

1. 大多数の学生のレベルを意識して展開した
2. より専門性を重視して展開した
3. その他（　　）

設問 7. 学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可）。

1. 視聴覚教材（ビデオや DVD 教材など）の利用
2. 画像データ（OHP、スライドプロジェクター、プレゼンテーションソフトなど）の提示
3. 授業の合間に質疑や討論の時間を設けた
4. 小グループによる課題学習の発表や討論の場を設けた
5. 宿題（レポートを含む）を課した
6. 実習形式の授業を行った
7. その他（　　）

設問 8. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが、そのような場合への対応として、どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

設問 9. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために、このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。

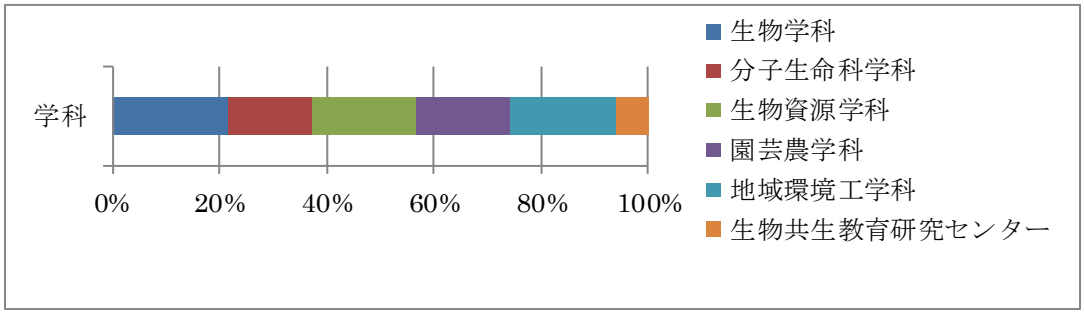
設問 10. このアンケート調査の実施や内容についてご意見がありましたらご記入下さい。

２．学部授業に関する調査結果

設問１．あなたの所属学科をお答え下さい。

表Ⅲ-2-1．回答率

	教員数（人）	回答数（人）	回答率（%）
学部全体	71	51	71.8
生物学科	14	11	78.6
分子生命科学科	14	8	57.1
生物資源学科	13	11	84.6
園芸農学科	15	12	80
地域環境工学科	11	10	90.9
生物共生教育研究センター	4	3	75

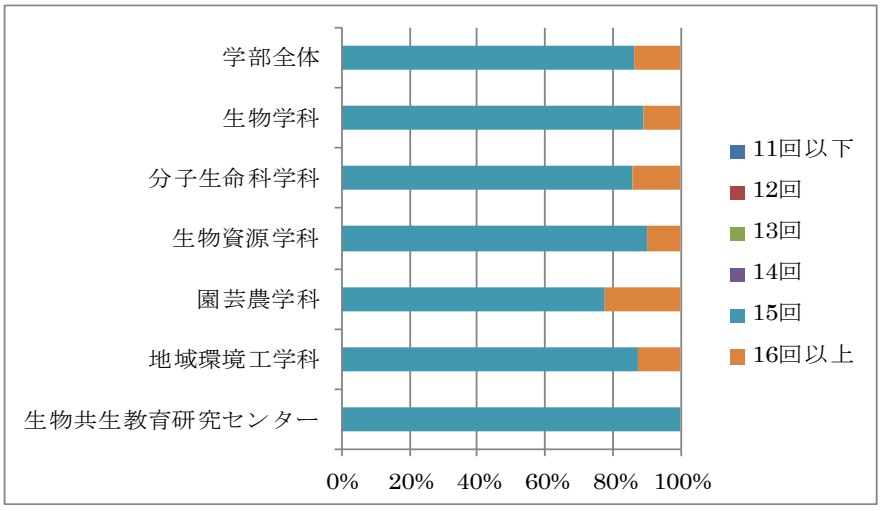


図Ⅲ-1. 学科別回答割合

回答率は，学部全体で 71.8%と例年と大差はない。学科別では分子生命科学科が 57.1%とやや低い。

設問 2．授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。

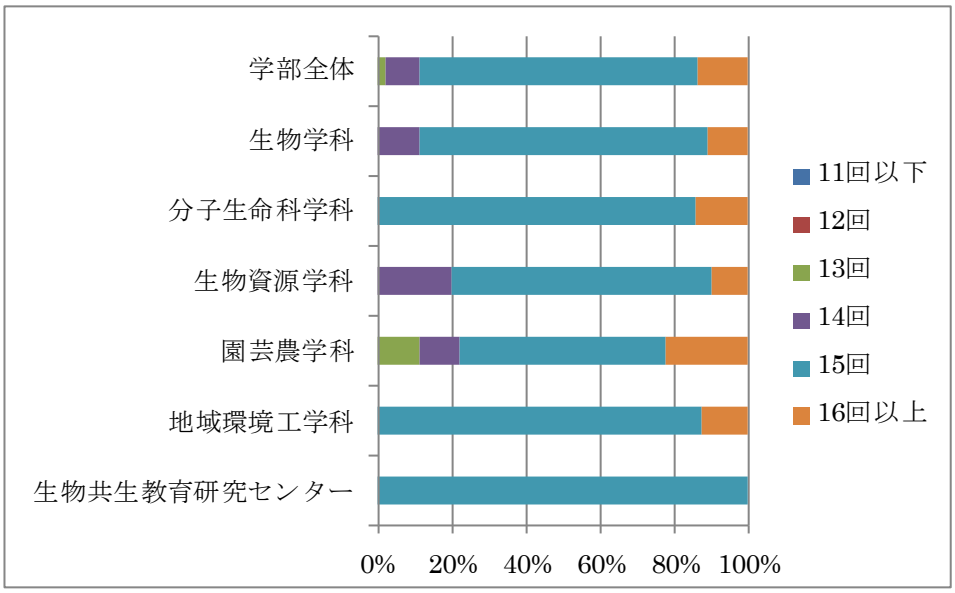
（1） 予定回数（２単位 15 回とし，集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）



図Ⅲ-2-2(1)．授業予定回数

学部全体回答数は 44 である。毎週定期的に行う授業の規定回数は 15 回または試験日を含めて 16 回となるが，学部全体ではすべてがその通りの回答となった 15 回との回答が，昨年度では 85%であったが本年度も学部全体で 86.3%であった。レポート等で評価する場合は 15 回で終了することも考えられる。

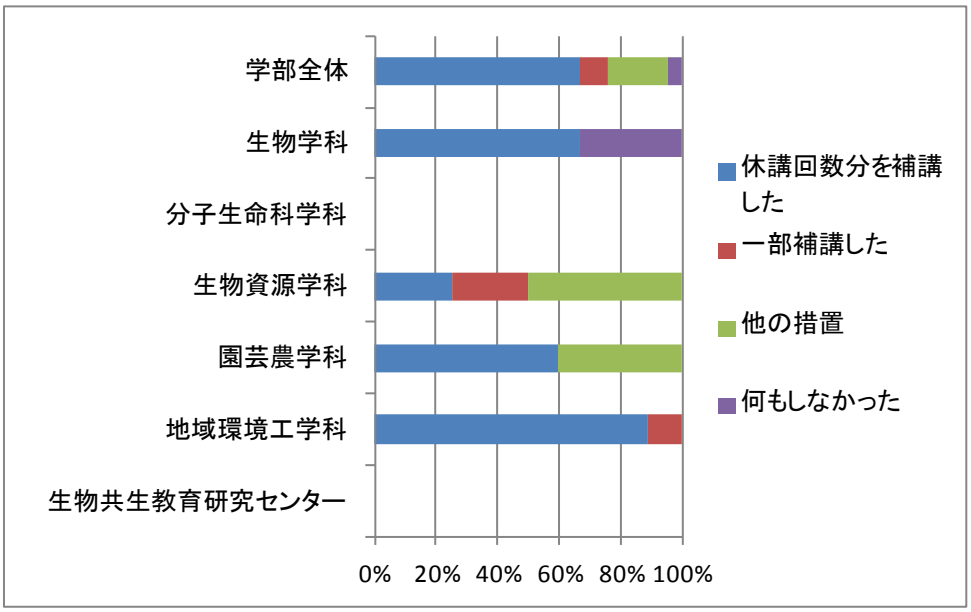
(2) 実施回数（集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）



図Ⅲ-2-2(2)．授業実施回数

学部全体回答数は 44 である。授業実施回数が予定回数に達していない科目は，分子生命科学科・地域環境工学科以外の学科で認められた。学部全体で 15 回実施された講義は 75%であり，昨年度(68%)より 9 ポイント上がった。16 回以上とした回答が昨年度では 8 件であったが，本年度では学部全体で 6 件あり 14%であった。15 回あるいはそれを上回って 16 回以上実施された講義は，生物学科では 89%，分子生命科学科では 100%，生物生資源学科では 80%，園芸農学科では 78%，地域環境工学科で 100%であった。なお，14 回とした回答が 4 件，13 回とした回答が 1 件で、昨年度の 6 件， 2 件に比べ少なくなった。

設問 3. 休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。



図Ⅲ-2-3. 休講の代償措置

学部全体の回答数 21 である。休講した場合，補講などの代償措置がとられたのは，学部全体では 95%であった。この比率は昨年度（約 89%）より約 6 ポイント増加した。しかし，一部補講との回答では，休講した場合は何らかの代償措置を講じることが望まれる。また一方で，休講回数分でなく一部補講としたのが 2 名あった。他の措置が 4 件あったが、レポートや自習課題を与えたという内容となっている。

講じた代替措置については，以下の回答があった。

[生物資源学科]

・レポート課題を提出させた。

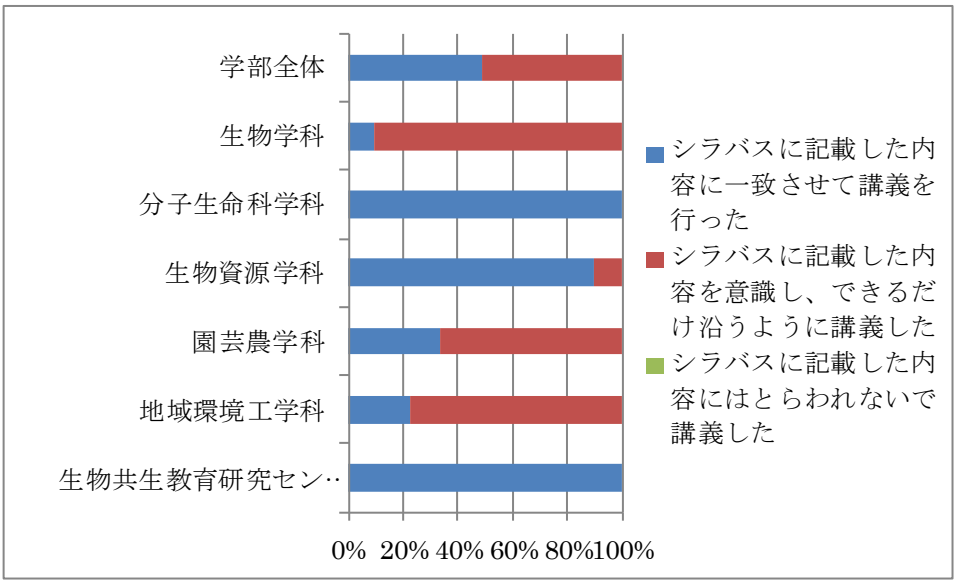
・レポート等

[園芸農学科]

・自習の課題を与えた。

・課題を与えた。

設問 4. (1) シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。



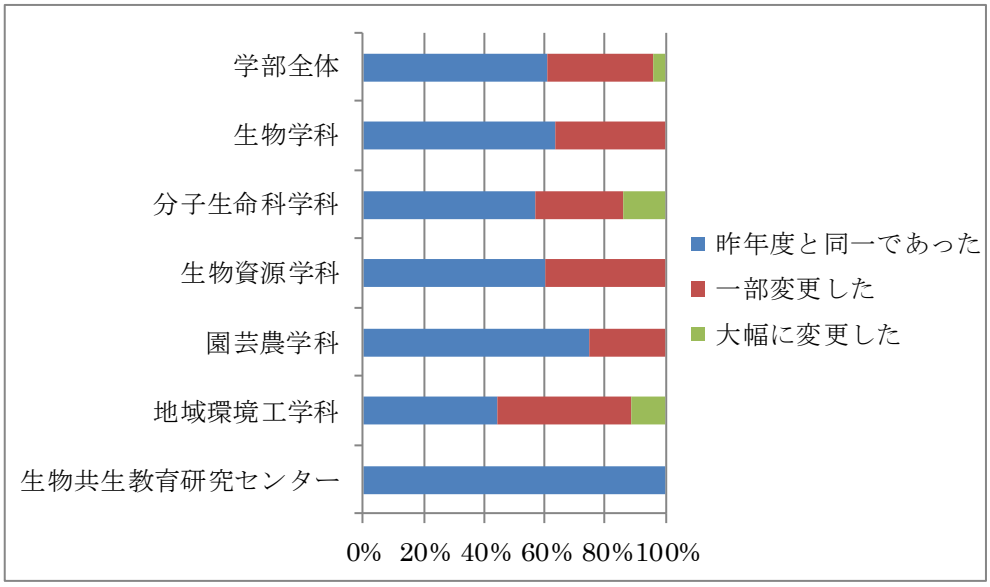
図Ⅲ-2-4. シラバスと実際の授業の一致度

回答数は 47 である。学部全体でみると,「一致」と「できるだけ一致」の回答は，それぞれ 49%と 51%であり，シラバスに沿った講義が概ね行われている。「とらわれない」との回答は無い。「一致」の回答が，分子生命科学科・生物資源学科で最も高い。

(2) 上記で,「3. 内容にはとらわれないで講義した。」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。

該当者がいないため回答は無かった。

設問 5. (1) 本年度のシラバスの記載内容は昨年度と同一でしたか。



図Ⅲ-2-5(1). 昨年度のシラバスとの比較

回答数 46 である。シラバスが昨年度と「同一」であった授業の割合は学部全体で 61%と昨年度(67%)と比べてやや減少した。また,「一部変更」の回答は，学部全体で 35%であり，昨年度(24%)よりも 11 ポイント増加した。「大幅な変更」との回答は 2 件 5%であり，昨年度のシラバスを少しづつ変更しながらも、あまり大きくは変更しないで行っている傾向が読み取れる。

(2) 上記で,「2. 一部変更した。」または「3. 大幅に変更した。」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。

[生物学科]

2 新しい内容を付け加えた。

2 シラバスと講義の内容をできるかぎり一致させるため

2 昨年度の経験から盛り込みすぎて逆に分かりにくかったと考えた内容を除いた。現実に近づけるための変更である。

[分子生命科学科]

2 最近の話題を取り入れた。

2 変更した方が良いと判断したから

[生物資源学科]

2 最近のトピックスを入れた。

2 前年度の反省を元に修正したため。

2 時代に合わせて一部を少しずつ改変している。

2 新しい内容を入れた。

[園芸農学科]

2 よりわかりやすくした。

[地域環境工学科]

2 前年度の授業実践と最新動向を踏まえるため。

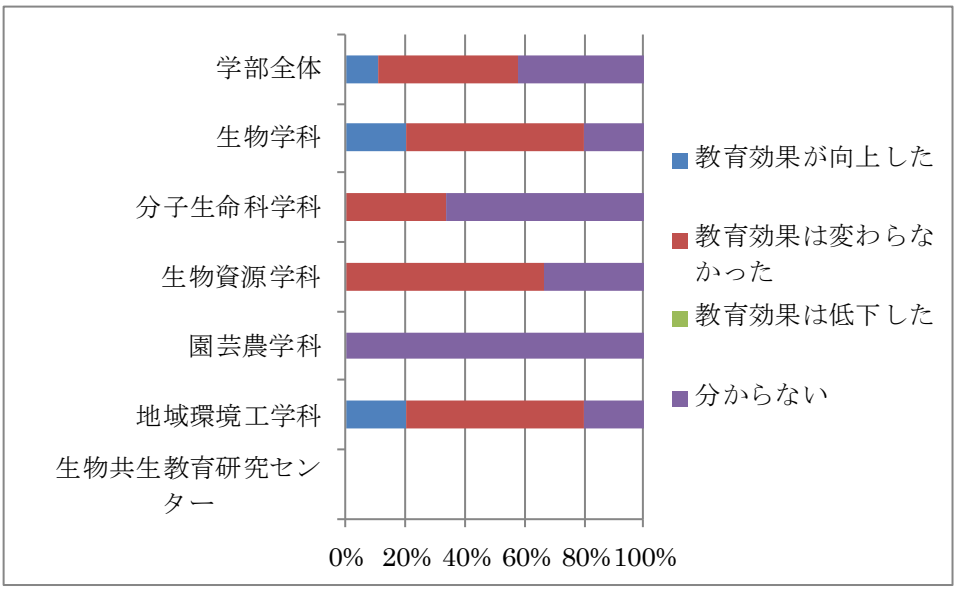
2 初めての講義であったため。

3 初めて担当する科目のため

2 学生の理解力に応じたから。

以上から，シラバスには大幅な変更は加えられていないものの，学生の履修・理解状況にもとづく改善あるいは学問分野の進展による内容の変更などにもとづき，各教員が適宜改訂しているものと判断された。

(3) 上記の場合で，シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。



図Ⅲ-2-5(2)．シラバス変更の効果

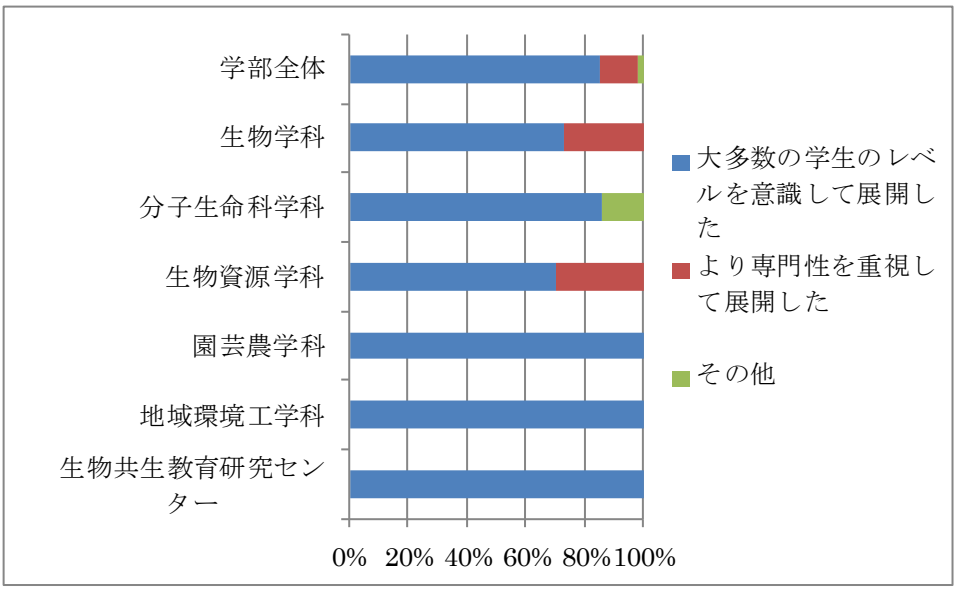
回答数は 19 である。シラバス変更の理由・目的は，その多くが授業改善にあるが，「教育効果向上」の回答は，学部全体でわずかに 2 件(10%)である。学部全体での「変わらず」と「わからない」との回答は，それぞれ 9 件(47%)と 8 件(42%)であり，シラバスの変更が教育効果向上に寄与していないあるいはその効果が判然としない場合も多くあると推定される。

(4) 上記の設問３で「１．教育効果が向上した」と回答した方は，その具体的な事例を教えてください。

［地域環境工学科］

実際に教えてみなければ，能力が判断できないから。

設問 6. 学部の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。



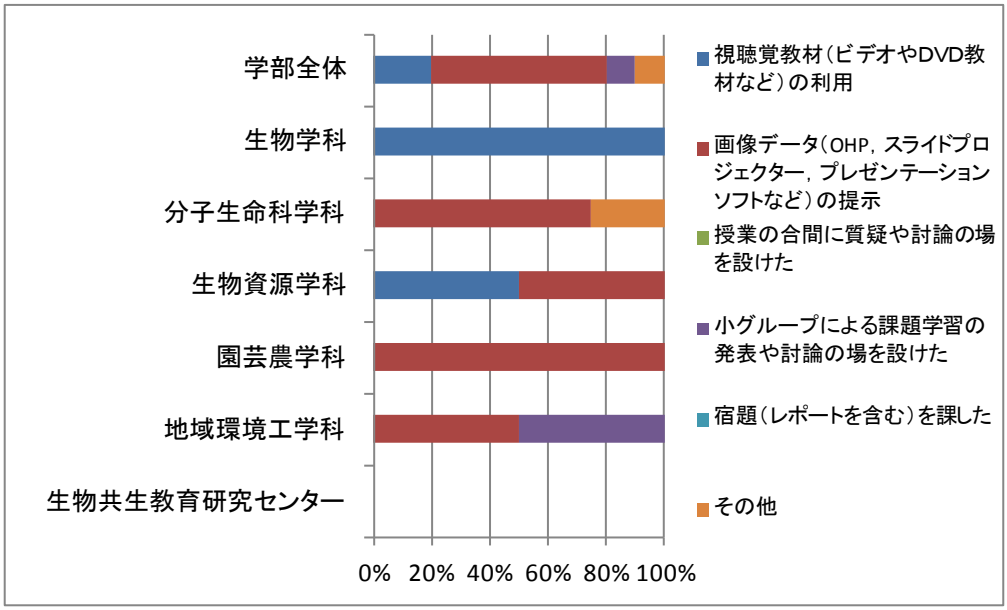
図Ⅲ-2-6. 講義展開の考え方

回答数は 47 である。学部全体では,「学生のレベルを意識して講義を展開した」との回答が昨年度が 84%で今回の 85%と変わらない。「専門性を重視」は昨年度の 16%から 13%へとなり，学生のレベルを意識して講義展開している傾向が大きい。

「その他」の回答
[分子生命科学科]
学生のレベルに差があることを意識して行った。

設問 7. 学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可）。

1. **視聴覚教材（ビデオや DVD 教材など）の利用**
2. **画像データ（OHP，スライドプロジェクター，プレゼンテーションソフトなど）の提示**
3. **授業の合間に質疑や討論の時間を設けた**
4. **小グループによる課題学習の発表や討論の場を設けた**
5. **宿題（レポートを含む）を課した**
6. **その他（　　）**



図Ⅲ-2-7．授業の工夫

回答は全部で 10 件と少ない。その中で、学科全体では，「画像データ」（60%）が最も多く，「視聴覚教材」（20%）の利用や宿題（レポートを含む）を課す（14%）がこれについだ。「授業の合間の質疑や討論」が，分子生命科学科で僅かではあるが実施されていた。一方，生物共生教育研究センターは回答が無かったが，野外での実習が主体のためとも思われる。

「その他」の回答

［分子生命科学科］

・中間テストを行った。

・OHP の重要なスライドのプリントを配布した。

［生物資源学科］

・質問用紙配布/回答した。

［地域環境工学科］

・実演，実際の「モノ」を見せる。

［生物共生教育研究センター］

・プリント配付，授業の真ん中で小休止をかねて出席をとる

設問 8. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが，そのような場合への対応として，どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

［生物学科］
・レポートに点数をつけ，返却する。採点のポイントを明示する。
・学期末試験の解答を具体的に説明して理解してもらう。
・答案を一定期間保管している。
・今までいないので対応せず。いた場合は話し合いで説明することになる。
・試験結果や成績の根拠となったものは保存している。説明可能であるように用意しておく。
・そのような学生に対応したことがないので，取り組んだことがない。
・質問に来た学生に答案を見せて，その点数になった根拠を示している。

［分子生命科学科］
・成績評価の方法について，あらかじめ説明しておく。レポートと期末試験の配点など。
・きちんと説明する。
・成績評価よりも重要なことがあることを教える。
・今年度は申し出がありません。
・答案を説明しながら，解答を解説し，まちがっている部分を理解させる。
・評価点基準の説明を行う。

［生物資源学科］
・個別に対応して，解答用紙を見てもらった。
・採点結果を実際に見せて説明を行っている。
・試験を返却しているため，各自が何点だったかが分かるように，また，どこを間違えたのかが分かるようにしている。
・テスト結果の公開。
・採点基準について詳しく説明する。
・試験の翌週に答案を返却，模範解答と採点基準を説明，評価点数の計算法を説明，疑義照会を歓迎することを説明している。
・そのような学生はいなかった。
・もしそのようなケースが発生すれば，当該学生の意見を聞き対応する。

［園芸農学科］
・評価方法の開示。

［地域環境工学科］
・評価に用いる資料それぞれの評価結果を速やかに学生自身に伝達する。
・直接疑問点について相談を受け，理由を説明している。
・シラバスに記載。
・疑義の 8 割は学生の「教員に対する不満」を感情的にのべているに過ぎないので相手にしない。
・最終講義時に学生の質問に答えるように疑義がある場合は，研究室にくるようにガイダンスしている。
・試験を返却し解説した。

・答案を返却し，解説を実施している。

[生物共生教育研究センター]
・評価の根拠（出席状況，テストの出来）について，また平均点や成績分布について，詳しく開示している。

昨年同様，成績評価に疑義を持つ学生に対して評価基準を示して説明する等，多くの教員は積極的に対応している。

設問 9. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために，このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。
回答なし

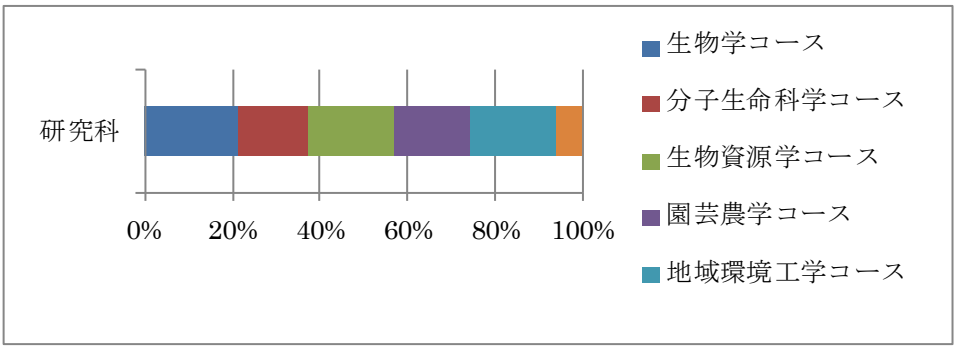
設問 10. このアンケート調査の実施や内容について他にご意見がありましたらご記入下さい。
[園芸農学科]
毎年同じ質問なのは意味があるのか？

３．研究科授業に関する調査結果

設問 1. あなたが所属する学科等を選択して下さい。

表Ⅲ-3-1. 回答数

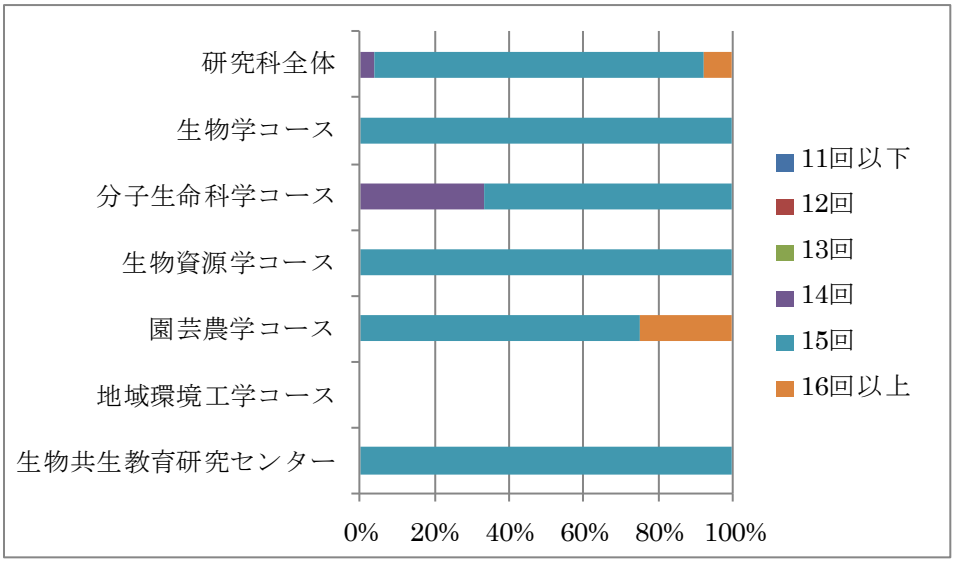
問 1	研究科
生物学コース	11
分子生命科学コース	8
生物資源学コース	10
園芸農学コース	9
地域環境工学コース	10
生物共生教育研究センター	3
計	51



図Ⅲ-3-1. コース別回答割合

設問 2. 授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。

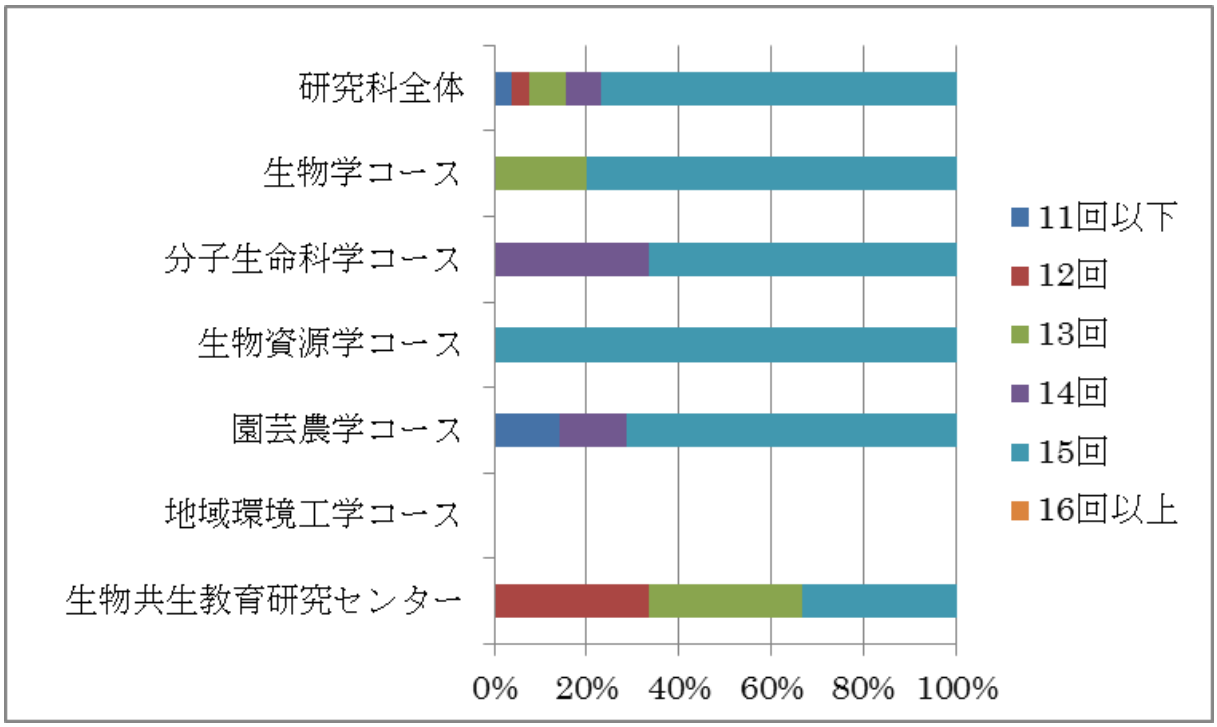
(1) 予定回数（２単位 15 回とし，集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）



図Ⅲ-3-2(1)．授業予定回数

回答数は 26 件である。授業予定回数を規定回数である 15 回と回答した教員は，研究科全体では 89%で，昨年度(76%)よりも 13 ポイント高くなり、ほとんど授業を規定時間通り行っていると言える。

(2) 実施回数（集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）

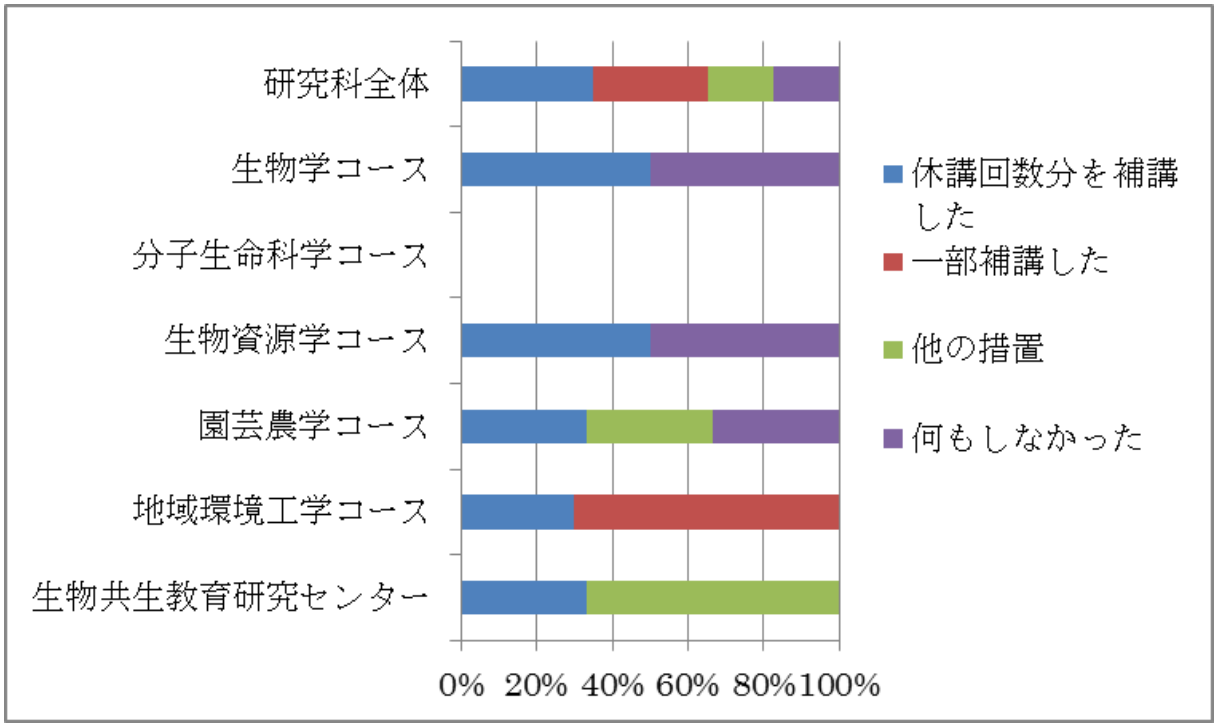


図Ⅲ-3-2(2)．授業実施回数

回答数は 26 件である。 授業実施回数が 15 回の割合は，研究科全体では 77%であり，昨年度

(43%) より 34 ポイント増加した。研究科全体で，14 回が 8%，13 回が 8%，12 回以下が 8%であった。学部と比較して規定回数通りに授業が実施されていないケースがやや多いものの，昨年度よりも規定回数を実施しているケースがかなり増えた。

設問 3. 休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。



図Ⅲ-3-3. 休講の代償措置

回答数は 23 件である。 研究科全体で「補講した」との回答は 65%であり，昨年度と比較して 21 ポイント増加した。さらに，「４．何もしなかった」とした回答は，研究科全体の 17%であり，昨年(27%) と比べて減少した。すなわち，補講や他の措置（課題学習など）を実施するケースが 83%となり、かなり改善されている

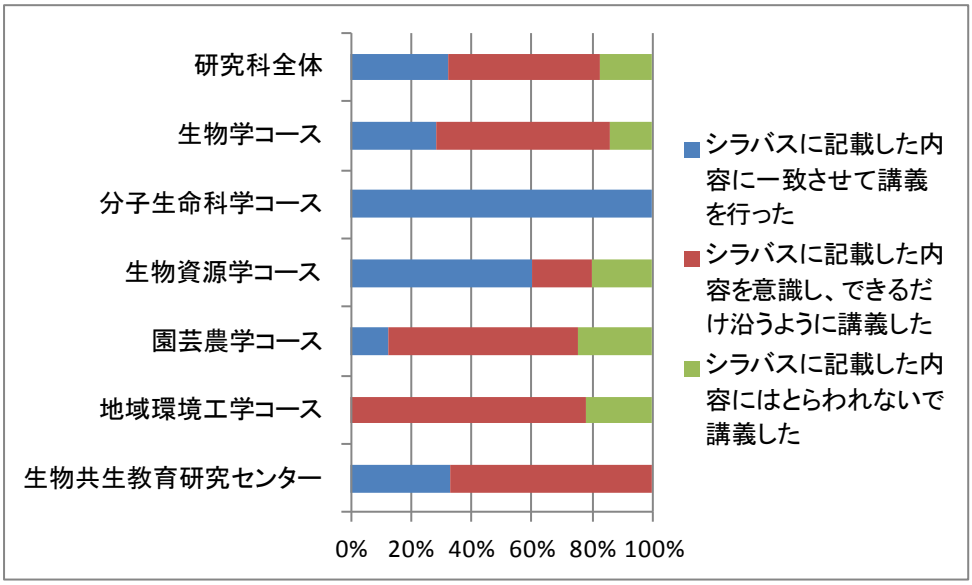
また，講じた代替措置については，以下の記述があった。

[生物共生教育研究センター]

・資料配布。

・課題を与えて自分で学習させた。

設問 4. (1) シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。



図Ⅲ-3-4. シラバスと実際の授業内容との一致度合

回答数は 40 件である。 研究科全体で見ると，「シラバスと一致」，「できるだけ一致」を合わせると 83%となり，昨年度(87%)と同様に，概ね教員がシラバスに準じた授業を行っていた。とくに，分子生命科学コースでは，すべての回答で「シラバスと一致」としていた。

(2) 上記で，「3. 内容にとらわれないで講義した」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。

[生物資源学コース]

・受講学生さんの所属研究室を考慮したため。

[園芸農学コース]

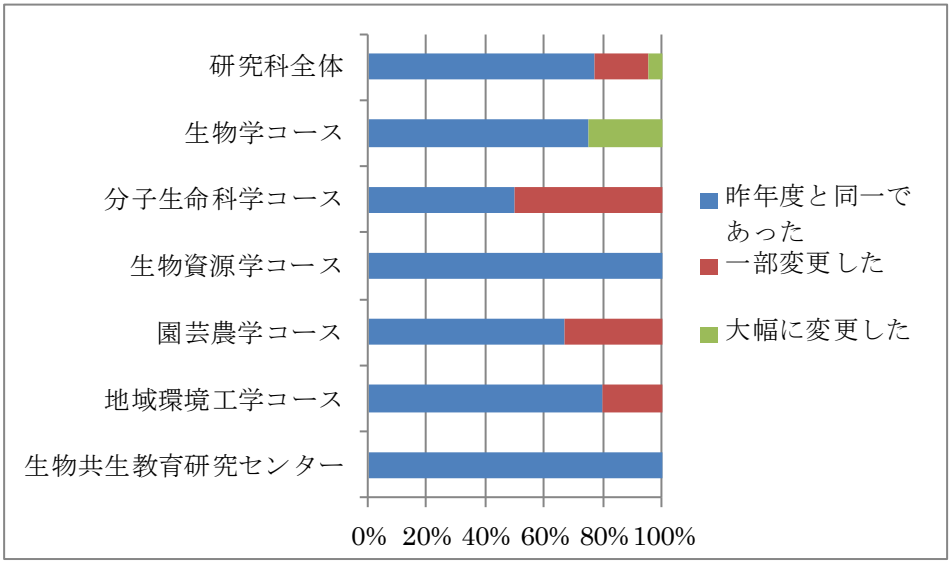
・受講学生の所属コースが多様なので，シラバスに記載した専門性の高い内容では，多くの学生にとって興味が持てないと考えたため。

・受講生の希望に添って実施した。

[地域環境工学コース]

・中国人留学生に対して，そのようにせざるを得ませんでした（日本語では無理です)。

設問 5. (1)① 本年度のシラバスの記載内容は前年度と同一でしたか。



図Ⅲ-3-5. 前年度のシラバスとの比較

回答数は 22 件であった。研究科全体では,「昨年度と同一」と「一部変更」がそれぞれ 77%, 18%であった。これらの合計は 95%であり, 昨年度(95%)と同程度であった。「大幅に変更」は無く, シラバスを大きく変更していないとみられる。

② 上記で,「2. 一部変更した。」または「3. 大幅に変更した。」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。

[生物学コース]

3 対象学生が異なる, 違う専攻科の学生を受講したため。

[分子生命科学コース]

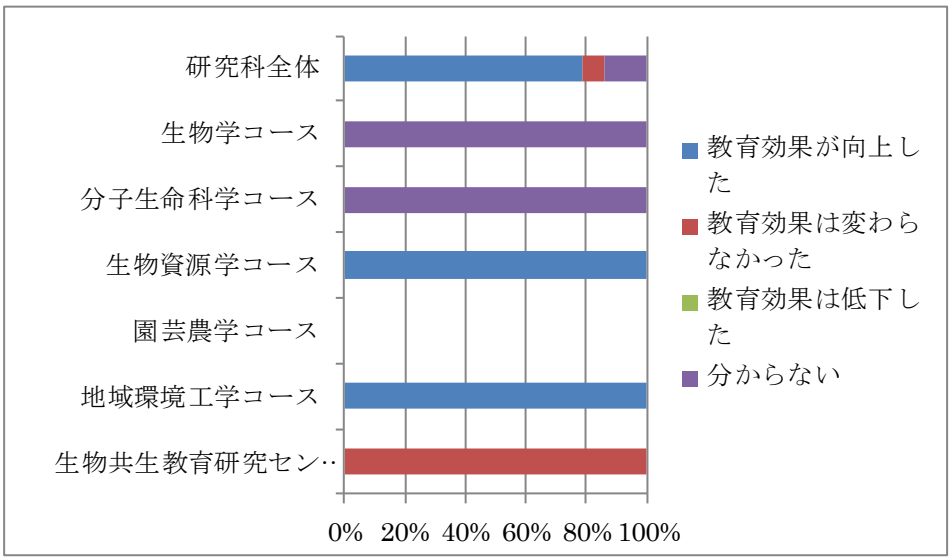
2 7 回+7 回となる様にした。

[地域環境工学コース]

2 異なる専門分野の学生が理解しやすいようにするため。

③ 上記の場合で、シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。

1. 教育効果が向上した 2. 教育効果は変わらなかった 3. 教育効果は低下した
4. 分からない



図Ⅲ-3-6. シラバス変更の教育効果

回答数は 14 件である。研究科全体で，教育効果が向上したが 79%で、地域環境工学の回答がそのうち 91%を占める。変わらない、分からないが，それぞれ 1 件，2 件であった。

シラバスを変更した理由・目的の多くは授業改善のためであるが，「教育効果が向上した」と回答した件数(率)は，研究科全体で 1 人(14%)であった。「変わらなかった」および「分からない」と回答した件数(率)は，それぞれ 3 人(43%)と 2 人(12%)であり，シラバスの変更が必ずしも教育効果の改善に寄与していないことが認められた。

④ 上記の設問③で「１」と回答した方は、その具体的な事例を教えて下さい。

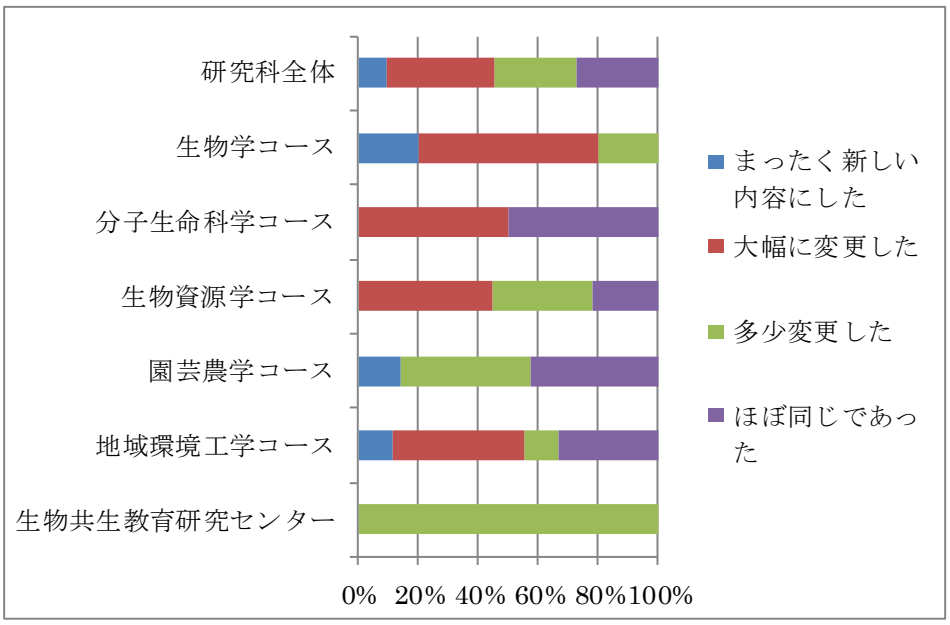
[地域環境工学コース]
レポートの中身が良好であった。

(2)新カリキュラム講義

昨年度まで担当された専門科目をクオーターに分けて実施したケースについてお聞きします。

① 各クオーター分を合わせた全体のシラバスは、前年度に比べ変更されましたか？

1. まったく新しい内容にした　2. 大幅に変更した　3. 多少変更した　4. ほぼ同じであった



図Ⅲ-3-7.　新カリキュラム講義

回答数は 33 件である。セメスター制にしたことで，「まったく新しい内容にした」3，「大幅にカリキュラムを変更した」12 で，45%が大きな内容変更を行った。「ほぼ同じであった」は 27%であった。

② 上記で、1. または 2. と回答した方は、どのような観点で内容を変更しましたか？

[生物学コース]
・内容を一新した。
・対象学生に合わせる。
・講義形式と，院生に文献を読ませて内容を紹介してもらう形式とを半分ずつ。どちらも内容的に充実させた。

[分子生命科学コース]
・4 年生が前半のセメスターのみ繰上げ履修したため，前半部分に初歩的な講義を行い，後半のセメスターでより専門的な講義を行うように変更した。

[生物資源学コース]
・講義内容の構成を改めた。
・講義名に整合するように。

・今までは 15 回で完結する内容を意識したが，今回から 7-8 回で完結する内容に変更する必要が生じたため変更した。

［園芸農学コース］
・到達目標を大きく 2 つ設定して，それぞれ内容を整理した

［地域環境工学コース］
・限られた回数で，一定の内容を教授できるようにした。

以上の記述から，セメスター制への移行で，次のような形で内容の変更が行われていた。
・講義，文献購読の２つで構成
・4 年生が受講する前半は初歩，後半を専門
・各セメスターで完結する内容
・到達目標を２つ設定

③ クオーター制による講義は、教育効果にどうような影響を与えたとお考えですか？

1. 教育効果が向上した 2. 教育効果は変わらなかった 3. 教育効果は低下した
4. 分からない

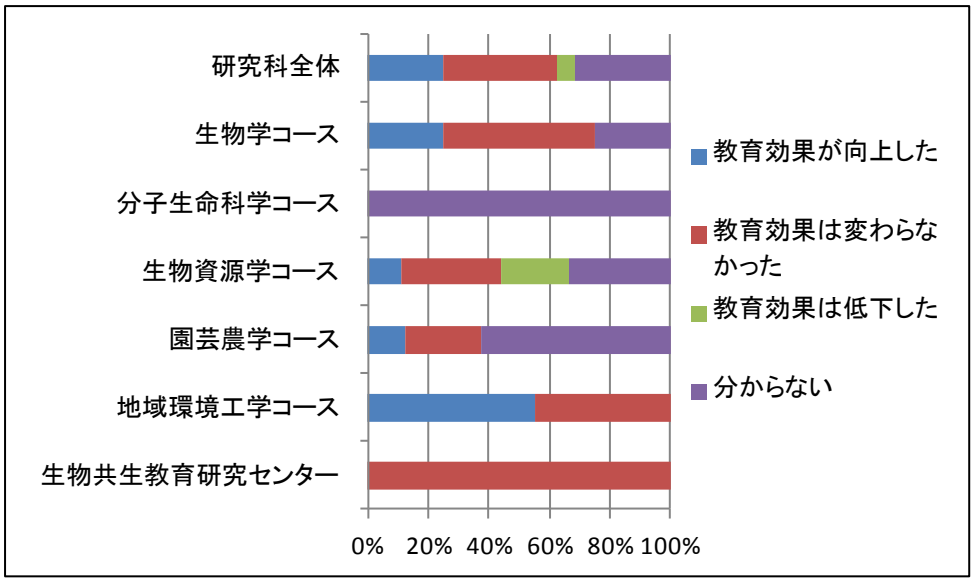


図 Ⅲ-3-8. クオーター制による教育効果

回答数は 32 件である。25%が教育効果が向上したと評価した。一方，低下したが 6%であった。教育効果変わらないが 36%，分からないが 30%である。初年度のため，26 年度の修了生の評価との比較考察や，今後数年のアンケート結果を総合して本制度での効果について検討が必要である。

④ 上記の設問③で「１」と回答した方は、その具体的な事例を教えて下さい。

［生物学コース］

大学院の授業は，15 回では多すぎる。7～8 回が 1 分野を考えるのに妥当。受講者の専門知識を揃えるために，受講の条件を設定する必要がある。

［生物資源学コース］

講義進行にメリハリがつき，理解が深まったと思う。週 2 回の講義を行ったため，半分の期間で講義を終了することができた。院生にとっても残りの時間は研究や他の講義受講にあてることができ，好評だった。

［園芸農学コース］

多様な専門の学生に対して，導入的な内容と少し専門にふみこんだ内容に分けて講義することができたので良かった

［地域環境工学コース］

第 1 セメスターの内容の応用的学習を第 2 セメスターにおいたが，第 1 のみの受講者が多かったため，専門的知識が目標通り身についていないことがあった。

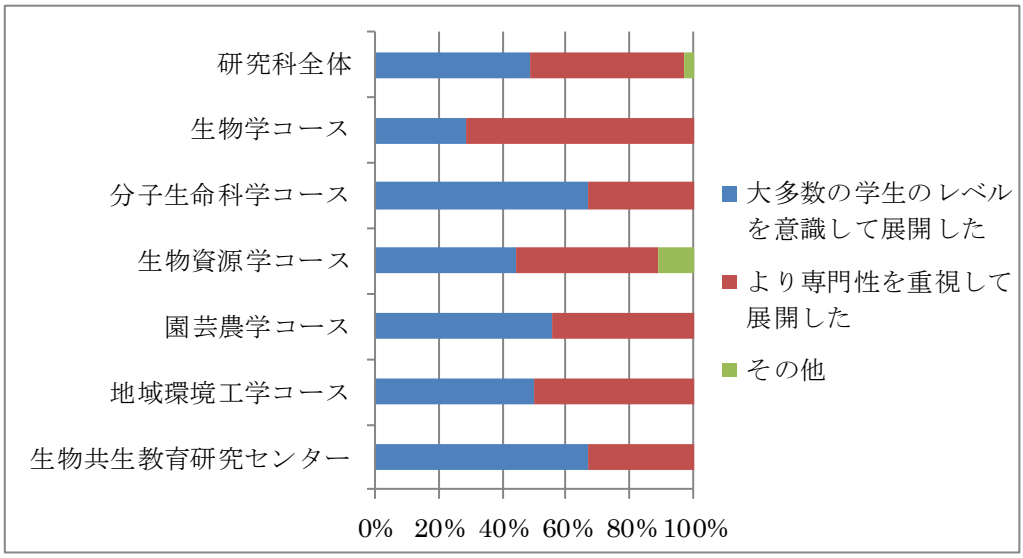
大学院講義では一分野で 7-8 回が妥当，理解が深まる，導入と専門に分けられる，などのメリットが指摘された。

設問 6. 大学院の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。

1. 大多数の学生のレベルを意識して展開した

2. より専門性を重視して展開した

3. その他（ ）



図Ⅲ-3-9. 講義についての考え方

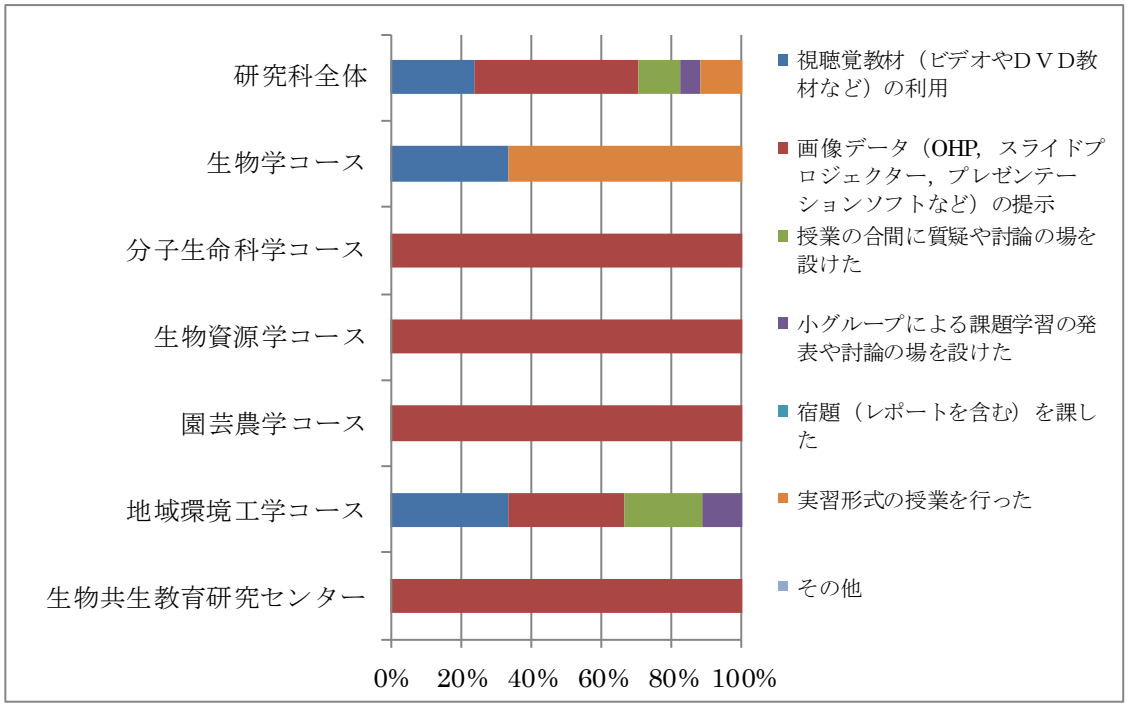
回答数は 35 件である。研究科全体では，「専門性を重視」「学生のレベルを意識した展開」とした回答が同数であり，これまでの傾向と同様であった。

その他の記述では以下のような回答があった。

［生物資源学コース］

第 1 セメスターでは 1(学生レベル重視)，第 2 セメスターでは 2(専門性重視)とした

設問 7. 学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可）。



図Ⅲ-3-10. 授業の工夫

回答数は 17 件である。昨年度は「質疑や討論」と「発表や討論」が合わせて 38%であったが，今年度は 18%と大幅に減った。２か月の履修期間でそのような時間を取るのが難しくなったためではないかと推察される。「画像データ」や視聴覚機材が多いのは学部授業と同様である。

その他の回答

[分子生命科学コース]

WEB サイトを示しながら解説する予定であったが，328 教室は電波の状態が不安定でほとんど使用できなかった。

[生物資源学コース]

各自に発表の場を設けた。

[地域環境工学コース]

実際の現場へ連れて行き，学外講義を実施。

設問 8. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが，そのような場合への対応として，どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

[生物学コース]

・そのような学生はいなかった。

[分子生命科学コース]
・経験がないが，丁寧に説明するつもりである。
・申し出がないので回答できない。

[生物資源学コース]
・成績評価した採点や出席状況を見せて説明している。
・大学院の成績評価に対して疑義をもたれたことが今までないため，特に取り組んだ経験がない。
・採点基準を詳しく説明する。
・特にしていません。
・当該学生なし。
・もし，そのようなケースが発生すれば当該学生の意見を聞き対応する。

[園芸農学コース]
・評価方法の開示。

[地域環境工学コース]
・成績評価に用いるここの資料について，速やかに評価結果を学生に伝達する。
・疑義の出ることはほとんどない。
・今まで，そのような学生はいません。
・いつでも研究室へ来るように話している。

[生物共生教育研究センター]
・理由を開示。
・大学院の講義で私に疑義を申し立てた学生はまだいません。

設問 9. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために，このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。

回答なし。

設問 10. このアンケート調査の実施や内容についてご意見がありましたらご記入下さい。

回答なし。

Ⅳ　教員対象教育評価アンケート

1.　アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学部の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため学部教育に関する教員の意識について調査することを目的とした。

調査方法：アンケート用紙を各教員に配布して調査を行った。学生に対するアンケートの設問と共通項目を設けた。

調査対象:平成 26 年 3 月の時点で学部および生物共生教育研究センターに所属する教員とした。

調査期間：平成 26 年 2 月 18 日～4 月 5 日

調査対象教員数：71 名，　有効回答者数：51 名

調査項目：設問は以下の通りである。

設問 1. あなたの所属学科等をお答え下さい。

設問 2. 本学部および本研究科の理念,教育目的および教育目標を知っていますか。

設問 3. あなたが所属する学科・専攻等の教育目標を知っていますか。

設問 4. 本学部の入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

設問 5. あなたが所属する学科・専攻等の教育目標は学部ホームページにあるとおりですが,学科（21 世紀教育科目および専門教育科目）および専攻のカリキュラムはその目標によく合致すると感じていますか。

設問 6. あなたはシラバス作成時に,学科・専攻等の教育目的や教育目標に従った講義内容にしようとしていますか。

設問 7　① 授業内容がシラバス記載の内容と異なることをどのようにお考えですか。

② 何らかの理由で授業内容がシラバス記載の内容と異なった場合,あなたは受講生に対する説明の必要性についてどのようにお考えですか。

設問 8. 本学では「授業方法改善のための学生による授業評価に関するアンケート調査」が平成 15 年度後期から実施されています。その結果についてお尋ねします。

① 学生による授業評価の妥当性についてどのようにお考えですか。

②授業評価の結果を授業の改善に利用していますか。

設問 9. 本学では授業改善のための各種の研修活動（ＦＤ活動）が行われています。

① この 1 年間でどのようなＦＤ活動に参加されましたか。参加された回数をお答え下さい（参加されなかった場合０を記入して下さい)。

② 参加された活動は,教育改善に役立ちましたか。

設問 10. 担当科目において学生の授業時間外の学習を促すためにどのような工夫をしていますか。

設問 11. ① 本学部の以下の施設と設備についてどのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。

② 上記で「4.やや不充分」と「5.かなり不充分」を選択した場合,その理由を次の欄に具体的に書いて下さい。

設問 12. ① 卒業研究は必要であると思いますか。

② 上記のように回答した理由を下欄に分りやすく記入して下さい。

設問 13. ① あなたの学科の大多数の卒業生は本学部での教育により大学卒業生としての知識と学力を身に付けたと思いますか。

② 上記で「4.そう思わない」と「5.全くそう思わない」を選択した場合その理由は何ですか。以下の中から選んで下さい。

設問 14. ① あなたの専攻の大多数の修了生は,本研究科での教育により大学院修了程度の専門知識を身に付けたと思いますか。

② 上記で「4.そう思わない」と「5.全くそう思わない」を選択した場合その理由は何ですか。以下の中から選んで下さい。

２．調査結果

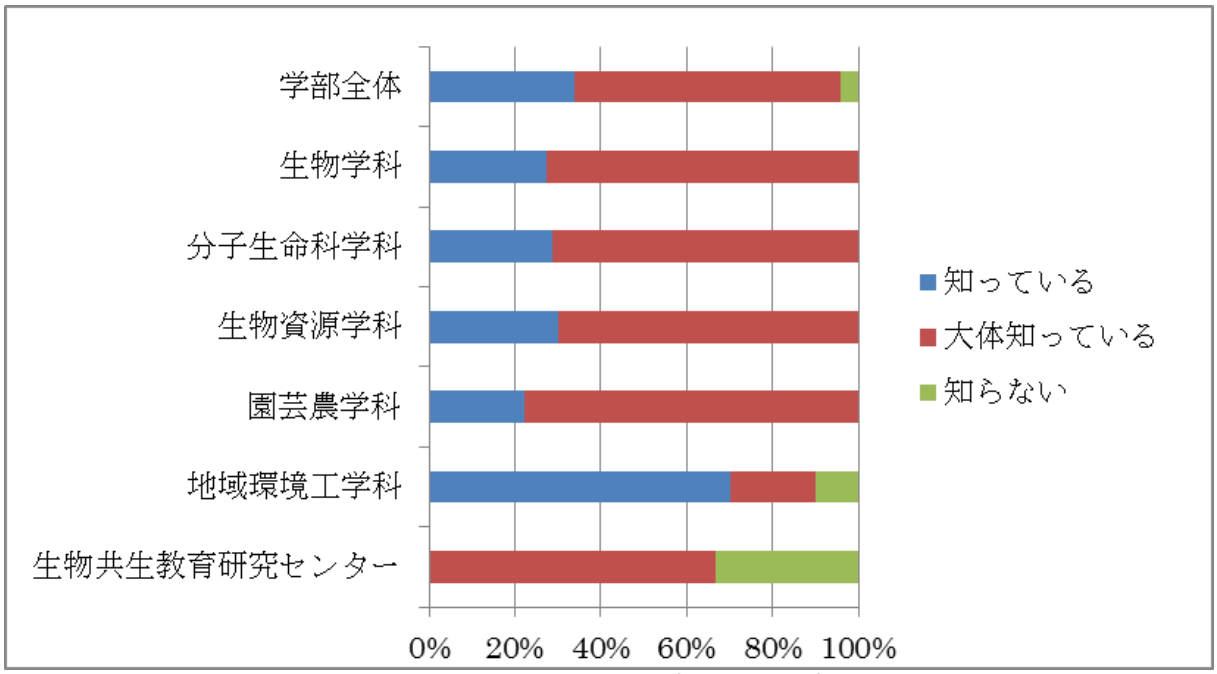
設問 1. あなたの所属学科等をお答え下さい。

表Ⅳ-１　回答率

学　科　等	教員数	回答数	回答率	H25 回答率
生物学科	14	11	79%	79%
分子生命科学科	14	8	57%	64%
生物資源学科	13	10	77%	85%
園芸農学科	15	9	60%	80%
地域環境工学科	10	10	100%	70%
生物共生教育研究センター	4	3	75%	75%
学部全体	70	51	73%	76%

3 カ年の学部全体の回答率は 78%,76%,73%と減少傾向にある。学科毎に見ると,「地域環境工学科」(90%,70%,100%),「生物学科」(62%,79%,79%),「生物資源学科」(79%,79%,79%),「園芸農学科」(87%,80%,60%),「分子生命科学科」(79%,64%,57%),「生物共生教育研究センター」(100%,75%,75%)と推移している。全体として,教員多忙化の中,多くの教員（73%）が回答した。

設問 2. 本学部および研究科の理念，教育目的および教育目標を知っていますか。



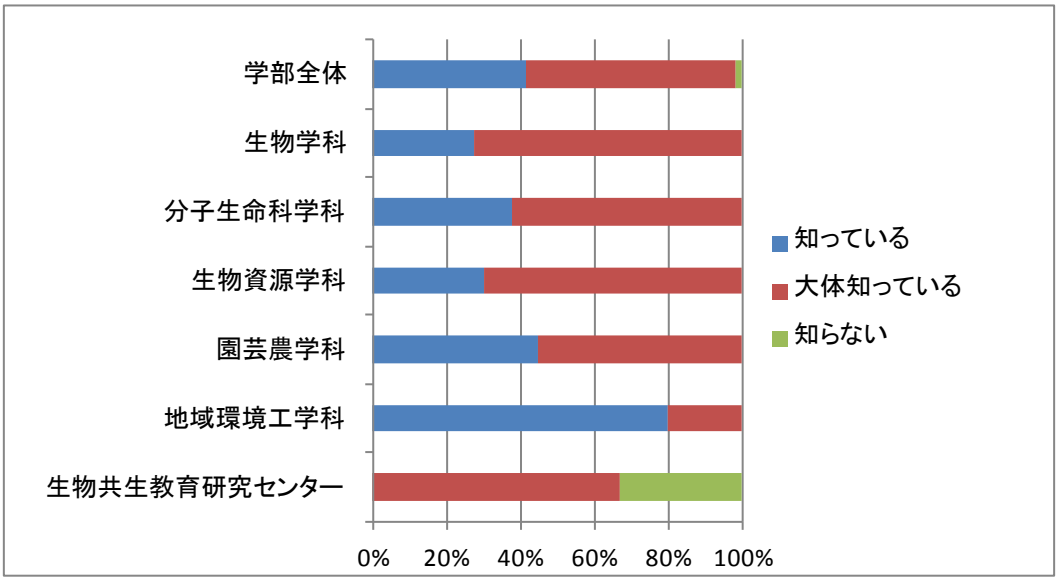
図Ⅳ-1　学部・研究科の理念・教育目的・教育目標の認知

学部全体で，「知っている」が 34%（前回 53%），「大体知っている」が 62%（前回 47%）であり，合計すると 95%となる。殆どの教員が，学部と研究科の理念・教育目的・教育目標の大略を認知している。「知らない」は 4%（前回 0%）であった。

前回からの推移を学科別に見ると，「知っている」は「地域環境工学科」（78%→70%），「生物資源学科」（40%→30%），「分子生命科学科」（64%→29%），「生物学科」（38%→27%），「園芸農学科」（50%→22%）となった。ただし，学科間の差は固定的なものではなく，年度ごとの変化が大きい。昨年度の報告書（平成 24 年度）には，「昨年度 4 割を下回り最低であった生物学科はその比重が増加し，昨年度 6 割を超えていた分子生命科学科が 4 割を下回り大きく減少した」と記述されている。

「知っている」と「大体知っている」の合計は，地域環境工学科が 90%，その他の学科は 100%であった。

設問 3. あなたが所属する学科・専攻等の教育目標を知っていますか。

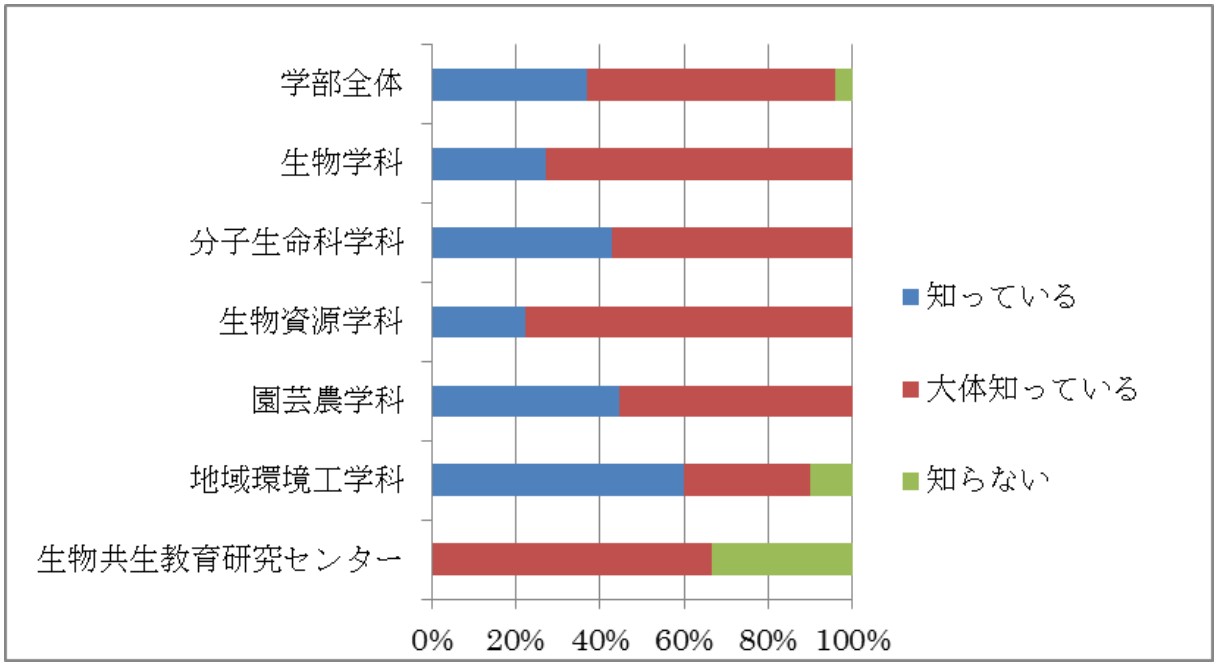


図Ⅳ−２　所属学科・専攻等の教育目標の認識

所属学科・専攻等の教育目標の認知については，学部全体で，「知っている」が 41%（前回 56%），「大体知っている」が 57%（前回 44%）であり，ほぼ全教員（98%）が概ね認識している。「知らない」は 1 人・2%（前回 0%）であった。

「知っている」の比率を学科別に見ると，「地域環境工学科」が 80%（前回 100%），「園芸農学科」が 44%（前回 62%），「分子生命科学科」が 37%（前回 64%），「生物資源学科」が 30%（前回 56%），「生物学科」が 27%（前回 56%）となっている。

設問 4. 本学部の入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。



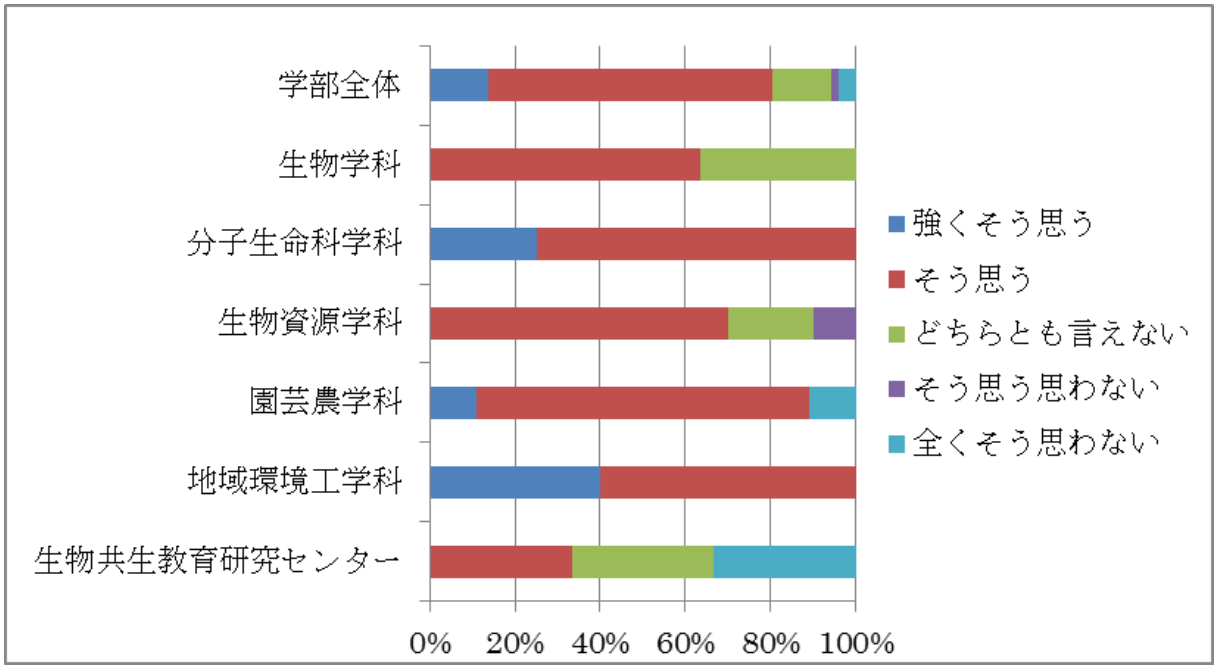
図Ⅳ−３　入学者受け入れ方針の認識

「知っている」は学部全体で 37%であり，前回（54%）より減少した。「知らない」は 4%であった。「知っている」の比率を学科別に見ると，「地域環境工学科」が 60%（前回 67%），「園芸農学科」が 44%（前回 69%），分子生命科学科が 43%（前回 45%），生物学科が 27%（前回 50%），生物資源学科が 22%（前回 44%），生物共生教育センター0%（前回 25%）であった。

「知っている」の比率について，前回の報告書には，「生物学科，分子生命科学科，生物資源学科は昨年度より減少し 4 割を下回った。園芸農学科は昨年度と同程度，地域環境工学科は増加し 100%，生物共生教育センターは減少し 0%となった」と記述されている。学科間の差は年度毎に変化している。

「大体知っている」は学部全体で 59%であり，「知っている」(37%) と合計すると 96%となる。このように，「大体」を含んでほぼ全教員が，アドミッションポリシーを認知している。

設問 5. あなたが所属する学科・専攻等の教育目標は学部ホームページにあるとおりですが，学科（21 世紀教育科目および専門教育科目）および専攻のカリキュラムはその目標によく合致すると感じていますか。



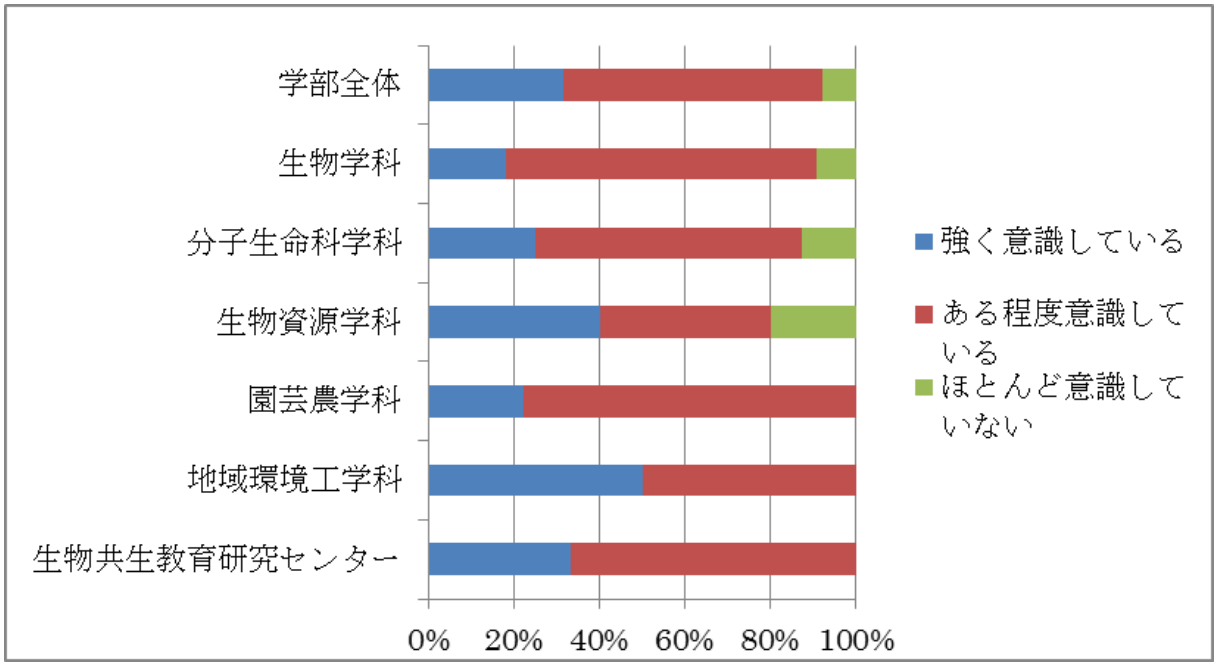
図Ⅳ-４　所属学科・専攻等の教育目標とカリキュラムとの合致

学部全体では肯定的評価（「強くそう思う」と「そう思う」）が 80%で，昨年度と同様，概ね合致すると考えられている。学科別で「肯定的評価」を見ると，「地域環境工学科」が 100%（前回 89%），「分子生命科学科」が 100%（前回 91%），「園芸農学科」が 89%（前回 85%），「生物資源学科」が 70%（前回 67%），「生物学科」が 64%（前回 88%），「生物共生教育研究センター」が 33%（前回 0%）であり，学科によって肯定的評価の度合いに違いが見られる。学部全体での「否定的評価」（「全くそう思わない」と「そう思わない」）は 6%である。

学科別での「否定的評価」は，「園芸農学科」11%，「生物資源学科」10%，「生物共生教育研究センター」(33%) である。「どちらとも言えない」は，「生物資源学科」20%，「生物学科」36%，

「生物共生教育研究センター」33%である。否定的評価の理由等を具体的に把握することで，新たな改善を探ることが望ましい。

設問 6. あなたはシラバス作成時に，学科・専攻等の教育目的や教育目標に従った講義内容にしようとしていますか。



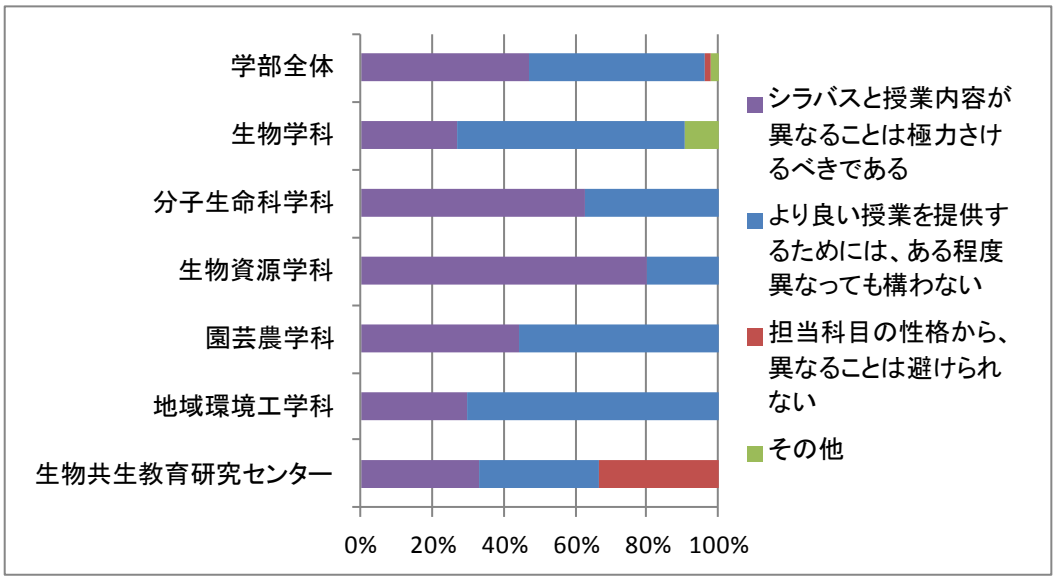
図Ⅳ−５　教育目的・目標に従ったシラバスの作成

学部全体で，「強く意識している」が 31%，「ある程度意識している」が 61%，「ほとんど意識していない」が 8%，「全く意識していない」が 0%であった。このように，学部全体として，「教育目的・目標に従ったシラバスの作成」が意識されている。

学科別に「強く意識している」と「ある程度意識している」の合計割合を見ても，「地域環境工学科」と「園芸農学科」と「生物共生教育研究センター」は 100%，「生物資源学科」は 80%，「分子生命科学科」は 88%，「生物学科」は 91%と，前回と同様，全学科で教育目的・目標にしたがったシラバスの作成が意識されている。

「全く意識していない」は皆無であった。「ほとんど意識していない」は学部全体で 8%である，それを学科別に見ると，「生物資源学科」20%，「分子生命科学科」13%である。なお，前回の選択肢は変更されているため，前回との比較はできない。

設問 7. ①授業内容がシラバス記載の内容と異なることをどのようにお考えですか。



図Ⅳ-６(1)　シラバスと実際の授業内容の不一致に対する見解

学部全体で,「極力さける」が 47%（前回 51%),「より良い授業を提供するためには, ある程度異なってもかまわない」が 49%（前回 49%),「担当科目の性格から, 異なることは避けられない」が 2%（前回 2%）である。このように, 教員の意見は,「極力さける」と「ある程度異なってもかまわない」に分かれている。

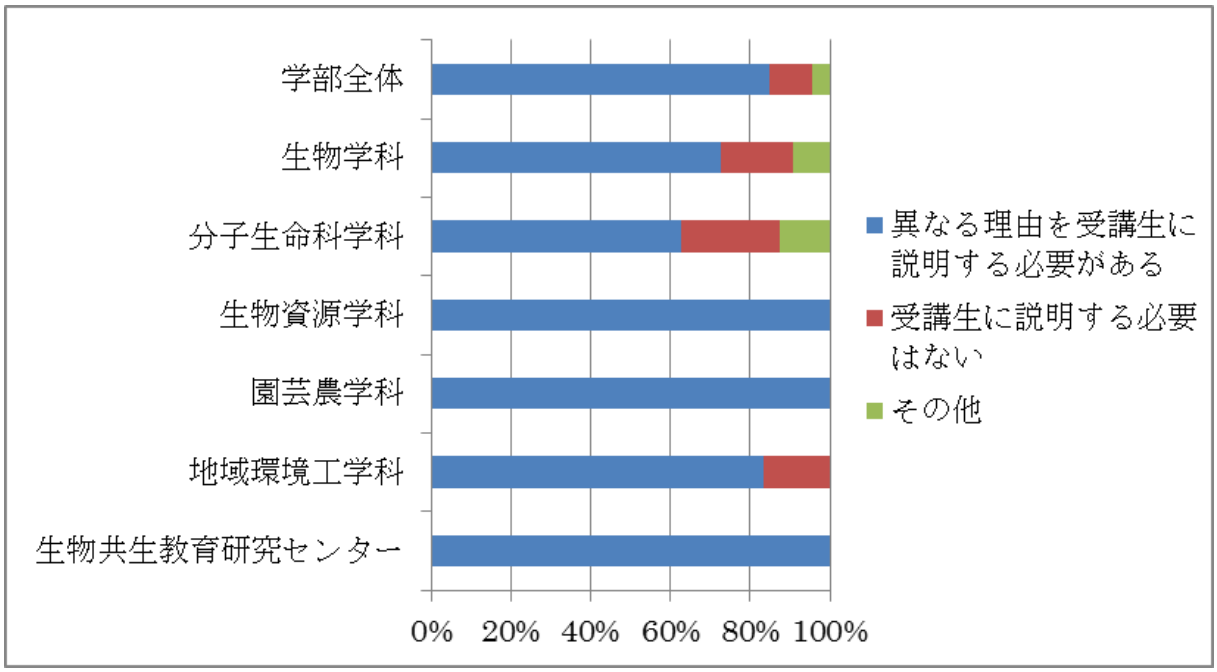
学科別に見ると, 以下のようになる。括弧内は, 前回の結果である。

「生物資源学科」　「極力さける」80%（67%）,「ある程度異なってもかまわない」20%（33%）
「分子生命科学科」「極力さける」63%（36%）,「ある程度異なってもかまわない」38%（64%）
「園芸農学科」　「極力さける」44%（77%）,「ある程度異なってもかまわない」56%（23%）
「地域環境工学科」「極力さける」30%（44%）,「ある程度異なってもかまわない」70%（56%）
「生物学科」　「極力さける」10%（25%）,「ある程度異なってもかまわない」70%（75%）

「極力さける」が多数を占める学科（「生物資源学科」）もあるが,「ある程度異なってもかまわない」が多数を占める学科（「地域環境科学科」・「生物学科」）もある。ただし, 教員の考え方は年度によりかなり変化している。回答者が増えたことも関係しているであろう。

シラバスは学生との約束事であり, 教員が約束を違えることを「極力さける」のは当然である。しかし, 教育効果を上げるために変更が必要になることもある。教員の意見が二分される状況は,「シラバス変更を極力さけながらも, 変更すべき時は変更する」という教員の柔軟な判断（総意）を示すものと見ることができる。

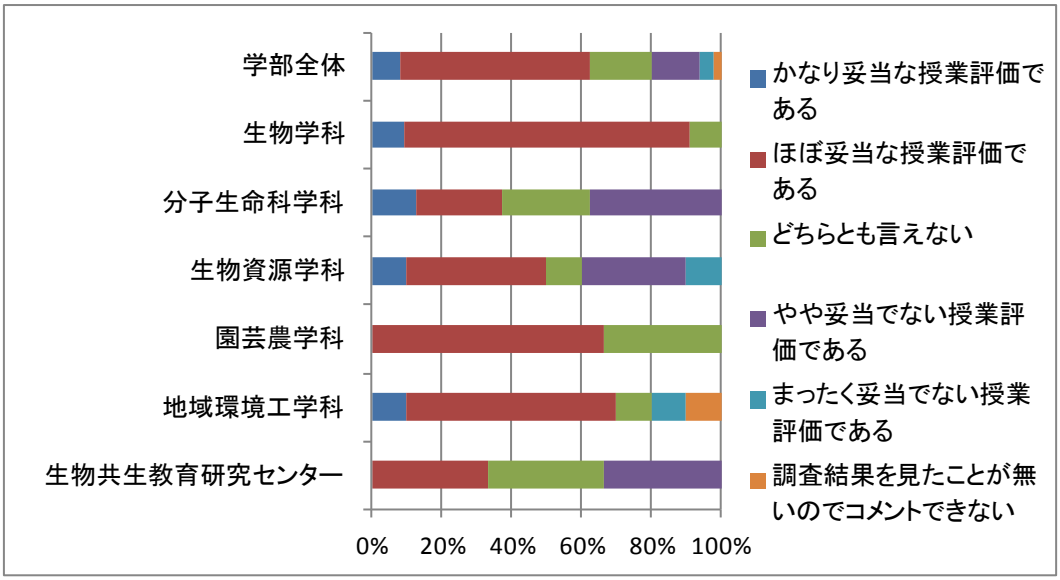
設問 7. ②何らかの理由で授業内容がシラバス記載の内容と異なった場合，あなたは受講生に対する説明の必要性についてどのようにお考えですか。



図Ⅳ-６(2)　シラバスと授業内容が異なる場合の受講生への説明

「説明する必要がある」が 93%と大勢を占めている（前回は 95%）。しかし「説明する必要はない」との意見も 11%（前回 5%）存在する。「説明する必要はない」と考える理由について，自由記述欄を設けることが望ましい。

設問 8. 本学では「授業方法改善のための学生による授業評価に関するアンケート調査」が平成 15 年度後期から実施されています。その結果につお尋ねします。
①学生による授業評価の信頼性についてどのようにお考えですか。

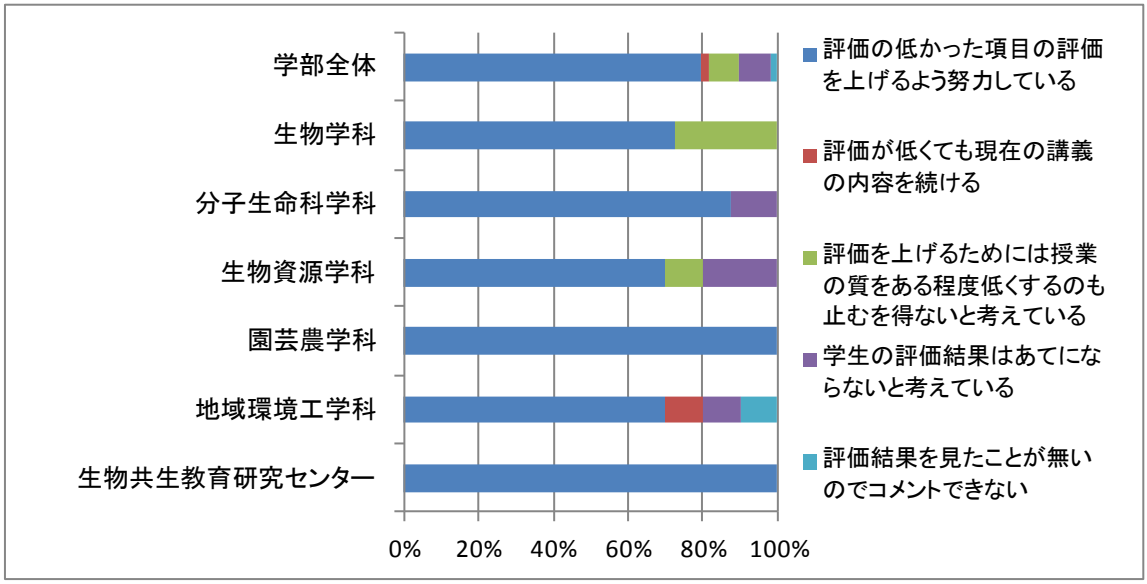


図Ⅳ-７(1)　学生による授業評価アンケートの信頼性

学部全体では，「かなり妥当」が 8%（前回 6%），「ほぼ妥当」が 55%（前回 57%），「どちらとも言えない」が 18%（前回 31%），「やや妥当でない」が 14%（前回 2%），「かなり妥当」が 8%（前回 6%），「まったく妥当でない」が 4%（前回 2%）であった。「かなり妥当」と「ほぼ妥当」で 63%，「やや妥当でない」と「まったく妥当でない」で 18%になる。このように多くの教員は，概ね妥当だと考えている。

「かなり妥当」と「ほぼ妥当」の合計を学科別に見ると，「生物学科」は 91%（前回 75%），「地域環境工学科」は 70%（前回 75%），「園芸農学科」は 66%（前回 77%），「生物資源学科」は 50%（前回 44%），「分子生命科学科」は 38%（前回 36%）であり，「学生による授業評価」に対する信頼感の度合いは，学科間で異なっている。

②授業評価の結果を改善に利用していますか。



図Ⅳ－７（2）　学生による授業評価結果の授業改善への利用

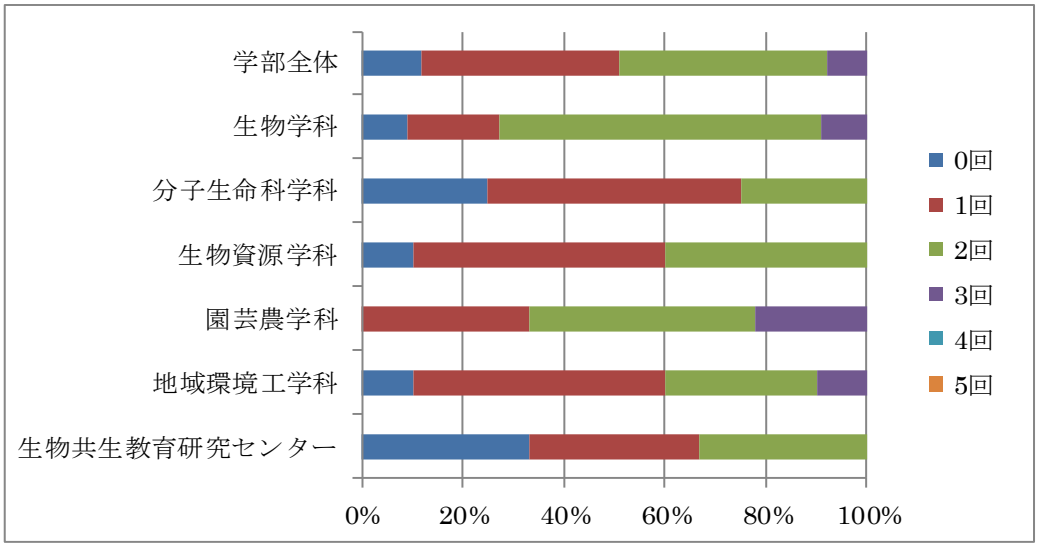
学部全体では，「評価の低かった項目の評価を上げるよう努力している」が 80%（前回 77%），「評価が低くても現在の講義の内容を続ける」が 2%（前回 11%），「評価を上げるためには授業の質をある程度低くするのもやむを得ない」が 8%（前回 7%），「学生の評価結果はあてにならない」が 8%（前回 5%），「評価結果を見たことがないのでコメントできない」が 2%（前回 0%）であった。

このように，多くの教員（80%）が「評価を上げよう」として，評価結果を授業改善に利用している。「評価を上げるために授業の質をある程度低くする」（8%）も「評価を上げよう」とする点では，同じであり，加えると 9 割の教員が「評価を上げよう」としている。ただし，先の 80%の教員が授業の質を下げるのか下げないのかは不明である。

「質を下げる」とは，基礎的なことから教授することであり，徐々に質を上げるであろう。「質を下げない」のは，教授方法を工夫するからであろう。「学生評価はあてにならない」とは，学生評価に盲目的に従属せず教授すべきことを教授するということであろう。そのためには，教える工夫が必要となる。このように，教員は多様な立場から，より質の高い講義を求めていると見られる。

設問 9. 本学では授業改善のための各種の研修活動（ＦＤ活動）が行われています。
①この 1 年間でどのようなＦＤ活動に参加されましたか。参加された回数をお答え下さい。
（参加されなかった場合は 0 を記入して下さい）。

1. 学部主催のＦＤ活動

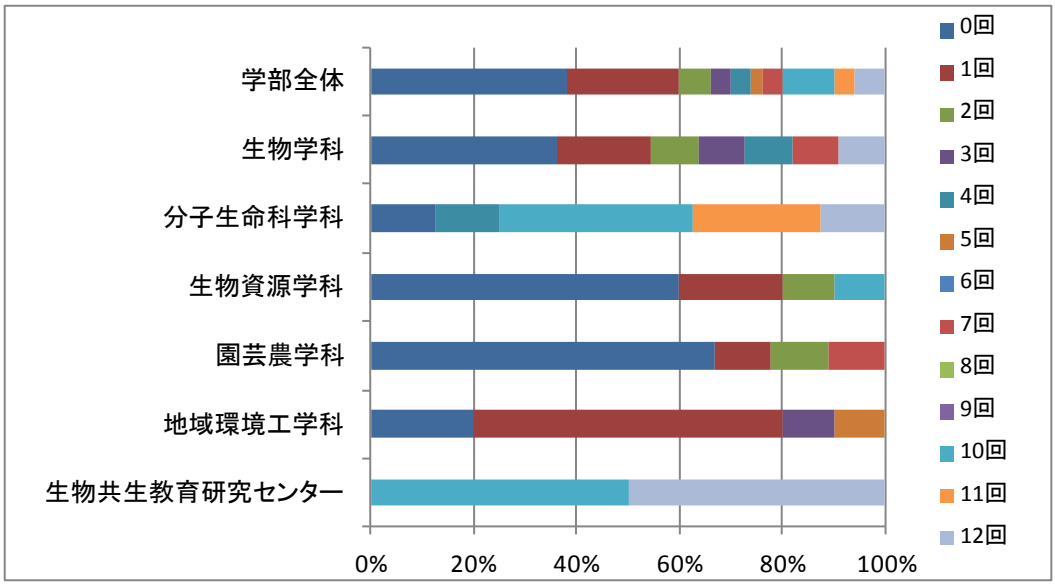


図Ⅳ-８(1)　学部主催のＦＤ活動への参加回数

学部主催のＦＤ活動への参加回数毎の集計を見ると，, 学部全体では, 0 回が 12%, 1 回が 39%, 2 回が 41%，3 回が 8%であり，1 回以上参加した教員が 88%を占めている。

学部全体の述べ参加回数は 74 回である。述べ参加回数を 1 教員当たり（回答した教員）に換算すると，学部全体では 1.5 回,「園芸農学科」が 1.9 回,「生物学科」が 1.7 回,「地域環境工学科」が 1.4 回,「分子生命科学科」が 1 回,「生物共生教育研究センター」が 1 回である。

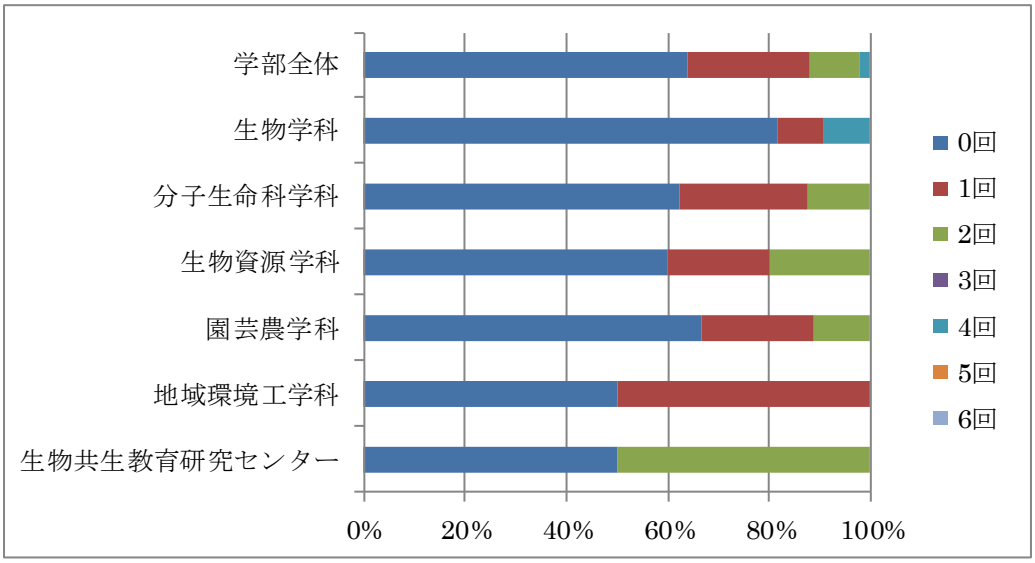
2. 学科主催のＦＤ活動



図Ⅳ-８(2)　学科主催のＦＤ活動への参加回数

学科主催のＦＤ活動への参加回数は，多い教員で 12 回である。1 回以下が 60%（0 回 19 人，1 回 11 人），2～5 回 8 人，7 回 2 人，10～12 回 10 人である。学科別の回答者（0 回の回答者も含む）1 人当り平均参加回数（参加回数毎にその回答者数を乗じ，それらの総計を総回答者数で割る）は，「生物共生教育研究センター」11 回，「分子生命科学科」6.3 回，「生物学科」2.7 回，「生物資源学科」と「地域環境工学科」1.4 回，「園芸農学科」1.1 回である。

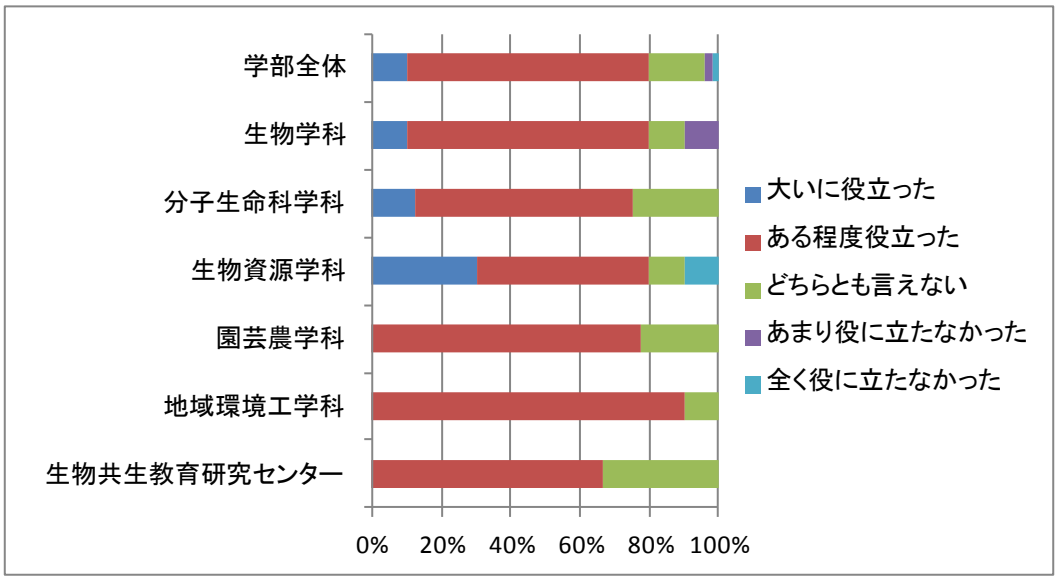
3. その他のＦＤ活動



図Ⅳ-８(3)　その他のＦＤ活動への参加回数

その他のＦＤ活動としては，大学全体のＦＤ活動や学外でのＦＤ活動が想定される。学部全体では 0 回が 64%，1 回が 24%，2 回が 10%，4 回 2%である。学科別の回答者（0 回の回答者も含む）1 人当りの平均参加回数は，「生物共生養育研究センター」1.5 回，「生物資源学科」0.6 回，「分子生命科学科」「生物学科」「地域環境工学科」0.5 回，「園芸農学科」0.4 回である。学科主催ＦＤ活動とその他のＦＤ活動への対応には，温度差が認められる。

②参加された活動は，教育改善に役立ちましたか。

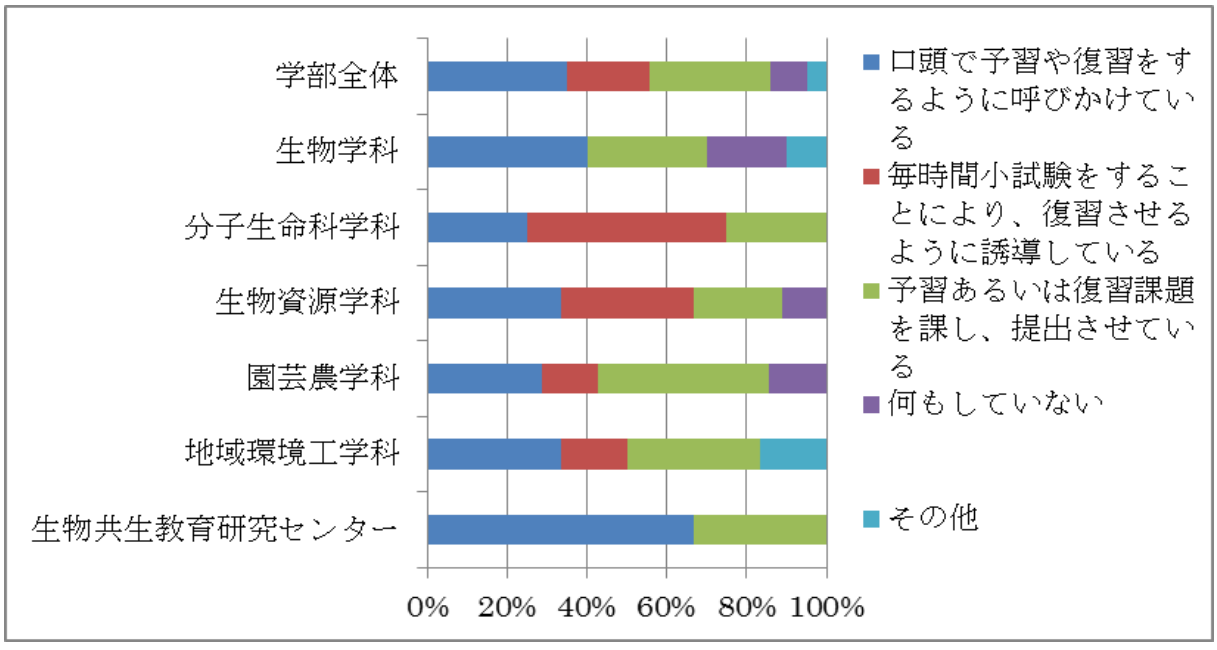


図Ⅳ－８（4）　参加したＦＤ活動の教育改善効果

学部全体では昨年度と同様に肯定的評価（「大いに役立った」と「ある程度役立った」）が 80%を占めた。それを学科別に見ると，「地域環境工学科」が 90%（前回 100%），「生物資源学科」が 80%（前回 44%），「生物学科」が 80%（前回 100%），「園芸農学科」が 78%（前回 85%），「分子生命科学科」が 75%（前回 82%）であった。多くの教員が，参加したＦＤ活動の教育改善効果を認めている。

しかし，「あまり役に立たなかった」と「全く役に立たなかった」という評価もあった（2 人）。次年度のアンケートには，その点に関する自由記述欄を設けることが望ましい。

設問 10. 担当科目において学生の授業時間外の学習を促すためにどのような工夫をしていますか。



図Ⅳ－９　学生に対する時間外学習の促進方法

学部全体では，「口頭での予習復習の呼びかけ」が 35%（前回 42%），「毎時間小試験をすることで復習を誘導する」が 21%（前回 13%），「小試験」・「課題を課す」が 30%（29%），「何もしていない」が 9%（前回 10%）であった。

このように，ほとんどの教員（86%）が時間外学習を促している。しかも「口頭」や「小試験」・「課題を課す」（合計 51%）という努力をしている教員が多い。「口頭」より「小試験」・「課題を課す」の方がより手間のかかることである。より手間をかけ時間外学習を促そうとしている点に，教員の努力が示されている。

「小試験」と「課題を課す」の合計を学科別に見ると，「分子生命科学科」が 75%，「園芸農学科」が 57%，「生物資源学科」が 56%，「地域環境工学科」が 50%，「生物学科」が 30%であった。「生物学科」も「口頭」を加えれば，70%になる。

その他

「生物学科」

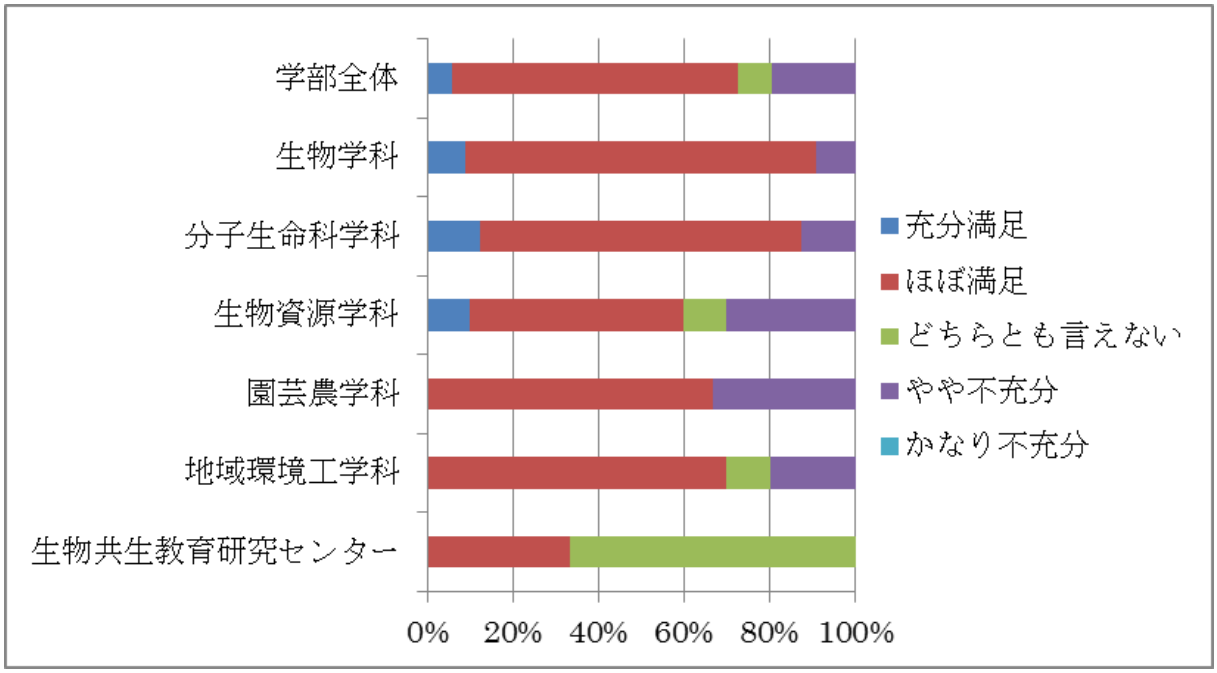
・関連図書の紹介・宣伝

「地域環境工学科」

・レポート提出　2-3 回程度

設問 11. ① 本学部の以下の施設と設備についてどのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。

1. 講義室



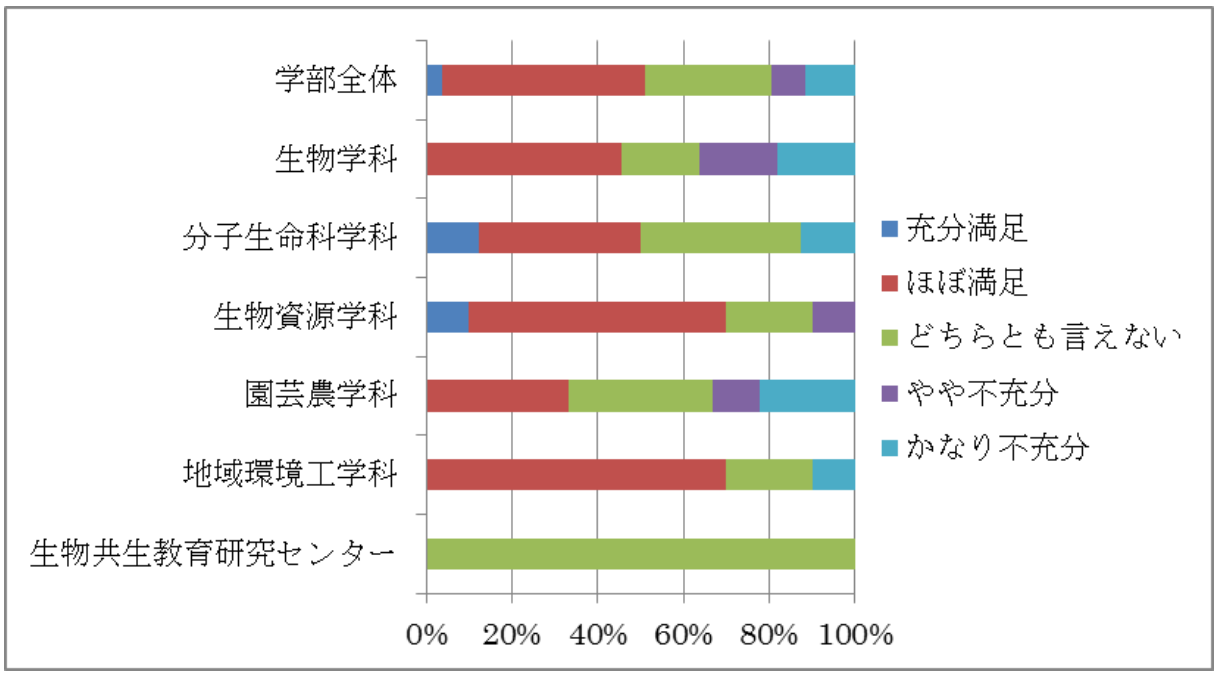
図Ⅳ-10(1)　講義室

学部全体では「充分満足」と「ほぼ満足」が 73%であり，多くの教員が満足している。「やや

不充分」が 20%，「かなり不充分」は皆無である。

「充分満足」と「ほぼ満足」を学科別に見ると，「生物学科」が 91%，「分子生命科学科」が 88%，「地域環境工学科」が 70%，「園芸農学科」が 67%，「生物資源学科」が 60%であった。「やや不充分」は「園芸農学科」と「生物資源学科」に各 3 件，「地域環境工学科」に 2 件，「分子生命科学科」と「生物学科」に各 1 件あった。不満の主な内容は，後述の自由記述欄」に記載されているが，「設置器機の不具合等」である。

2. 図書閲覧室

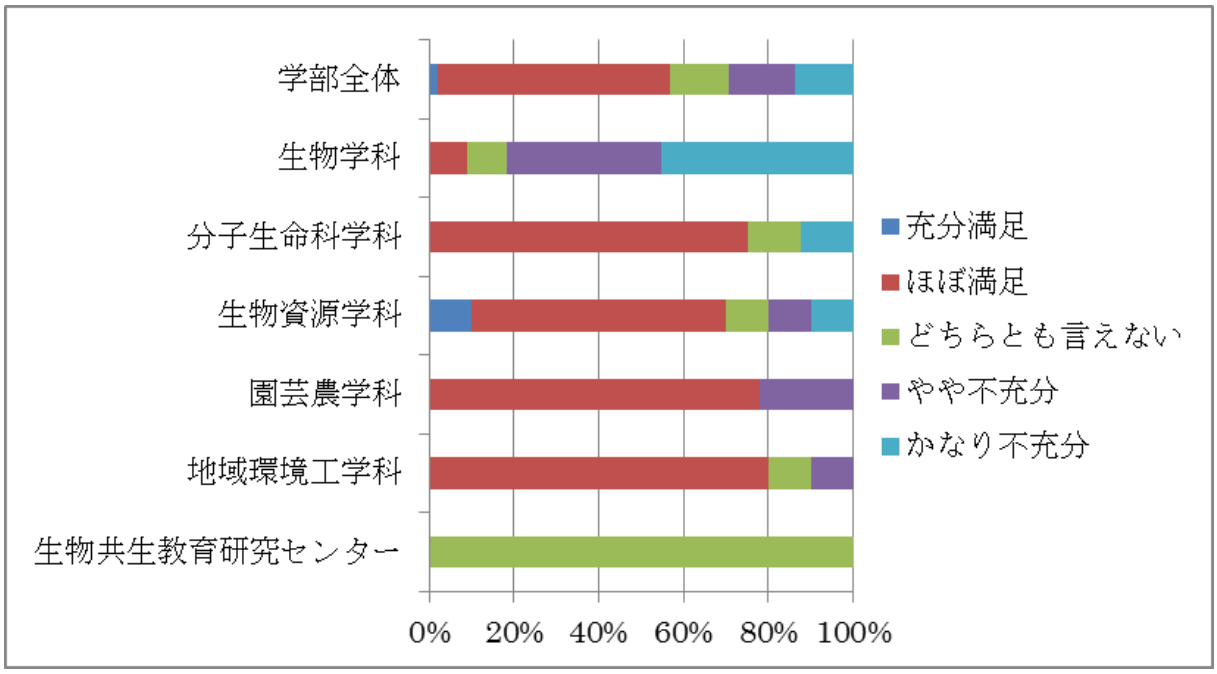


図Ⅳ-10(2)　図書閲覧室

学部全体では「充分満足」と「ほぼ満足」の合計が 51%（前回 78%）であり，「どちらとも言えない」が 29%（前回 15%），「かなり不充分」が 12%（前回 0%），「やや不充分」が 8%（前回 7%）である。このように，半数の教員が満足しておらず，その割合は前回よりも増加している。「充分満足」と「ほぼ満足」を学科別に見ると，「地域環境工学科」・「生物資源学科」が各 70%，「分子生命科学科」が 50%，「生物学科」が 45%，「園芸農学科」が 33%であった。

「かなり不充分」と「やや不充分」の合計は，「生物学科」が 36%（前回 0%），「園芸農学科」が 33%（前回 8%），「分子生命科学科」が 13%（前回%），「生物資源学科」が 10%（前回 11%），「地域環境工学科」が 10%（前回 11%）であった。不満の主な内容は，「書数が少ない」，「学生が気軽に手にとって読めるような本を増やして」，「充分なスペースとはいえない」等である。

3. 実験・実習室



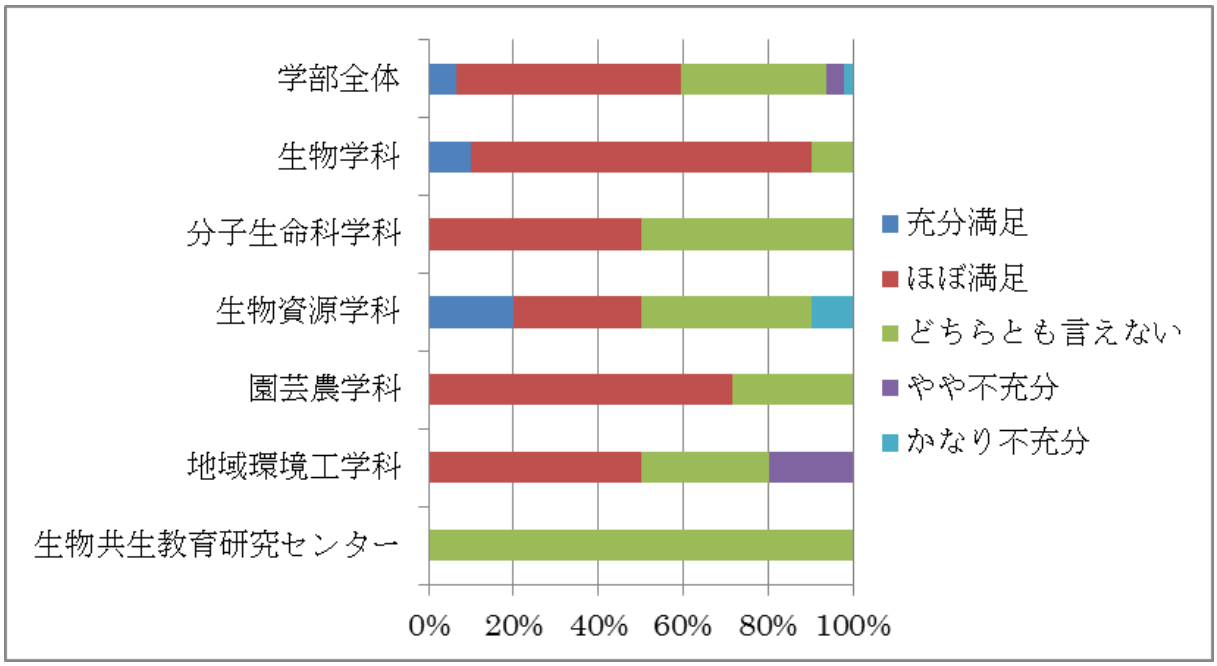
図Ⅳ-10(3)　実験・実習室

学部全体では「充分満足」と「ほぼ満足」の合計が 57%（前回 47%）であり，「どちらとも言えない」が 14%（前回 37%），「かなり不充分」と「やや不充分」の合計が 29%（前回 16%）である。このように，半数以上の教員が満足しているが，不十分と感じている教員は増えている。

学科別に見ると「充分満足」と「ほぼ満足」は「地域環境工学科」が 80%（前回 56%），「園芸農学科」が 78%（前回 31%），「分子生命科学科」が 75%（前回 64%），「生物資源学科」が 70%（前回 78%），「生物学科」が 9%（前回 25%）であった。

「かなり不充分」と「やや不充分」の合計は，「生物学科」82%（前回 0%），「園芸農学科」22%（前回 31%），「生物資源学科」20%（前回 13%），「地域環境工学科」が 10%（前回 0%），「分子生命科学科」が 0%（前回 18%）であった。このように，今回は，「生物学科」に不充分と考える教員割合が高く，「地域環境工学科」と「園芸農学科」に満足と考える教員割合が高く出ている。不満の主な内容は，「充分なスペースと言えない」，「ＰＣ機動に時間がかかりすぎる」等である。

4. 情報処理演習室



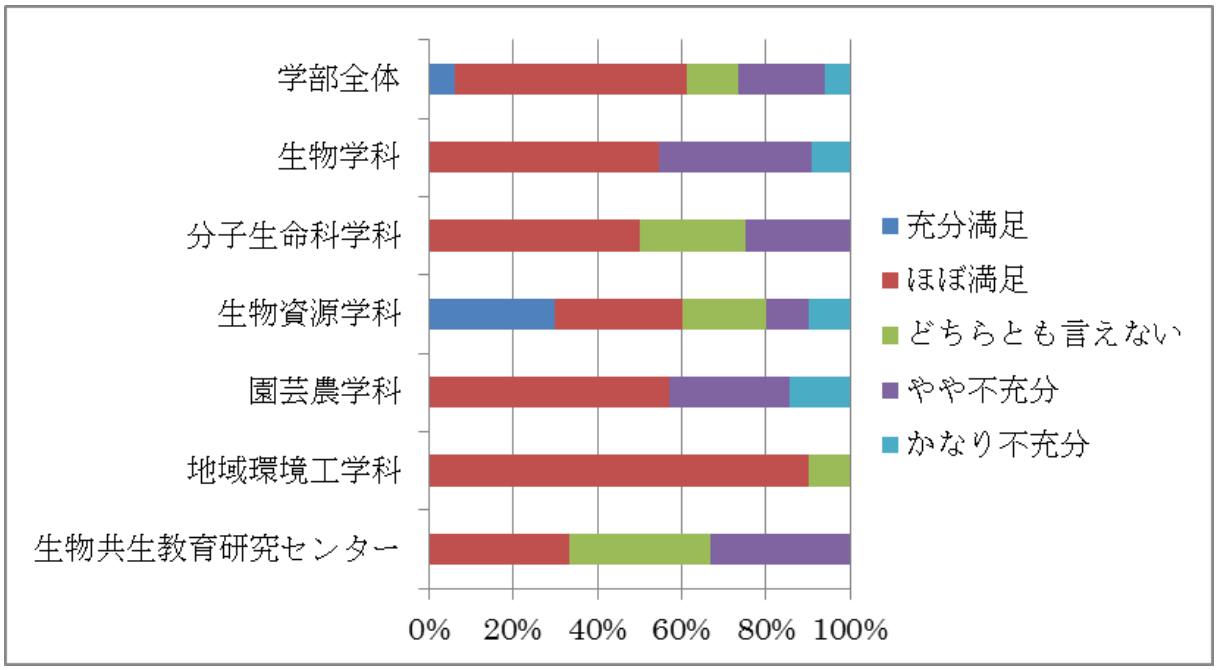
図Ⅳ-10(4)　情報処理演習室

学部全体では肯定的評価（「充分満足」と「ほぼ満足」）が 60%（前回 63%），「どちらとも言えない」が 34%（前回 31%），否定的評価（「かなり不充分」と「やや不充分」）が 6%（前回 6%）である。

学科別に「肯定的評価」を見ると，「生物学科」が 90%（前回 50%），「園芸農学科」が 71%（前回 82%），「生物資源学科」が 50%（前回 50%），「地域環境工学科」が 50%（前回 78%），「分子生命科学科」が 50%（前回 36%）である。

「否定的評価」は，「地域環境工学科」が 20%（前回 11%），「生物資源学科」が 10%（前回 13%）「園芸農学科」が 0%（前回 0%），「分子生命科学科が 0%（前回 9%），「生物学科」0%（前回 0%）であった。不満の主な内容は，「ＰＣ機動に時間がかかりすぎる」，「機種が古い」等であった。

5. 研究室



図Ⅳ-10(5)　研究室

学部全体では肯定的評価（「充分満足」と「ほぼ満足」）が 61%（前回 54%），「どちらとも言えない」が 12%（前回 21%），否定的評価（「かなり不充分」と「やや不充分」）が 27%（前回 25%）である。

学科別に「肯定的評価」を見ると，「地域環境工学科」が 90%（前回 67%），「生物資源学科」が 60%（前回 67%），「園芸農学科」が 57%（前回 67%），「生物学科」が 55%（前回 50%），「分子生命科学科」が 50%（前回 36%）である。

「否定的評価」は，「生物学科」が 45%（前回 38%），「園芸農学科」が 43%（前回 8%），「分子生命科学科」が 25%（前回 36%），「生物資源学科」が 20%（前回 22%），「地域環境工学科」が 0%（前回 22%）である。不満の主な内容は，「スペースがもっと必要である」，「教員間で部屋の面積に差がある」，「学生数に対して充分なスペースとは言えない」，「老朽化がひどい」等であった。

② 上記で「4. やや不充分」と「5. かなり不充分」を選択した場合，その理由を次の欄に具体的に書いて下さい。

「生物資源学科」

1　講義室のスクリーンと黒板を同時に使用できるようにすべき

1　講義室マイクが使えない。研究室　前任教員の設計のために学生部屋がない

3　スペース不足

1, 2, 3, 4　講義室 : PPT をみせるスクリーンが必要で，黒板をフリーにする必要があり，TV 画面のみで行っているが，やや小さい。図書は必要な物を中心に希望する物をおけば，空きスペースを活用して，机をもっと入れられる

スペースが狭い（「4. やや不十分」と「5. かなり不十分」の項目を選択していないが，記述してきた）

「園芸農学科」

5　スペースがもっと必要である

1, 2, 5　講義室：大学院用の小さめの部屋が少ない。キャリアーのついたホワイトボードを設置してほしい。　図書室：書教が少ない学生が気軽に手にとって読めるような本を増やしてほしい。　研究室：教員間で，部屋の面積に差があるため

2, 3, 5　学生数に対して充分なスペースとはいえないと考えられるため

「地域環境工学科」

1　プロジェクターで青が映らない（331）

3, 4　PC 起動に時間がかかりすぎる

1　プロジェクターで青が映らない（331）

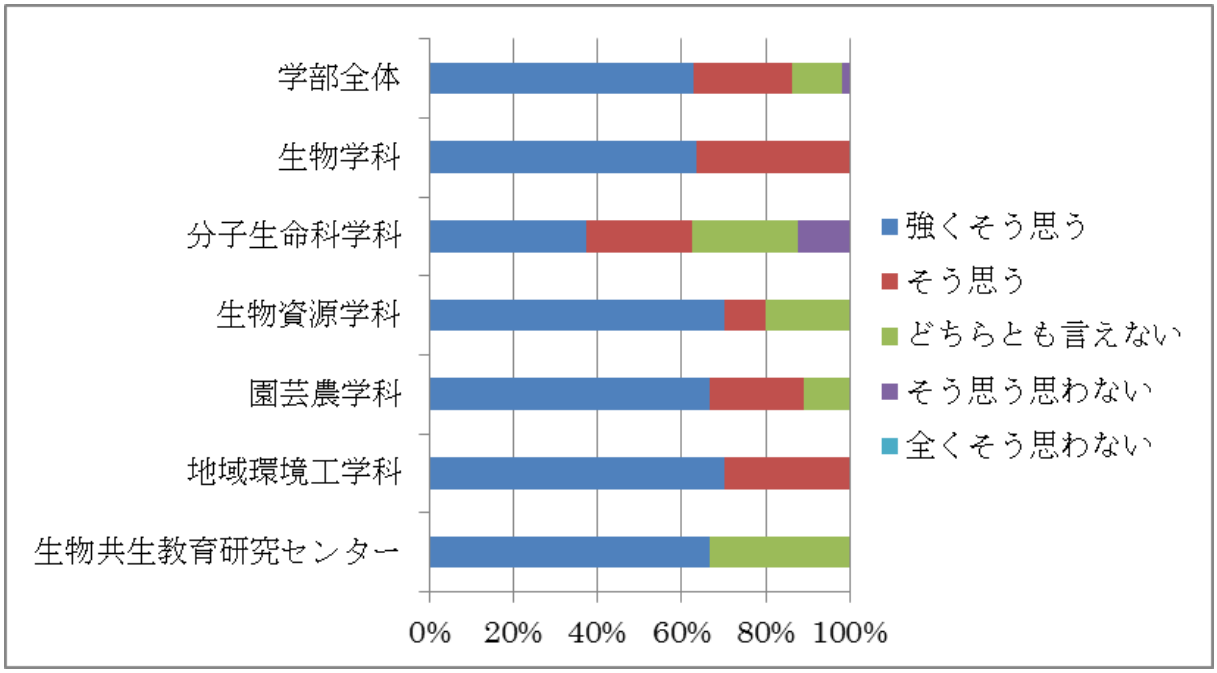
2, 4　本が少ない。機種が古い

「生物共生教育研究センター」

5　老朽化がひどい

設問 12.　①　卒業研究は必要であると思いますか。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない　5. 全くそう思わない



図Ⅳ-11　卒業研究の必要性

学部全体で，肯定的評価（「強くそう思う」と「そう思う」の合計）が 86%（前回 90%），「どちらとも言えない」が 12%（前回 2%），否定的評価（「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計）が 2%（前回 7%）である。多くの教員が，卒業研究は必要であると考えている。

学科別に見ると，肯定的評価は，「地域環境工学科」が 100%（前回 100%），「生物学科」が 100%

（前回 100%），「園芸農学科」が 89%（前回 92%），「生物資源学科」が 80%（前回 67%），「分子生命科学科」が 63%（前回 100%）であった。

否定的評価（「そう思わない」のみ）は，「分子生命科学科」（13%）に見られた。前回は，「園芸農学科」（「そう思わない」8%）と「生物資源学科」（「そう思わない」・「全くそう思わない」22%）の二学科に見られた。

② 上記のように回答した理由を下欄に分りやすく記入して下さい。

［生物学科］

1　自発的学習により本当の学力（計画性，考える力，文章表現，プレゼン力）が身に付く

2　社会に出る，進学するにせよ卒業研究を通して 1 つのことを自主的に行うことは，学生生活上大変重要である。理系・実験系では普通であり，当たり前のレベルである

2　必ずしも学生さんの職業を選択する場合の役に立たないかもしれないが，研究室での経験は重要だと思うから

1　自分の実施してきたことを文章にしたり，報告することは社会に出てからも必要不可欠であるため，卒業研究と卒業論文の作成は必要

1　学生の教育には，何か自分でやりとげるものが必要である。座学のみでいいはずがない。

1　多くが進学しない現状では，教育目標目的を達成するのに必要不可欠であると思う。卒業研究が一番学生を伸ばしていると思う

1　社会に出る前に，研究室というモザイクな人間関係の中で 1 つの目標に向かって仕事を進めるという作業は，研究関係の職にかぎらず，重要なプロセスであると考えている

2　自分だけのテーマを持って自主的に取り組むことは大事。学生自身からもおおむね評価されている

［生物資源学科］

2　問題解決能力，協調性力などを身につける絶好の機会では

1　卒業研究がなければ専門学校と同じことになる。学生も本業である実験研究をおろそかにする恐れがある

1　卒業研究を通して考える力，問題を発見する力，プレゼンテーション能力などを密に指導することができる講義内容を能動的に理解できる
ため

1　卒研も教育にふくまれる

1　講義内容を能動的に理解できる

3　全く意欲のない学生には必要ないと考える

1　課題採求型でアクティブラーニング，プレゼンテーション能力，資料収集能力などが育成され，論理的に考慮し，それを文章に表現するトレーニング法として優れているから

［園芸農学科］

1　研究に取り組むことで，考える力，遂行する力及びまとめる力をつけることができるから

1　卒業研究以外に，学生が切実をもって取り組むものがあまりない

1　大学教育に求められる内容を体系的に実行することになるので，教育効果が高い

2　力をつけて伸びる学生は確かに存在するため，可能性を信じることが教育であると常日頃思ってい

るので

1　人材育成の一環として，欠かせない教育内容と思う

［地域環境工学科］

2　学習したのことの総合的なまとめになるから

1　総合的な学習，自ら計画・実施をし，その結果をプレゼンテーションすることは，社会人の活動につながる実践的学習である

1　学生主体で初めて取り組む一大イベントであるから

1　4 年間の勉学の集大成

1　学習の集大成　デザイン能力の育成

1　面接時にも聞かれるのでは？

2　卒業研究は，科学的な考え方やデータ整理の方法，プレゼン技術など今後社会に出てからも必要な力を身につける良い機会になると考えている

2　自分でまとめる能力を養成できるため

「生物共生教育研究センター」

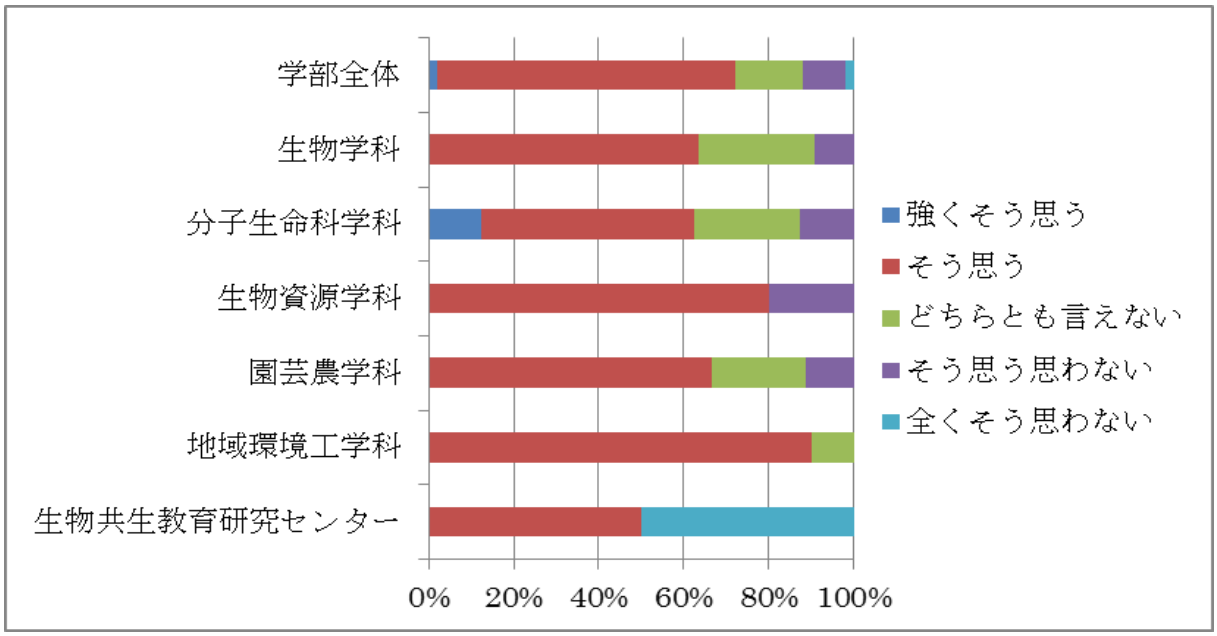
3　その内容は学生の将来に役立つか懐疑です

1　研究をやりとげる経験が必要

1　卒業研究を通じて学生が成長するのを実感できる。私学より少人数教育であるメリットを生かすためにもぜひ必要

設問 13 ① あなたの学科の大多数の卒業生は，本学部での教育により大学卒業生としての知識と学力を身に付けたと思いますか。

1．強くそう思う　2．そう思う　3．どちらとも言えない　4．そう思わない
5．全くそう思わない



図Ⅳ-12(1)　学部卒業生の知識と学力の修得

学部全体では,肯定的評価（「強くそう思う」と「そう思う」）が 72%（前回 57%),「どちらとも言えない」が 16%（前回 31%),否定的評価（「全くそう思わない」と「そう思わない」）が 12%（前回 11%）であった。多くの教員が,「卒業生は知識と学力を身に付けた」と考えている。

学科別に肯定的評価を見ると,「地域環境工学科」が 90%（前回 89%),「生物資源学科」が 80%（前回 33%),「園芸農学科」が 67%（前回 46%),「生物学科」が 64%（前回 13%),「分子生命科学科」が 63%（前回 55%）であった。

否定的評価（「全くそうは思わない」と「そう思わない」）は,「生物資源学科」が 20%（前回 33%),「分子生命科学科」が 13%（前回 0%),「園芸農学科」が 11%（前回 8%),「生物学科」が 1%（前回 13%),「地域環境工学科」が 0%（前回 0%）であった。

② 上記で「4.そう思わない」と「5.全くそう思わない」を選択した場合，その理由は何ですか。以下の中から選んで下さい。

1. 学生に意欲が無い　2. 学生の基礎学力不足　3. 講義内容が高度過ぎた
4. 教員に問題　5. その他（　　）

表Ⅳ-2　身についていない理由

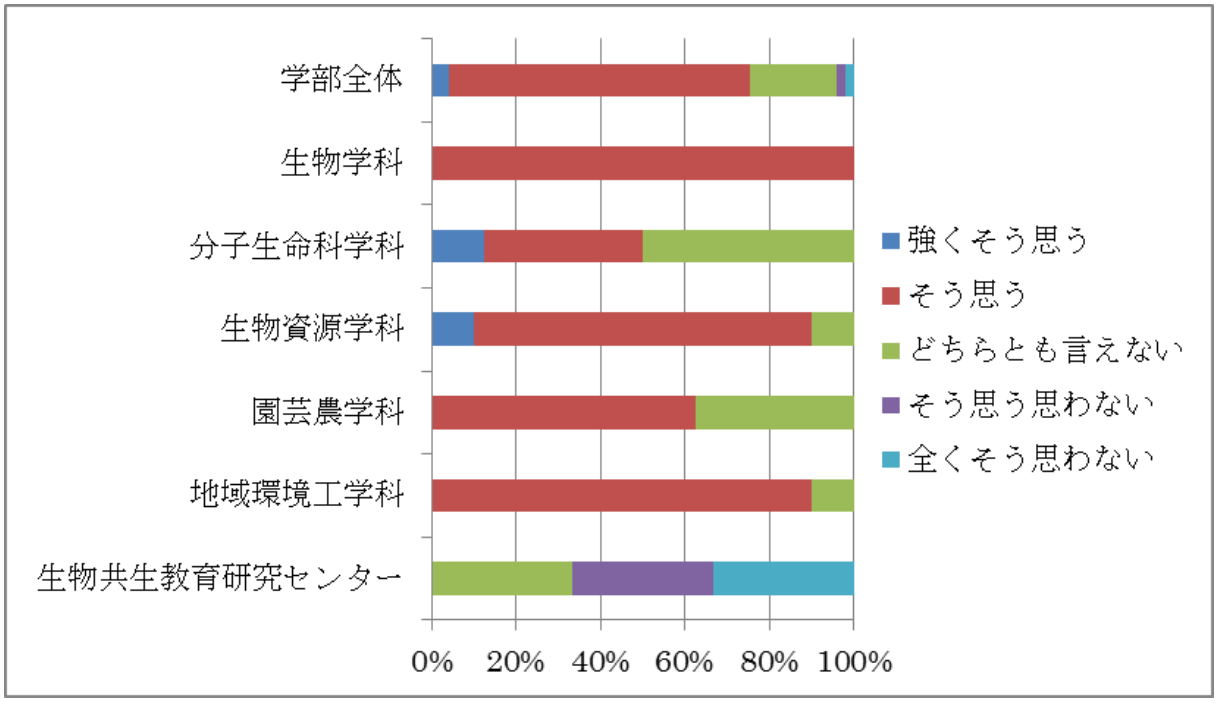
理　由	回答数（学科）
学生に意欲がない	1（生物資源学科）
学生の基礎学力不足	2（生物資源学科,分子生命科学科）
講義内容が高度過ぎた	0
教員に問題	0
その他	2（園芸農学科）

「学生の基礎学力不足」を指摘する回答が 2 件,「学生の意欲がない」という回答が 1 件あった。教員側の問題（「講義内容が高度過ぎた」,「教員に問題」）を指摘する教員はいなかった。その他は,「カリキュラムに問題」,「本人の自覚，それを促す教員の能力不足」（以上,園芸農学科）。

設問 14(①　あなたの学科の大多数の修了生は，本研究科での教育により大学院修了程度の専門知識を身に付けたと思いますか。

１．強くそう思う　２．そう思う　３．どちらとも言えない　４．そう思わない

５．全くそう思わない



図Ⅳ-13(1)　修士修了生の専門知識の修得

研究科全体では，肯定的評価（「そう思う」のみ，「強くそう思う」は皆無）が 74%（前回 57%），「どちらとも言えない」が 21%（前回 31%），否定的評価（「全くそう思わない」と「そう思わない」）が 4%（前回 4%）であった。多くの教員（74%）が，大学院修了生は「専門知識を身に付けた」と見ている。

肯定的評価を学科別に見ると，「生物学科」が 100%（前回 75%），「地域環境工学科」が 90%（前回 89%），「生物資源学科」が 89%（前回 78%），「園芸農学科」が 63%（前回 42%），「分子生命科学科」が 47%（前回 55%）であった。

② 上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合，その理由は何ですか．以下の中から選んで下さい。

１．学生に意欲が無い　２．学生の基礎学力不足　３．講義内容が高度過ぎた

４．教員に問題　５．その他（　　）

回答者はいなかった。

Ⅴ．アンケート調査結果に対する各学科の見解

生物学科

今年度は，学科の教育理念を分からない学生の割合は40%を超えているが，学科のカリキュラムが教育目標に合致していると回答した学生は80%近くに上り，また，学科で受けた専門教育に対する満足度（「強くそう思う」,「そう思う」を合わせた数字）も70%を超えていることから，学科のカリキュラムは概ね受け入れられていると評価できる。自由回答欄には，授業間の連携があまりとれていないという記述もあり，カリキュラム体系の中で授業間のつながりをどう作っていくかは今後の検討課題の一つと考えられる。学科教員の指導や対応にも80%近くの学生が満足としており，否定的な評価もなく，現状では問題ないと言える。印象に残った授業の中では，生態学野外実験や臨海実習をあげた学生が多く，宿泊実習の形態が学生のよい評価となっていることがうかがえる。施設については，実験室の不満を訴えた学生の割合が5学科間で最も高かった。これは毎年の傾向であり，学科実験室の狭さと顕微鏡が人数分揃っていないことに対する不満である。実験室の面積を変えることは難しいが，顕微鏡については今後改善を図る必要がある。卒業研究に対して満足と答えた学生が100%と5学科で最も高く，学生からの評価は高かった。昨年度の卒業研究の満足度も90%を超え。5学科で最も高い満足度であり，生物学科の卒業研究指導に対する評価は概ねよいと言える。早急に改善される点では，「学生に対する教員の指導」が5学科中も低いのに対して，「研究・教育設備」が5学科中最高となっている。生物学科の学生は教員指導というソフト面では概ね満足しているが，実験室と設備を中心としたハード面の充実を求めていることが見て取れる。総合的な満足度に対する質問に80%を超える学生が「強くそう思う」,「そう思う」と回答し，多くの学生の学科に対する総体的な評価はおおむね良好である。

大学院は，コースごとの集計がなく，自由意見から問題点を判断すると以下の点が上げられる。カリキュラムの問題が最も頻繁に取り上げられており，具体的には，修士 2 年後期の修士論文作成時にプレゼンテーション演習 II が組み込まれたことに多くの不満の意見があった。この点は，現在修正され，プレゼンテーション演習 II が 1 年後期に移されたので問題は解消された。また，副専攻科目の種類が少なく学びたい科目が少ないという記述もあり，副専攻科目についても今後見直す必要がある。研究指導等では特に不満の意見はなく，学生指導に大きな問題はないと言える。

分子生命科学科

当学科のアンケート回答率(64%)は昨年度を上回ったものの、学部平均をやや下回った。回収率の向上にさらなる努力が必要である。アンケート用紙の配布と回収などを徹底させる必要がある。

本学部の教育理念，教育目的および教育目標および、アドミッションポリシーを知っている学生は例年に比べて低かった。入学ガイダンス時の説明を強化する必要があると思われる。ただし、入学後に忘れてしまうのであれば、それはそれで仕方がないことかもしれない。学科のカリキュラムについては 7 割程度が「教育目標に合致している」と回答した。昨年度と比べると 1 割ほどアップしている。理解してもらえているのであれば、うれしいことである。シラバスについては、例年同様、肯定的な意見が多い。学科で受けた専門教育については 7 割弱程度の学生が満足している。例年通り、といったところである。個別意見として否定的な意見は見られなかった。

一方、講義・実習・演習などにおける学科教員の指導や対応について、学部の中で最も低い満

足率となっている。例年通りであるが、減少傾向にあるのが気になるところである。極端に否定的な意見はないが、「教員による」とする意見が複数あった。成績に疑義のある学生は若干増えているが、その件で問い合わせをした学生はいなかった。

学生の勉強時間については、例年に比べて減少している。具体的には、「１時間未満」と答えた学生が一昨年度と昨年度は 50%強だったのに対して、今年度は 70%弱に急増していた。経年変化を長期的に観察することが必要と思われるが、学習時間が減少傾向にあることが疑われる。近年の留年生の増加との関係が気になるところである。原因を考えるにあたっては、「学習以外の何に時間を費やしているのか」という調査が必要ではないかと感じる。学費のためにアルバイトをしなければならない学生が増加していることは、悪化しつつある昨今の経済状況から容易に予想されることである。

研究室の設備については、他学科と比較して突出して満足度が低い。他学科に比べて、実験室内での滞在時間が多いということが原因の一つと推測される。実験室内での滞在時間が多いと、一人当たりのスペースも狭く感じられるのは当然であろう。また、他学科に比べて実験に高額な機器が必要であるということも原因の一つと推測される。これに対して、実験・実習室の満足度は高い。また、例年同様、講義室等の冷暖房の強化を求める声が多い。節電に対しての理解を訴える必要性を感じる。

卒業研究を行ったことに対する満足度は昨年度と比較してわずかに上昇したものと、他学科と比べる低い。個別意見としては、前向きな意見が大半であったが、僅かに後ろ向きの意見も見られた。本学部のカリキュラムで学んだことが進路にどのように影響したかについては、役に立ったという回答がおよそ５割であった。他学科と比べると相変わらず低いものの、ここのところ上昇傾向にある。他学科と比べて分子生命科学科が低いのは、基礎系のカリキュラムが多いことから当然の結果といえる。特に基礎系のカリキュラムにおいては、時間がたたないとその価値が理解されないことが多い。一方、進路支援に対する満足度が学部内で最低レベルである事は、例年通りである。基礎系の教員と地元企業とのつながりが希薄であることが一つの要因となっているものと考えられる。

大学卒業者にふさわしい教養および専門知識を身につけたと感じている学生の割合は４割強で、昨年度と変わらなかった。この割合は、自分自身に厳しくなると低くなる性質のものである。本人がどう感じているかにかかわらず、そうあって欲しいと願う。

大学院修了生からのアンケートでは、コース（学科）の意見が反映される箇所は個別意見に限られる。当たり障りのない意見が多い中で、プレゼンテーション演習に対する意見、特に否定的な意見が多いことが目立った。

生物資源学科

学科学生に対するアンケートでは教育目標に対する認知度は例年に比べ上昇が見られ、学部平均とほぼ同じであった。一方、アドミッションポリシーについては昨年と同様、認知度は低かった。認知度を向上させるため、今後ガイダンス等において学生の記憶に残るような提示の仕方を検討する必要がある。

学科の専門科目の満足度、および教員の講義・実習・演習などにおける学生への指導や対応についての満足度は学部平均とほぼ同じであったものの、いずれも否定的な意見が本学科のみに多く見られた。具体的な意見を見ても大きな否定的意見は直接見られず、満足度は「教員によって

異なる」ようである。卒業にあたり大学卒業者として知識や学力を身につけたかについて、本学科は「強くそう思う」と「そう思う」の合計が 40%であり、学部内で最も低かった。

履修した科目の成績評価への疑問については、他学科に比べてかなり低く、実際に問い合わせをした者はいなかった。

講義や演習に対する予習、復習にあてた時間については学部平均とほぼ同じ傾向である。

学業についての相談・苦情について、本学科では「クラス担任と面談」が学部内で最も低く、今後はより積極的なクラス担任の対応が望まれる。

学部図書室については図書室自体の利用よりも自習室としての利用が大きいと考えられる。講義室、実験・実習室、情報処理実習室の設備について本学科では満足度は高い。とくに研究室の設備については学部中最も高い満足度であった。これらの各施設に対する要望を見ると図書室の書籍について「カリキュラムに沿った書籍がほしい」というもっともな意見がある。学部図書室の今後のあり方について討議すべきだと思われる。あと「廊下が暗くて危ない」という点は早急な対応が望まれる。節電も重要かもしれないが安全のためには多少の電気使用は必要である。

卒業研究の満足度については「強くそう思う」と「そう思う」が 90%近くを占めることが出来た。ただ、「そう思わない」も数%あることからその解消に向けて今後検討する必要がある。

卒業の進路先について、本学科では「専門関連の企業」に就職した学生の割合が地域環境工学科に次いで高い反面、「専門とは関連しない企業」に就職した学生の割合は学部で最も高い。大学院進学者の割合が 32%しかなく、専門関連の企業に学生をより多く就職させるにはさらに多くの学生に大学院進学を考えてもらえるよう、より力を入れる必要がある。

総合的な満足度については学部平均とほぼ同じであった。また、最も早急に改善すべき点として、「教育・研究設備」があげられた。これは昨年度も同じであり、実験環境に学生が不満を抱いていることがうかがえる。就職支援については昨年度とは異なり、それをあげている学生はいなかった。これについては就職支援体制の整備充実によるものと推測できる。

園芸農学科

学部学生に対するアンケートの当学科の回収率をみると、昨年度は 5 学科中最高の 70%であったが、今年度は 5 学科中最低の 51%となった。同様に，大学院学生に対するアンケートの回収率も 40%と最低であった。低回収率が、アンケートに対する期待感の低さ、あるいは卒業・修了に対する喜びや達成感の低さを反映したものだとすると深刻に受け止めるべきことであり、アンケートの内容や実施方法の検討にとどまらず、学科の提供している教育内容についても真摯な検討が必要なものと思われる。

学科の教育目標やカリキュラムについて、否定的な意見はないものの肯定的な意見も 6 割程度に留まった。自然科学系から社会科学系をカバーする当学科の特徴を反映したものと思われるが、「多様な分野を学べる」、「選択科目の自由度が高い」といった肯定的な意見がある一方で、「たくさん受けられるが、身についていない」といった状況を指摘する声が寄せられた。この事との関連が危惧される調査結果として、大学卒業者としての知識・学力を身につけることが出来たかとの問いに対して、30%以上もの卒業生が「そう思わない」と回答している。幅広い分野を学ぶ事が可能な本学科の利点が活かしきれずに、学修内容が散漫になってしまっているとしたら、検討・改善の必要があると思われる。

昨年度の調査結果とは異なり、ガイダンスおよびシラバスに対する否定的な意見がみられた。

各教員および事務部門とが一体となって、シラバスの記載漏れ等が生じないように、学生への十分な情報提供に配慮する必要があろう。教員の指導についてはおおむね肯定的な評価が得られているものの、講義や卒業研究等の指導を含めて、教員による対応の違いを指摘する声が少なくなかった。専門分野が異なり、扱う対象も異なることから、研究室配属後の教育については各教員の主体性にまかせられてきたが、卒業研究の内容などについても一定の水準を確保するべく学科の教員間で議論する必要がありそうである。成績評価に対する疑義を抱いたとする者の割合も 4 割を超えており、この点についても学科の教員間での調整が必要と考えられる。

例年高い評価を得てきた大学院学生に対する指導に対する評価について、否定的な意見が寄せられている。少ない修了学生の中でアンケートに回答した学生数も少なく、全体を代表する客観的な評価とは考えにくいが、今後とも学生の回答・評価を注視したい。

地域環境工学科

このアンケート調査は学部卒業､修士修了間際に行ったものであり､それぞれ学部での 4 年間、修士での 2 年間における学生の総合的な意見集約のように思われるが、その真意に迫るには目的に沿った質問項目と回収率が重要となる。質問項目は以前からのデータと比較する上で一定期間固定することに異論はないが、回収率はここ 3 年間 63~70%であり、必ずしも高い回収率だとは言えない。早い段階での卒研指導教員からのさらなる指導が必要である。

アンケート回収率､学部･学科の教育目標等の認識についての設問ではいずれも認知度が高い。この傾向はここ数年続いているが、これは各年度初めのガイダンスで「ガイダンス資料」と「学びの手引き」－入学年次毎に 4 年間の学科における教育システムを概説した冊子－を配布・説明を行っていることが大きく影響しているものと思われる｡学科の教育目標とカリキュラムの合致、ガイダンスの内容に関しては、否定的な意見が全くなかった。専門教育や教員の指導に対する評価も 80%以上と高く、成績評価に対する疑問もほとんどないが、約 10%程度の学生は何らかの疑問や疑義を持っており、これを解消するシステムの再点検が必要である。学生の主体的学習に関しては、予習・復習にあてる時間が他学科に比べやや多く、1 日当たり 1 時間以上の割合が 6 割に近い数字となっていた。記述式でも意欲的に取り組んだ様子が認められ、特に実験・実習（学外実習を含む）での自主的活動やグループでの積極的な活動が認められた。学生が持っている疑問や相談事に関しては、他学科と大きく異なり、指導教員やクラス担任との面談・オフィスアワー（シラバスや各教員研究室前のドア近傍に掲示）を利用した学生が 7 割以上であった。卒業研究に対する満足度は 8 割を超えているが、他学科に比較するとそれほど高い数値ではない。昨年度より 3 年生前期終了時点（学外実習に出る前）で各教員より卒研テーマを提示して、研究室所属前に興味が持てそうな「教員との面談」を指導しているが、さらに学生が興味を持てるテーマでの卒業研究ができるシステムの構築を必要とする。本学部の教育の在り方、学生の満足度に関してはおよそ 9 割の学生が肯定的評価をしており、進路支援に関しても 9 割以上の学生が肯定的で、学部平均の 33%を大きく上回っている。

この結果は、地域環境工学科で行っているガイダンス、基礎ゼミ、クラス担任との年 2 回以上の面談の他に、学びの記録（個人カルテ：学生が自主的に作成）やオフィスアワーの積極的活用など、双方向からの意見交換の機会を持っていることが大きく影響している。

大学院に関しては他学科に比べ進学者が少なく、アンケートに対する学科としての評価は適切でないが、ここ数年の学科学生の就職率がほぼ 100%で、学科の専門性を生かした分野で活躍して

いる。しかし、学科としては大学院進学者の確保対策が急務である。

教員に関する調査では授業実施回数が 15 回以上、休講した場合はその分の補講が 9 割以上行っている。これは学科内教育改善の一環として行っている教員個々の教育改善自己評価表の作成に休講した場合の処置を記入する欄があり、教員相互の評価に大きく影響する。

本学部の施設などに関しては、約２割の教員がやや不十分と答えているが、ここ 2 年間で他大学等などから新たに着任された教員の素直な感想だと思われる。その内容は実験・実習室より「情報処理演習室」などへの不満があるようだ。

Ⅵ．教育改善委員会（平成２５年度教育改善にむけたアンケート調査についての意見）

学部卒業時・研究科修了時学生対象教育評価アンケートについて

（１）学部・研究科の教育理念，教育目的，教育目標，学科の教育目標，アドミッションポリシーについて

学部の教育理念，教育目的，教育目標の認知度は，学科により４割強～７割強と大きな開きが生じているが，学部全体では５割強で昨年度と大きな変化はなかった。学科の教育目標の認知度は，学部全体では５割強と昨年度と比べて約１割上昇し６割であった。学科による差は昨年度より小さくなった。アドミッションポリシーの認知度は，昨年度は学科の差が大きかったが，今年度は学科による差はあまり見られなく，学部全体では４割弱であった。学科の教育目標とカリキュラムは，学科によって６割弱～９割強と大きな開きがあるが，学部全体では７割弱が合致していると回答している。認知度および評価の低かった学科においては，入学時教育やガイダンス時における教育理念，目的，目標，アドミッションポリシー等を十分に説明することが求められる。

研究科では，教育目的および目標の認知度は昨年度の７割弱から本年度は８割弱と約１割上昇した。アドミッションポリシーの概要は昨年度とほぼ同じ７割弱で，学生の受け入れ方針についての認知度は昨年度の５割弱から６割強に上昇し，大学院説明会等の活動が成果をあげているものと思われる。

（２） ガイダンス，シラバス，専門教育に対する満足度について

ガイダンスの内容は，学部全体で昨年度の７割弱から約６割に低下しているが，学科によって５割弱～９割強と大きな差がある。ガイダンスにおける説明には，工夫が必要と考えられる。シラバスの有用性に関しては，学部全体のほぼ８割強で肯定的な回答が得られている。学科別に見ても肯定的な回答が低い学科でも７割を超えている。研究科おいても，昨年度の９割弱から約８割弱と約１割低下している。シラバスと講義内容に整合性に若干の差が生じていると思われる。改善の徹底によって内容が充実し，学生の科目選択に有効に機能するように努める必要があると考えられる。

専門教育に対する満足度は，学科による開きは６割強～８割強であるが，学部全体で８割弱と昨年度とほぼ同じであった。学科の教育目標とアドミッションポリシーの整合性の向上が現れていると考えられる。研究科においては，満足度が４割弱と昨年度の６割から大幅に低下し，改善が求められる。

（３） 教員の指導や対応に関して

教員の指導や対応に対する評価は肯定的な意見が７割弱であり，昨年度とほぼ同じであった。学科間の差も昨年度と同様，４割から９割弱まで大きな差が見られた。学生のコメント等では例年通り教員の対応を評価する意見と批判する意見が見られ，学科によっても大きく異なっていた。その一方で，教員による対応の差や対応の不足などを指摘する意見もあり，学部あるいは学科でのＦＤ活動を通して継続的な検討が必要と思われる。

（４）成績評価について

平成２５年度の成績評価に対し疑問や異議を持つ学生の割合は３２%と昨年度に比べて７%上昇した。学生が教員や教務へ問合せをしたことにより疑議が解決した（例えば，教員の入力ミス等により単位取得）という例もあり，教員にも問題があり十分に注意する必要がある。しかし，成績評価に疑問を持つ学生の大半が問合せをしなかったり，問合せの方法を知らない学生も多くいた。成績評価に対する学生の疑議を解消ためには，対処の具体的な手続きを学生に十分な周知とそれに対する教員側の対応が必要である。

（５）講義への取り組みに関して

１日の学習時間についての質問項目では，年により若干の差はあるが，これまでと同様，学生が授業等のための学習（予習と復習）にあまり時間を費やしていないことが示された。もし，学生が１日に２科目受講するなら，予習だけで３時間，復習で３時間，計６時間は学習時間に費やされる。これが毎日でないとしても，学習時間は最低でも３～４時間とになる。予習・復習を含めた授業に対する学生の意識改革を促すとともに，学生の学習意欲の向上策を指導していくことが教員に求められる。

実験・実習に対してかなり批判的な意見（一部である）もあったが，全体的には学生の積極的な姿勢が強く感じられた。学科を問わずグループでの取組みやチームワークの重要性に関するコメントが数多く見ら，仲間との共同作業が上手く作用していると思われる。このような学習の仕組みが専門教育に対する学生の意識向上と主体的な学習意識の醸成に良い結果をもたらしている。実験・実習と講義の連動性が学生の主体的な学習意欲の形成のきっかけとなる可能性がある。

（６）施設等に関して

アンケート調査からは，図書室の利用割合も今年度は５割程度に留まっているが，インターネット使用による論文等のダウンロードは数字に表れておらず，それを加味すると利用度は増加すると推察される。開館時間に対する不満も増加傾向を示している点は検討の余地があると思われる。

施設に対する学生の要望の多くは冷暖房に関するものであったが，実験・実習室および情報処理演習室についての満足度は６～８割程度であった。講義室の満足度も６割程度と昨年より若干上昇した。また実験室や廊下の照明に関する指摘については安全衛生に直結する問題であり内容を詳細に検討する必要がある。設備の新設や更新などすぐに対応が難しいハード面の対応以外に講義時間の配置などソフト面の工夫も検討可能ではないかと思われる。

（７）卒業論文研究・修士論文研究ついて

卒業論文研究及び修士論文研究に対する学生評価は８割以上が肯定的で，この数年評価は上昇してきた。１つの課題テーマについて主体的に取組んで貴重な体験をしたことにより満足感を得たのであろう。しかし，一部の学生は否定的な意見を述べているが，これはカリキュラム上の「卒業論文研究」と「修士論文研究」に対するものではなく個人的感情によるものが多い。これは教員の指導努力で解決するものと思われる。また，ほとんどの教員は卒業研究の必要性を肯定する

と回答している。本年度も卒業論文研究及び修士論文研究に対して学生が高く評価しており，学部及び研究科での教育におけるこれらの研究科目は，講義による知識の修得だけではなく，課題に対して実験や演習を通して総合的な問題解決能力を育成する上で有効であるとの認識が認められた。

（８）学部・研究科の教育のあり方について

例年通り，約半数の学生は，概ね卒業生あるいは修了生としてふさわしい教養と専門知識を身につけたと回答している一方で，知識不足と認識している学生も多い。早い段階からの専門知識の重要性・有用性を説明するなどの学習意欲の醸成に向けた対応が必要であると考えられた。教育・研究への取り組みに対して，学部及び研究科において，８割以上の学生が満足している。しかし，まだ改善を要するものもある。例えば，指導方法や授業方法，教育研究設備，経済支援制度，成績評価の方法など。今後も，学部・研究科の教員が一体となって検討し，向上を図っていく必要がある。

教員対象授業アンケートについて

（１）授業の実施方法について

学部の授業科目において、授業の実施回数は16回（試験日を含めて）であるが，ほとんどの教員は全回実施した。休講した場合でも，補講の実施や課題（レポート提出）等の措置を取っていた。大学院での授業では，16回全部実施したのは昨年の４３％から７７％に増加し，大分改善されてきた。しかし，学部よりも低く，また休講した場合の代償措置もあまり実施されておらず，教員は大学院生が学部学生よりも自己学習をすべるべきと考えているのかもしれないが，今後この点に関しても検討・改善する必要がある。

（２）授業内容とシラバスとの一致について

学部での授業内容は，学科により差はあるが「シラバスの内容に一致」または「シラバスに即した内容」がほとんどで，「シラバス内容にとらわれない」が昨年１割あったが、今年度はゼロであった。シラバス内容の記載変更については，昨年と同じ６０％，授業内容を良くするために一部変更が35％で，大幅変更は５％であった。シラバスが学生の受講・教育に有効であることから，教員は授業内容の改善に努めていることが見受けられる。また，自然科学の進歩に伴い，新しい内容を導入したなどの積極的な改善努力している教員もおり，シラバスの内容変更が教育効果の向上にどの程度寄与しているか，今後，継続的に観察する必要がある。

教員対象教育評価アンケートについて

（１）カリキュラムやシラバスが学科・専攻コースなどの教育目標に合致しているか

カリキュラムに関しては，学科により異なるが，全体としては過去３年，約８割の教員が学科・専攻コースの教育目標に対して肯定的に回答した。今年度もシラバスと授業内容の一致性については，約８割の教員が肯定的に回答している。シラバスと異なることを極力避けながらも、より

良い授業を提供するためにある程度異なっても構わないとし，授業効果を重視している。一方，シラバスの内容変更に関しては，昨年度と同様９割を超える教員は「学生に説明するべき」と考えており，シラバスの重要性を強く認識している。

（２）「学生による授業評価」の捉え方について

「学生による授業評価」についての教員の捉え方は学科により大きく異なっているが，全体としては学生の評価を概ね妥当と捉えており，「評価の低かった項目の評価を上げるよう努力している」という回答率が昨年度よりやや上昇した。この点に関しては「学生による授業評価」は教員の教育改善には有効であると思われる。しかし，学科また教員により捉え方に大きな差があるのも事実であり，教員の教育改善に対する全体的な把握のためにも，自己評価委員会・教育改善委員会が開催する「アンケート調査報告会」への参加を呼びかけるなどしてＦＤ活動の充実を図る必要があると思われる。

（３）ＦＤについて

今年度の学部主催ＦＤ活動は３回実施された。８割強の教員が１回以上参加した。また学科主催のＦＤ活動にもかなり多くの教員が参加し，ＦＤ活動の参加は教育改善に効果があると認識していた。しかし，大学全体のＦＤ活動への参加（参加率２割弱）は非常に少なく，昨年と同様，学部・学科のＦＤとの温度差はまだ見られた。

（４）学生の学習促進について

このアンケート結果によると，多くの教員は学生が授業時間以外に学習するための促進に向けた対応として，「口頭での予習・復習の呼びかけ」「小試験」「課題を課す」等を実施していることが分かる。しかし，学生への「1日の学習時間」の質問項目では，授業時間以外で学習に当てる時間はそれほど長くないことが示されている。教員側の学生に対する要求（呼びかけ）と学生の受取り方（何を勉強して良いか）に差があるように思える。学生のより一層の学習意欲向上と，自発的な学習が重要である。そのためにも，教員側にとって学生への学習促進策の検討が今後の課題でもある。

弘前大学農学生命科学部・農学生命科学研究科

「平成 25 年度　教育改善に向けたアンケート調査報告書」編集担当者

平成 26 年度　農学生命科学部　自己評価委員

生物学科	石田　清
分子生命科学科	吉田　孝
生物資源学科	戸羽　隆宏（編集責任者）
園芸農学科	武田　共治
地域環境工学科	檜垣　大助
生物共生教育研究センター	房　家琛